

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック 医薬品使用割合について

～国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果～

(令和7年度)

山梨県保険者協議会

目 次

1.	目的	1
2.	分析対象	3
3.	算出方法	3
4.	統計分析	
	(1) 薬効分類別の使用割合	4
	(2) 年齢階級別の使用割合	9
	(3) 若い世代における薬効分類別の使用割合	32
	(4) 後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合	40
	(5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合	52
	(6) 山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合	55
5.	まとめ	65

■年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合
～データ分析(数量ベース)～

1. 目的

国では、令和6年3月14日開催された、社会保障審議会医療保険部会において、医薬品の安定的な供給を基本としつつ、後発医薬品の数量シェアを令和11年度末までに全ての都道府県で80%以上を主目標とする方針が示されている。

政府目標の設定を踏まえ、山梨県においても、第4期山梨県医療費適正化計画において、後発医薬品の使用割合を80%とすることを目標としている。

山梨県の、令和7年9月時点での使用割合は91.5%となっており、国及び山梨県の目標は達成しているが、順位は横ばいの状況である。

このようなことから、本協議会では昨年度と同様に、ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)について、国保と協会けんぽのデータを統合した分析を行うとともに、後期高齢者医療のデータを分析し、幅広い年齢層の状況を把握する資料を作成した。

ー山梨県のジェネリック医薬品使用割合(順位)ー

単位(%)

対象年月	令和3年度 4月～3月	令和4年度 4月～3月	令和5年度 4月～3月	令和6年度 4月～3月	令和7年 9月
使用割合	81.9	83.1	84.7	88.4	91.5
順位	34	34	34	34	33

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

—都道府県別ジェネリック医薬品使用割合(順位別)—

単位(%)

	県名	令和3年度 4月～3月	県名	令和4年度 4月～3月	県名	令和5年度 4月～3月	県名	令和6年度 4月～3月	県名	令和7年 9月
	全国	82.0	全国	83.2	全国	84.6	全国	88.4	全国	91.4
1	沖縄	89.3	沖縄	89.9	沖縄	91.0	沖縄	93.0	沖縄	94.6
2	鹿児島	87.0	鹿児島	88.0	鹿児島	89.3	鹿児島	91.7	岩手	93.5
3	岩手	86.4	岩手	87.1	山形	88.5	山形	91.3	鹿児島	93.4
4	宮崎	85.7	宮崎	86.8	宮崎	88.4	岩手	91.3	島根	93.3
5	山形	85.4	山形	86.7	岩手	88.4	宮崎	91.2	山形	93.2
6	島根	85.3	島根	86.4	島根	88.1	島根	91.0	宮崎	93.2
7	熊本	84.7	鳥取	85.9	熊本	87.5	熊本	90.5	鳥取	92.9
8	群馬	84.7	熊本	85.8	鳥取	87.4	群馬	90.2	群馬	92.8
9	鳥取	84.7	群馬	85.6	群馬	87.2	鳥取	90.2	秋田	92.7
10	宮城	84.4	宮城	85.5	長野	86.9	宮城	90.2	福島	92.7
11	長野	84.3	長野	85.4	宮城	86.9	佐賀	90.1	山口	92.7
12	佐賀	84.1	栃木	85.2	山口	86.8	山口	90.1	熊本	92.6
13	山口	84.0	新潟	85.1	新潟	86.8	新潟	89.9	佐賀	92.5
14	新潟	83.9	山口	85.1	佐賀	86.8	長野	89.8	長野	92.4
15	栃木	83.8	佐賀	85.0	栃木	86.7	栃木	89.7	宮城	92.4
16	富山	83.6	富山	84.5	福島	86.1	秋田	89.7	北海道	92.4
17	北海道	83.4	福島	84.5	福井	86.0	福島	89.6	新潟	92.3
18	福井	83.3	静岡	84.4	長崎	86.0	愛媛	89.5	長崎	92.2
19	岡山	83.3	長崎	84.3	富山	86.0	福井	89.5	愛媛	92.2
20	長崎	83.2	岡山	84.3	秋田	86.0	長崎	89.5	栃木	92.2
21	静岡	83.2	秋田	84.2	静岡	85.9	静岡	89.4	静岡	92.2
22	福島	83.1	北海道	84.2	愛媛	85.9	愛知	89.4	福井	92.2
23	秋田	83.0	福井	84.2	愛知	85.7	富山	89.3	富山	92.2
24	愛媛	83.0	愛媛	84.2	岡山	85.7	北海道	89.2	愛知	92.2
25	福岡	82.8	愛知	84.1	北海道	85.7	埼玉	89.1	石川	92.1
26	大分	82.7	埼玉	84.0	埼玉	85.7	岡山	88.9	岡山	91.9
27	埼玉	82.7	福岡	83.9	大分	85.4	大分	88.9	埼玉	91.9
28	愛知	82.7	大分	83.8	福岡	85.4	石川	88.9	岐阜	91.8
29	石川	82.4	千葉	83.7	千葉	85.3	福岡	88.9	福岡	91.7
30	千葉	82.3	三重	83.6	三重	85.2	千葉	88.7	大分	91.7
31	三重	82.3	滋賀	83.5	石川	85.1	三重	88.7	千葉	91.6
32	滋賀	82.2	石川	83.5	滋賀	85.0	滋賀	88.6	滋賀	91.5
33	青森	82.0	青森	83.2	青森	84.8	岐阜	88.5	山梨	91.5
34	山梨	81.9	山梨	83.1	山梨	84.7	山梨	88.4	青森	91.4
35	茨城	81.7	茨城	83.0	茨城	84.7	青森	88.3	茨城	91.2
36	兵庫	81.0	岐阜	82.5	岐阜	84.3	茨城	88.3	三重	91.2
37	岐阜	81.0	兵庫	82.2	兵庫	83.8	兵庫	87.5	広島	90.8
38	神奈川	80.2	神奈川	81.6	和歌山	83.4	和歌山	87.5	兵庫	90.7
39	広島	80.1	広島	81.4	広島	83.2	広島	87.4	和歌山	90.6
40	和歌山	80.1	和歌山	81.4	神奈川	83.2	神奈川	87.1	大阪	90.4
41	香川	80.0	大阪	81.0	香川	82.9	大阪	87.0	神奈川	90.4
42	大阪	79.8	香川	80.8	大阪	82.9	香川	86.9	香川	90.3
43	京都	79.6	京都	80.8	京都	82.7	京都	86.7	京都	90.2
44	高知	79.3	奈良	80.5	奈良	82.1	高知	86.0	高知	90.0
45	奈良	79.2	高知	80.3	高知	81.9	奈良	85.9	奈良	89.5
46	東京	78.4	東京	79.9	東京	81.6	東京	85.5	徳島	89.1
47	徳島	78.4	徳島	79.3	徳島	81.1	徳島	85.5	東京	88.9

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

※順位付けは、小数点以下四捨五入しない数値を使用

2. 分析対象

- 国保(一般分、退職分、組合分)・協会けんぽ(一般分)、後期高齢者医療の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて分析したものである。(ただし、電子レセプトに限る。)
- DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを分析対象としている。
- 再審査分を除くレセプトを分析対象としている。
- 令和7年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用
- 今回の統計資料作成において、国保、協会けんぽともに処方がない以下12の薬剤については対象外としている。(後期高齢者医療のデータも同様)
 - 19. その他の神経系及び感覚器用医薬品、41. 細胞賦活用薬、
 - 49. その他の組織細胞機能用医薬品、51. 生薬、52. 漢方製剤、
 - 59. その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品、63. 生物学的製剤、
 - 64. 寄生動物用薬、69. その他の病原生物に対する医薬品、71. 調剤用薬、
 - 73. 公衆衛生用薬、74. 体外診断用医薬品

【令和7年9月被保険者数】

- ・山梨県全体 784,175人 (山梨県HPより 令和7年9月1日現在)
- ・国保: 158,775人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和7年9月末現在)
- ・協会けんぽ: 243,480人 (被保険者数 157,392人、被扶養者数 86,088人)(協会けんぽHPより)
- ・後期: 144,971人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和7年9月末現在)

○合計(国保+協会けんぽ) 402,255人 (県全体に対する割合 51.3%≒51%)

○合計(国保+協会けんぽ+後期)547,226人 (県全体に対する割合 69.8%≒70%)

3. 算出方法

- $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]}$ で算出している。なお、項目の「対象薬剤数」とは $[\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]$ 「切替薬剤数」とは $[\text{後発医薬品の数量}]$ の事を示す。
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
- 薬効分類は37薬剤に分類、「日本標準商品分類」の「中分類 87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 年齢階級は5歳刻み、年齢は実際の診療年月末日時点で判別している。

4. 統計分析 (1)薬効分類別の使用割合 (資料No.1-1、1-2、1-3、1-4)

《使用割合の状況(総数)》

○0歳から74歳までの使用割合の総数は、89.4%であり、昨年度より6.1ポイント伸びており、国及び山梨県で掲げた目標値80%を超えている。

※資料No.1-4より

	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
使用割合(総数)	83.3%	89.4%	6.1

《使用割合の状況(薬効分類別)》

○全年齢階級対象に薬効分類別で見ると、使用割合が高い薬剤は歯科口腔用薬96.7%、泌尿生殖器官及び肛門用薬96.1%、ビタミン剤94.1%という状況である。

○また、使用割合が低い薬剤は放射性医薬品0.0%、その他の個々の器官系用医薬品13.1%、その他の治療を主目的としない医薬品33.3%という状況である。

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,983/2,050)	96.7%	放射性医薬品 (0/1,574)	0.0%
泌尿生殖器官及び肛門用薬 (261,516/272,095)	96.1%	その他の個々の器官系用医薬品 (227/1,731)	13.1%
ビタミン剤 (729,966/776,046)	94.1%	その他の治療を主目的としない 医薬品(1/3)	33.3%

《昨年度との比較》

○昨年度から最も伸びたのは、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)であり、58.3ポイント伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】 ※資料No.1-4より

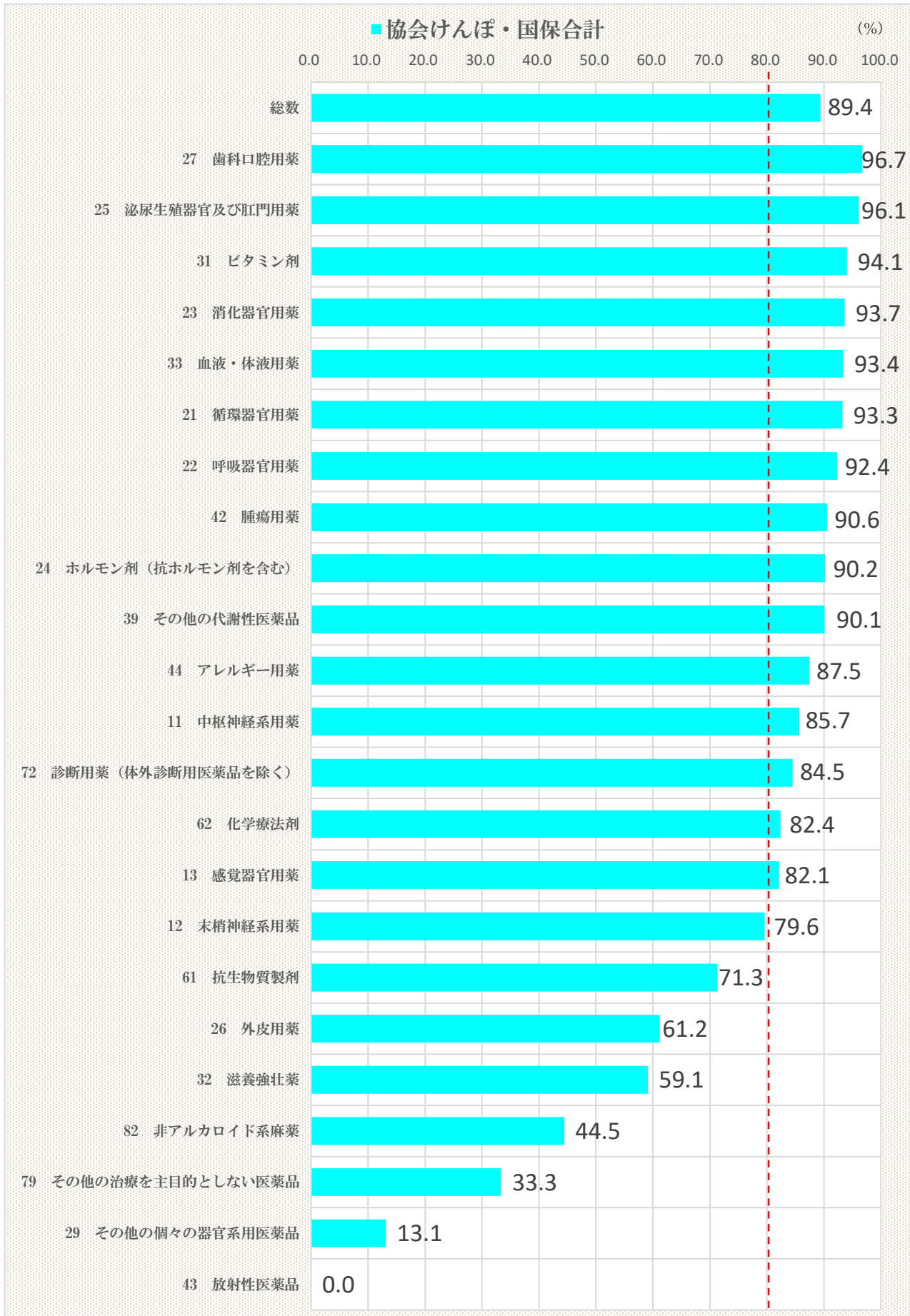
薬効分類別	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	26.2%	84.5%	58.3
61 抗生物質製剤	43.9%	71.3%	27.4
62 化学療法剤	68.4%	82.4%	14.0

《ジェネリック医薬品の供給不足》

○令和8年1月時点で2,344品目(全体の14%)(後発品1,472品目を含む)が限定出荷・供給停止であり、限定出荷の要因としては「自社の事情」によるものが最多である。

薬効分類別の使用割合

資料No.1-1



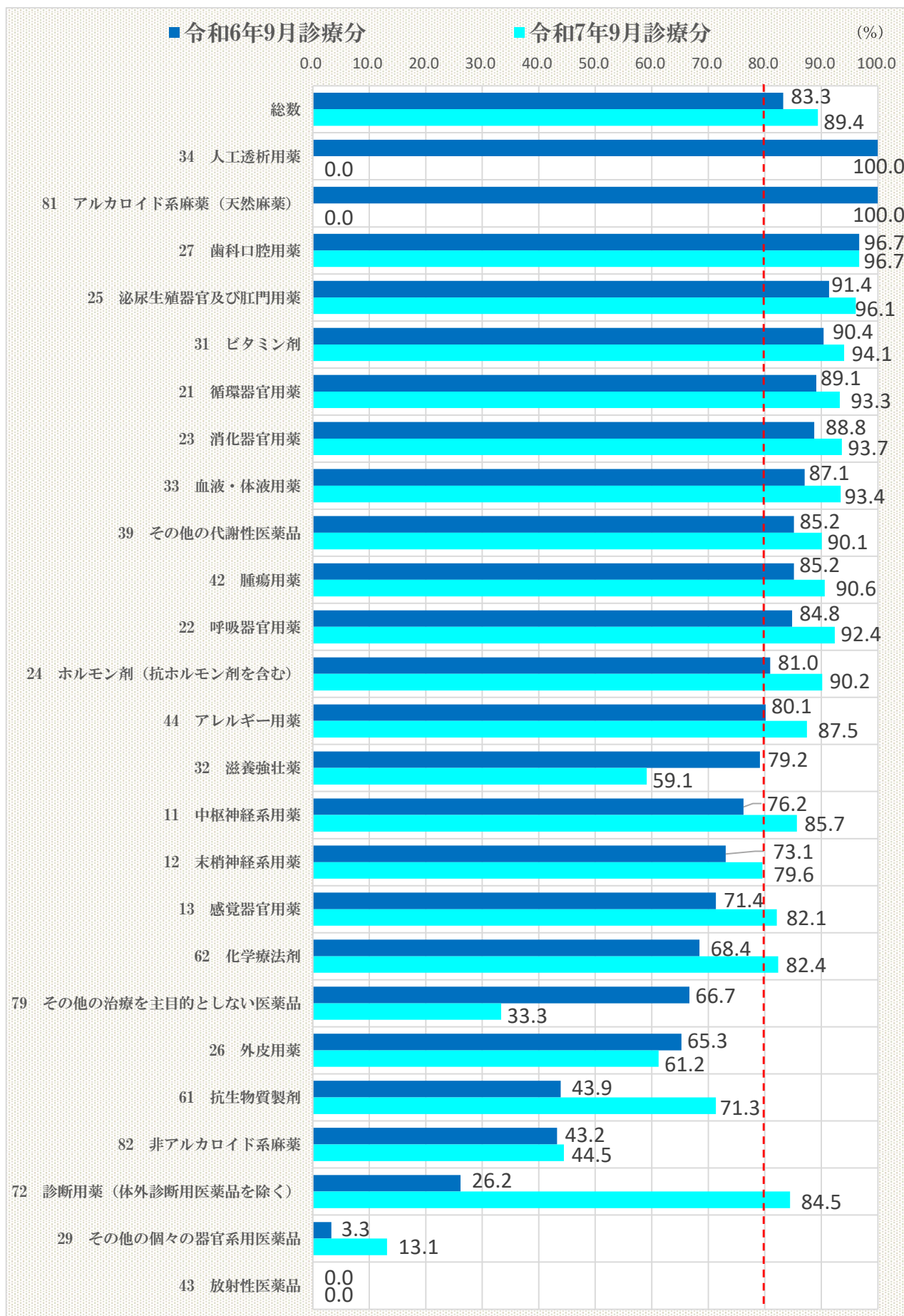
薬効分類別の使用割合

資料No.1-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	89.4	20,134,922	17,999,200
27 歯科口腔用薬	96.7	2,050	1,983
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	96.1	272,095	261,516
31 ビタミン剤	94.1	776,046	729,966
23 消化器官用薬	93.7	2,584,344	2,420,677
33 血液・体液用薬	93.4	1,740,902	1,626,628
21 循環器官用薬	93.3	5,661,919	5,281,226
22 呼吸器官用薬	92.4	611,817	565,367
42 腫瘍用薬	90.6	85,106	77,114
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	90.2	253,962	229,039
39 その他の代謝性医薬品	90.1	1,451,315	1,307,685
44 アレルギー用薬	87.5	1,360,472	1,190,055
11 中枢神経系用薬	85.7	3,753,987	3,216,472
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	84.5	1,534	1,296
62 化学療法剤	82.4	88,757	73,111
13 感覚器官用薬	82.1	298,973	245,557
12 末梢神経系用薬	79.6	233,042	185,513
61 抗生物質製剤	71.3	44,005	31,394
26 外皮用薬	61.2	787,484	481,911
32 滋養強壯薬	59.1	118,997	70,326
82 非アルカロイド系麻薬	44.5	4,805	2,136
79 その他の治療を主目的としない医薬品	33.3	3	1
29 その他の個々の器官系用医薬品	13.1	1,731	227
43 放射性医薬品	0.0	1,574	0

薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-3



薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-4

薬効分類別	令和6年9月診療分			令和7年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	83.3	21,376,905	17,799,432	89.4	20,134,922	17,999,200
34 人工透析用薬	100.0	54	54	0.0	0	0
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	100.0	169	169	0.0	0	0
27 歯科口腔用薬	96.7	2,065	1,997	96.7	2,050	1,983
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	91.4	270,706	247,442	96.1	272,095	261,516
31 ビタミン剤	90.4	739,349	668,499	94.1	776,046	729,966
21 循環器官用薬	89.1	5,693,050	5,074,940	93.3	5,661,919	5,281,226
23 消化器官用薬	88.8	2,782,883	2,470,607	93.7	2,584,344	2,420,677
33 血液・体液用薬	87.1	1,615,024	1,406,273	93.4	1,740,902	1,626,628
39 その他の代謝性医薬品	85.2	1,505,060	1,281,986	90.1	1,451,315	1,307,685
42 腫瘍用薬	85.2	81,720	69,595	90.6	85,106	77,114
22 呼吸器官用薬	84.8	1,097,655	931,294	92.4	611,817	565,367
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	81.0	229,282	185,670	90.2	253,962	229,039
44 アレルギー用薬	80.1	1,358,247	1,088,488	87.5	1,360,472	1,190,055
32 滋養強壮薬	79.2	137,508	108,838	59.1	118,997	70,326
11 中枢神経系用薬	76.2	3,802,860	2,898,759	85.7	3,753,987	3,216,472
12 末梢神経系用薬	73.1	234,032	171,007	79.6	233,042	185,513
13 感覚器官用薬	71.4	277,819	198,262	82.1	298,973	245,557
62 化学療法剤	68.4	95,054	65,053	82.4	88,757	73,111
79 その他の治療を主目的としない医薬品	66.7	3	2	33.3	3	1
26 外皮用薬	65.3	1,374,900	897,209	61.2	787,484	481,911
61 抗生物質製剤	43.9	70,053	30,733	71.3	44,005	31,394
82 非アルカロイド系麻薬	43.2	5,436	2,351	44.5	4,805	2,136
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	26.2	553	145	84.5	1,534	1,296
29 その他の個々の器官系用医薬品	3.3	1,816	60	13.1	1,731	227
43 放射性医薬品	0.0	1,608	0	0.0	1,574	0

4. 統計分析 (2)年齢階級別の使用割合 (資料No.2-1、2-2、2-3、2-4)

《使用割合が高い年齢階級の状況》

○年齢別に見ると最も高い年齢階級が0歳から4歳であり、使用割合は91.3%、次いで55歳から59歳、65歳から69歳の90.0%である。

《昨年度との比較》

○昨年度と比較すると、全ての年齢階級共に使用割合は伸びている。

○15歳から19歳の年齢階級は、12.2ポイントの最も高い伸びとなっている。

○使用割合が低い10歳から14歳の年齢階級は、86.5%であり、すべての年齢階級において着実に伸びている状況である。

○また、すべての年齢階級で国及び山梨県の目標である80%を達成している。

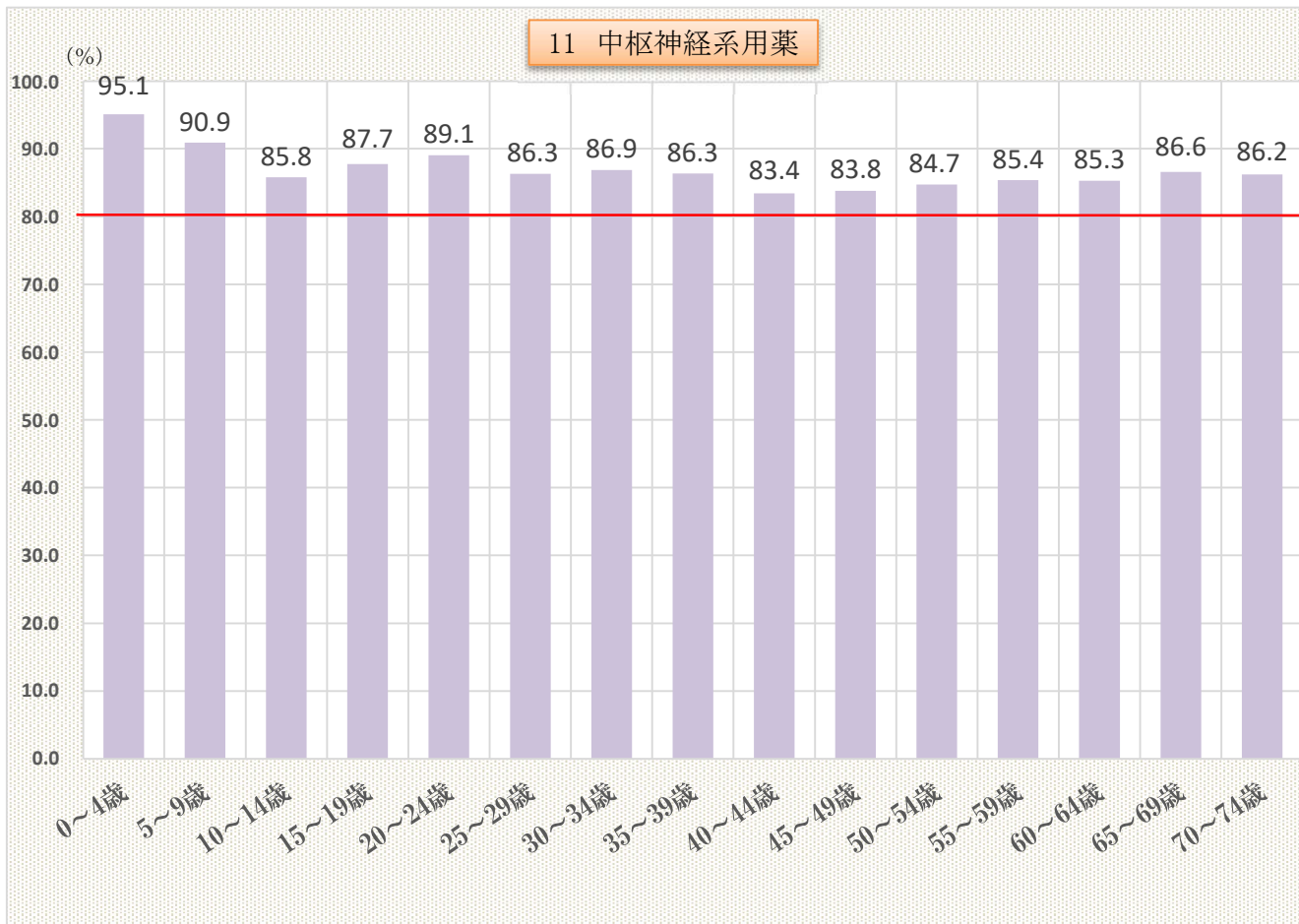
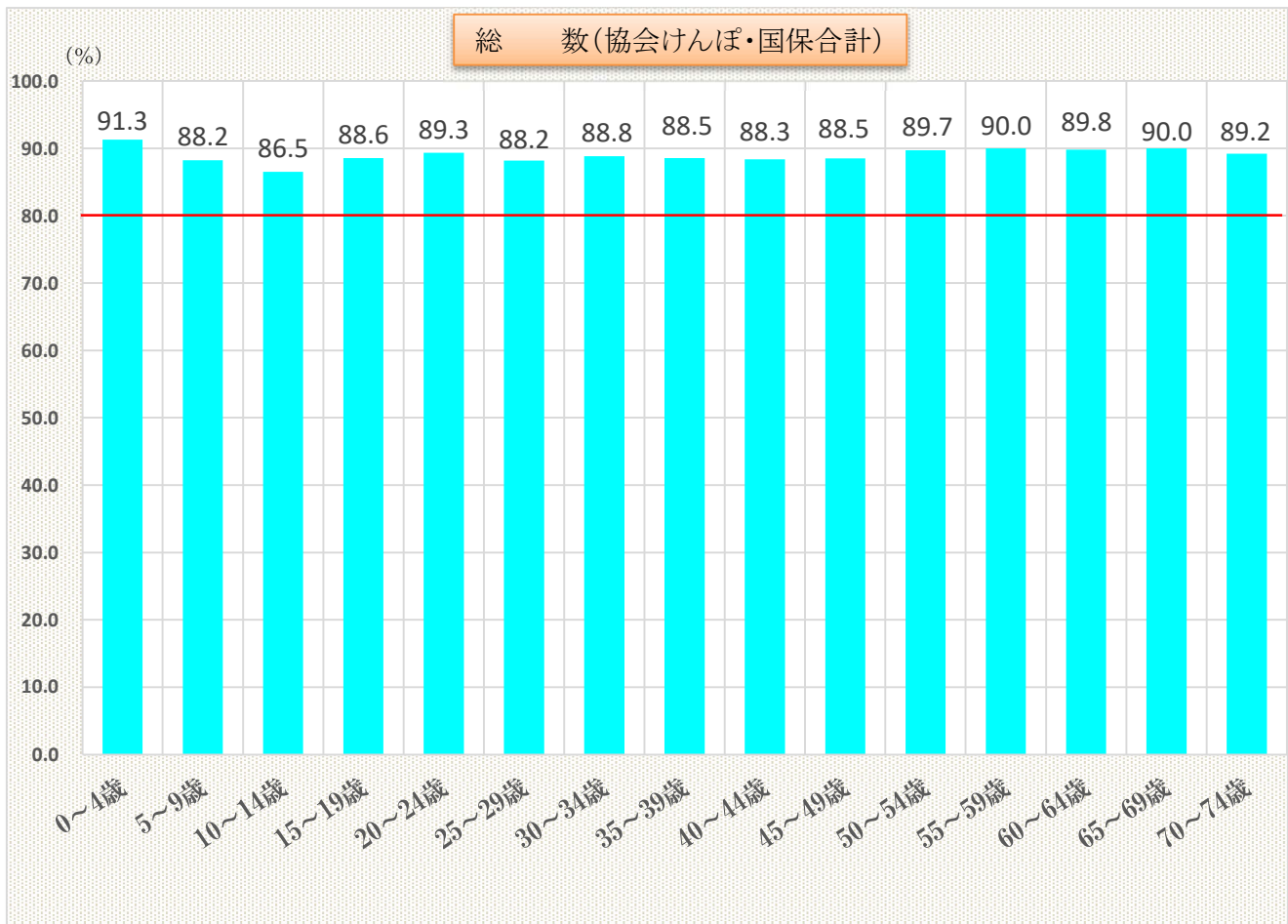
【年齢階級別使用割合(%)】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差(%pt)
0歳から4歳	80.8	91.3	10.5
5歳から9歳	78.5	88.2	9.7
10歳から14歳	77.5	86.5	9.0
15歳から19歳	76.4	88.6	12.2
20歳から24歳	82.3	89.3	7.0
25歳から29歳	83.7	88.2	4.5
30歳から34歳	83.0	88.8	5.8
35歳から39歳	81.4	88.5	7.1
40歳から44歳	81.8	88.3	6.5
45歳から49歳	81.9	88.5	6.6
50歳から54歳	84.0	89.7	5.7
55歳から59歳	83.8	90.0	6.2
60歳から64歳	83.8	89.8	6.0
65歳から69歳	84.8	90.0	5.2
70歳から74歳	83.9	89.2	5.3

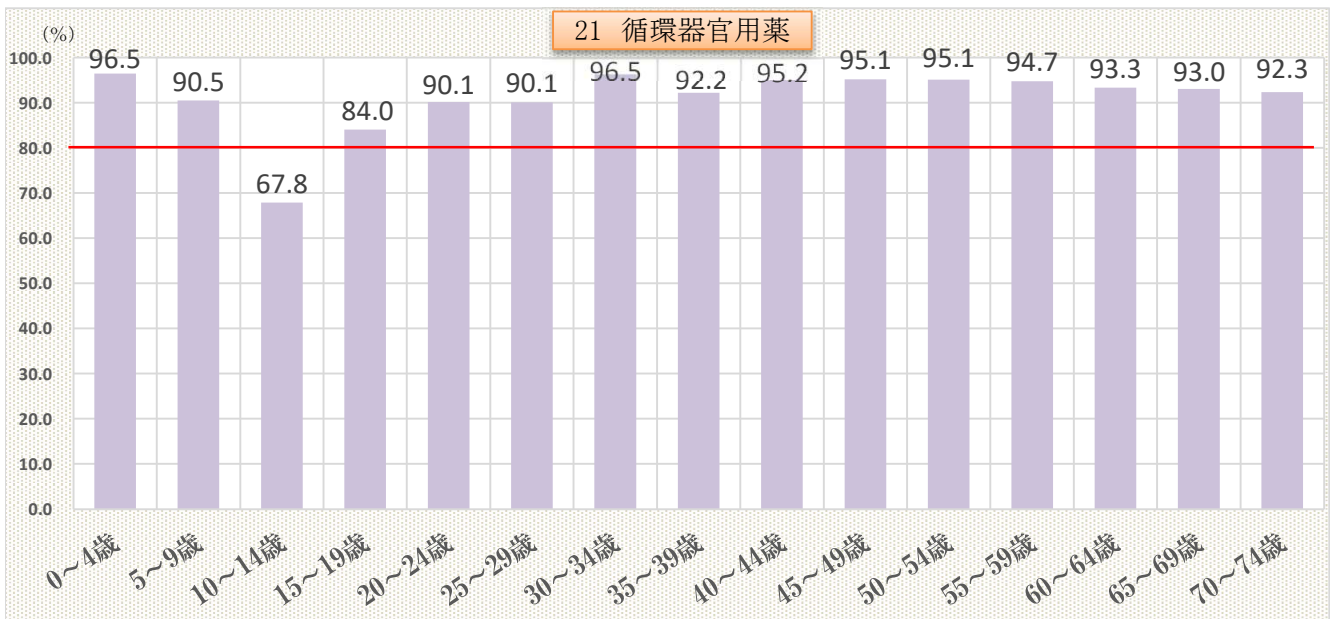
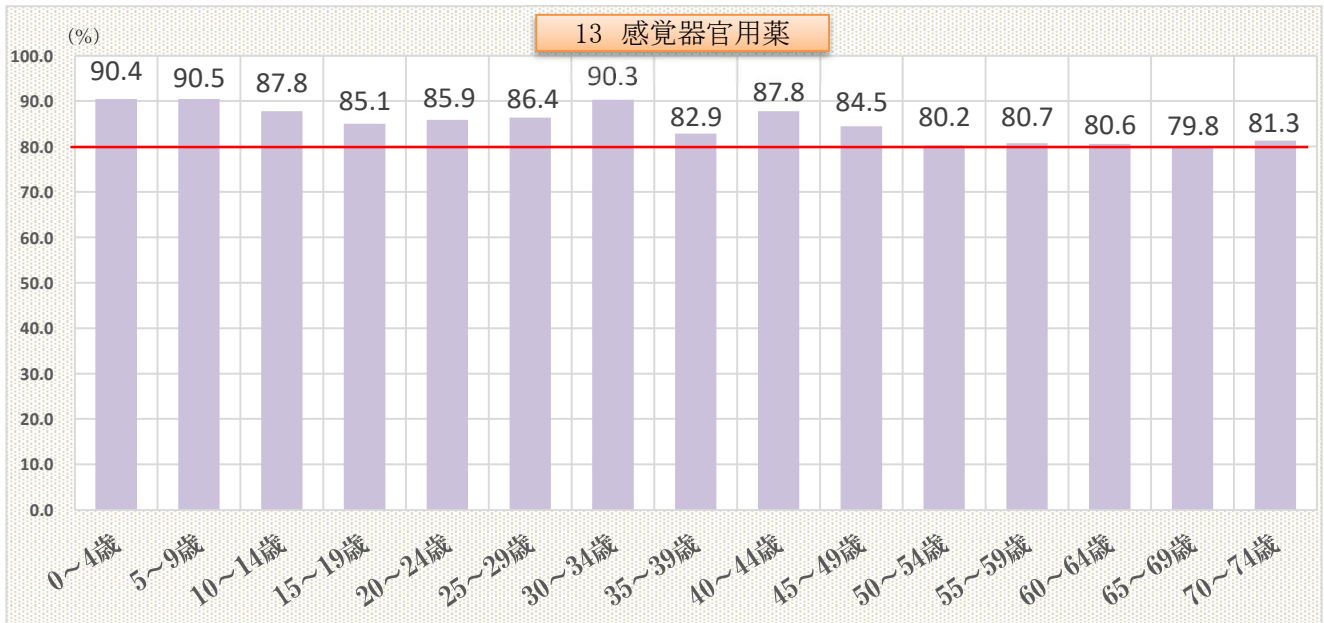
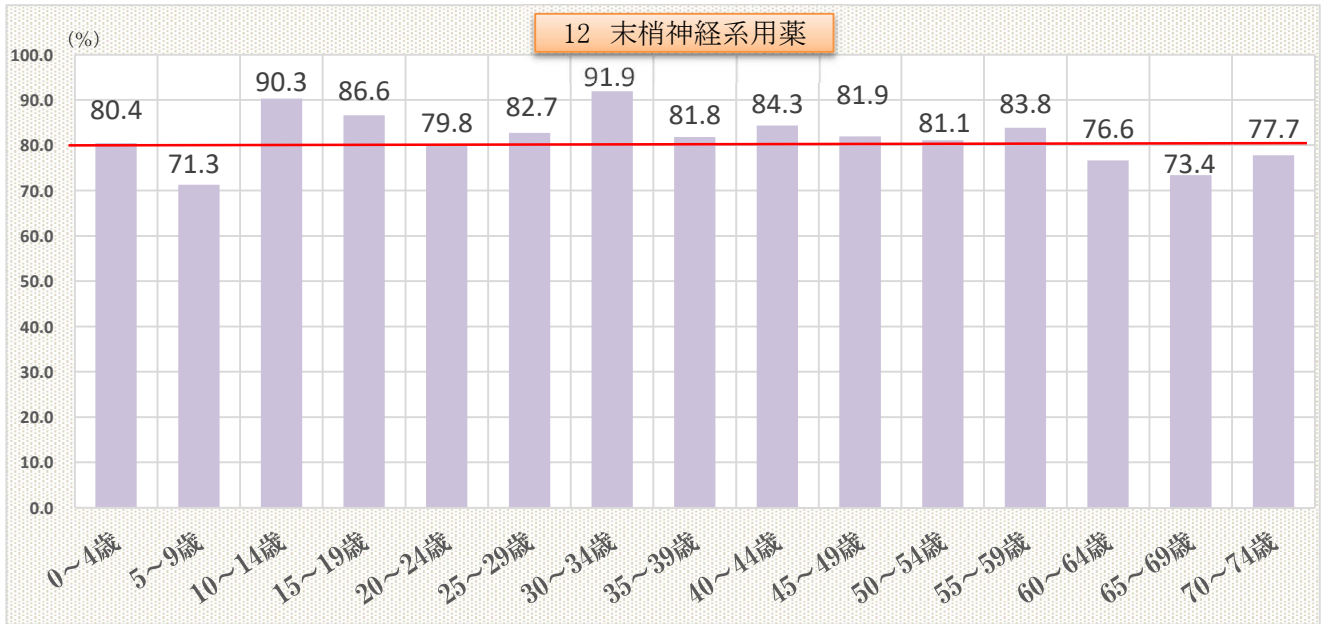
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



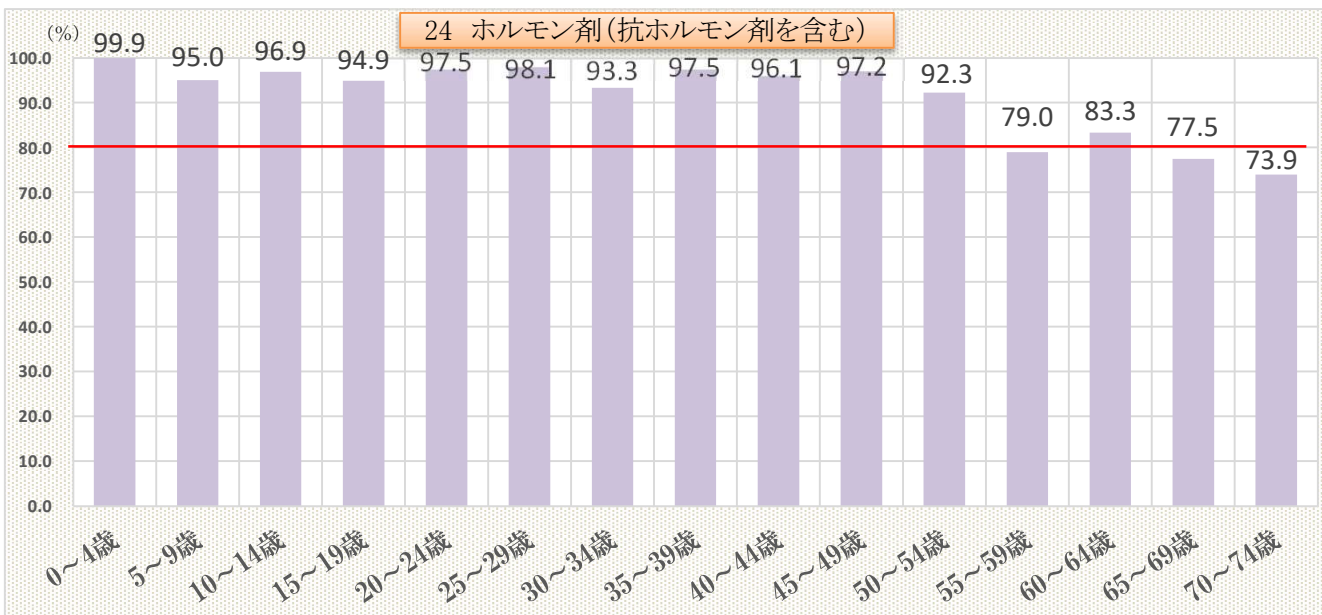
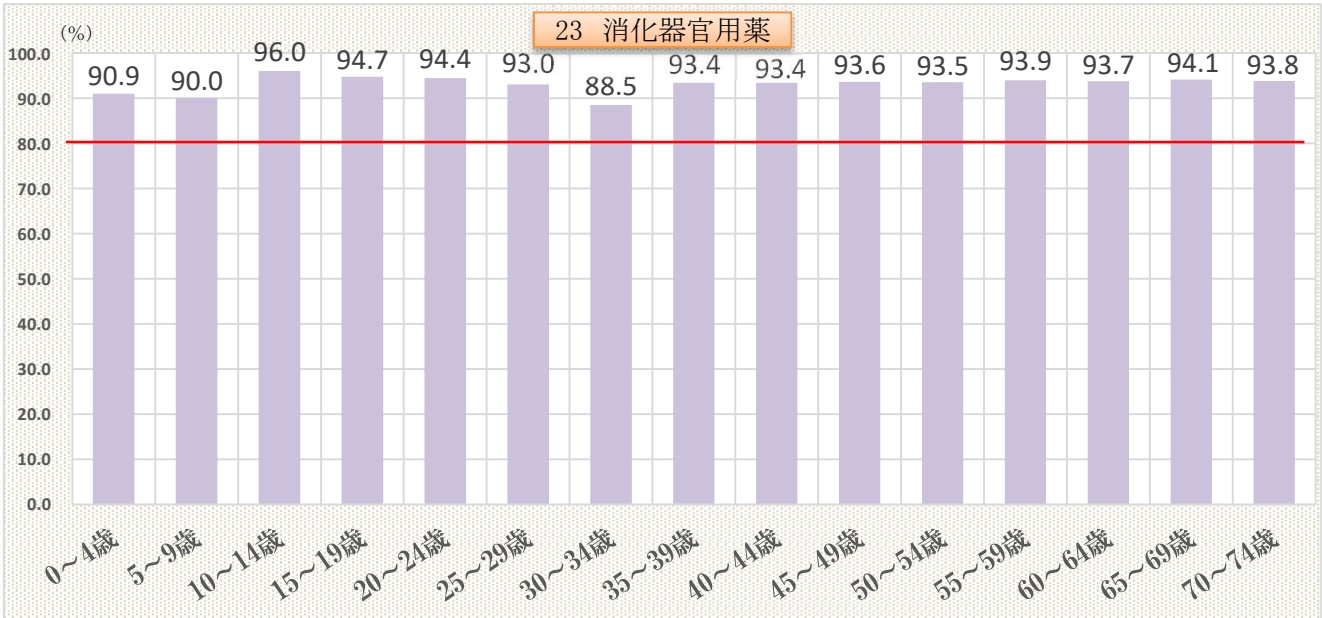
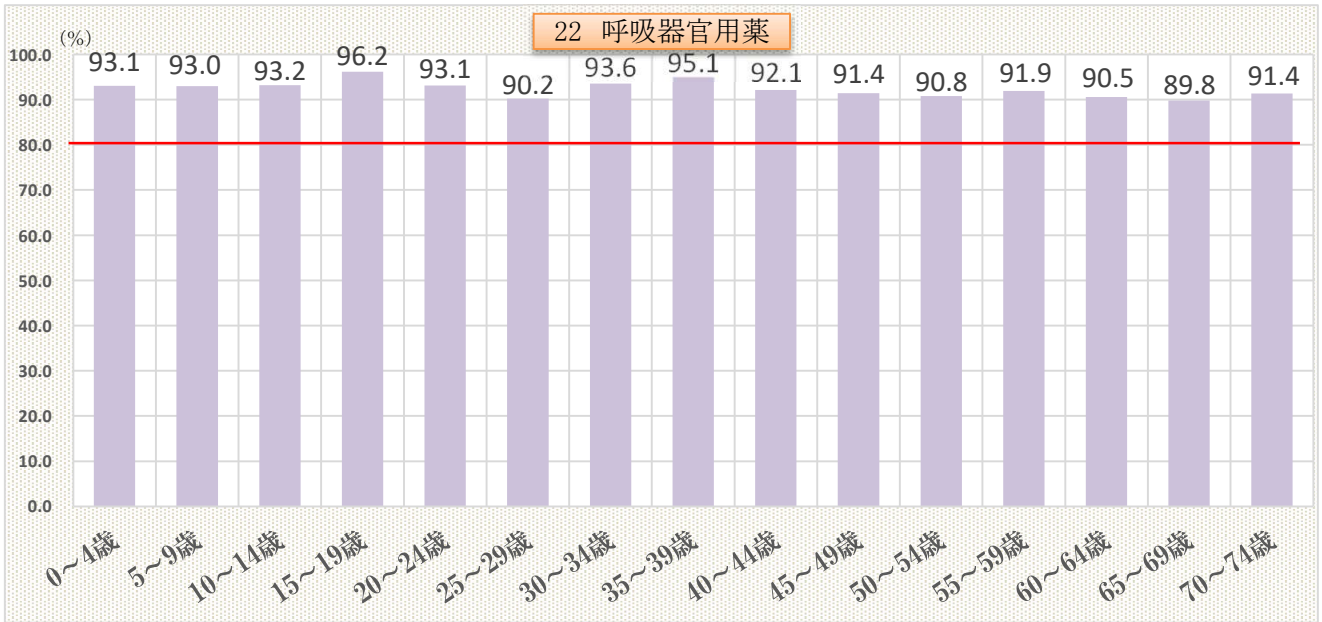
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



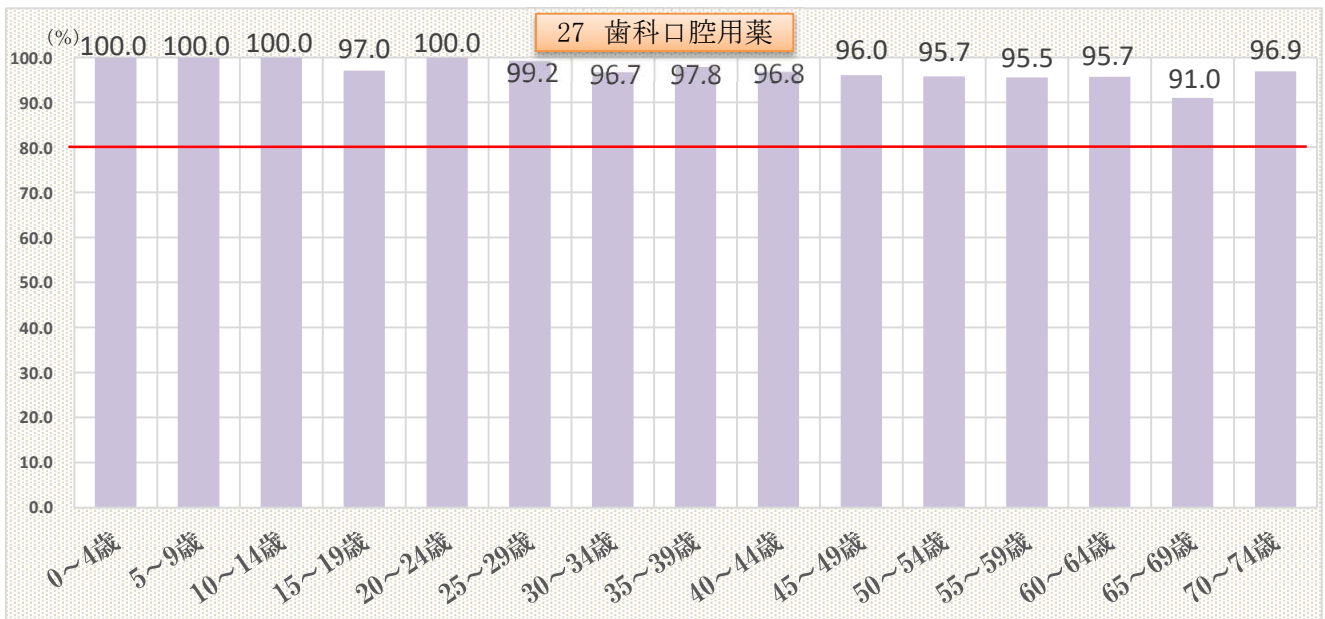
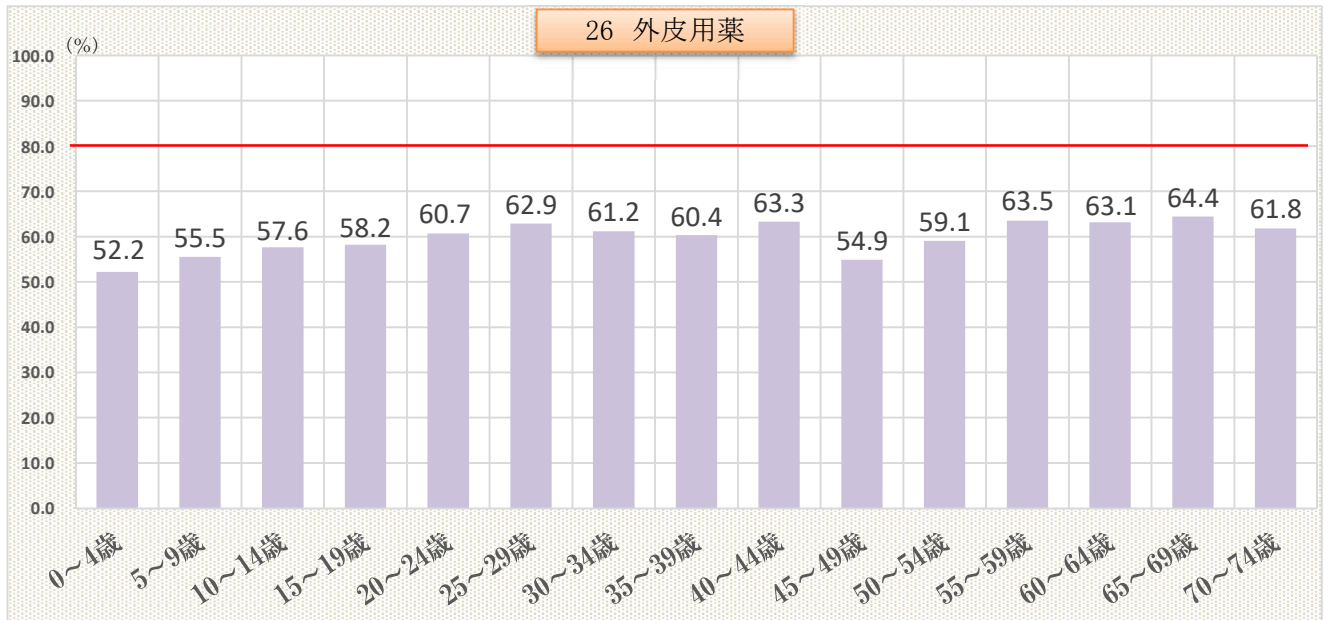
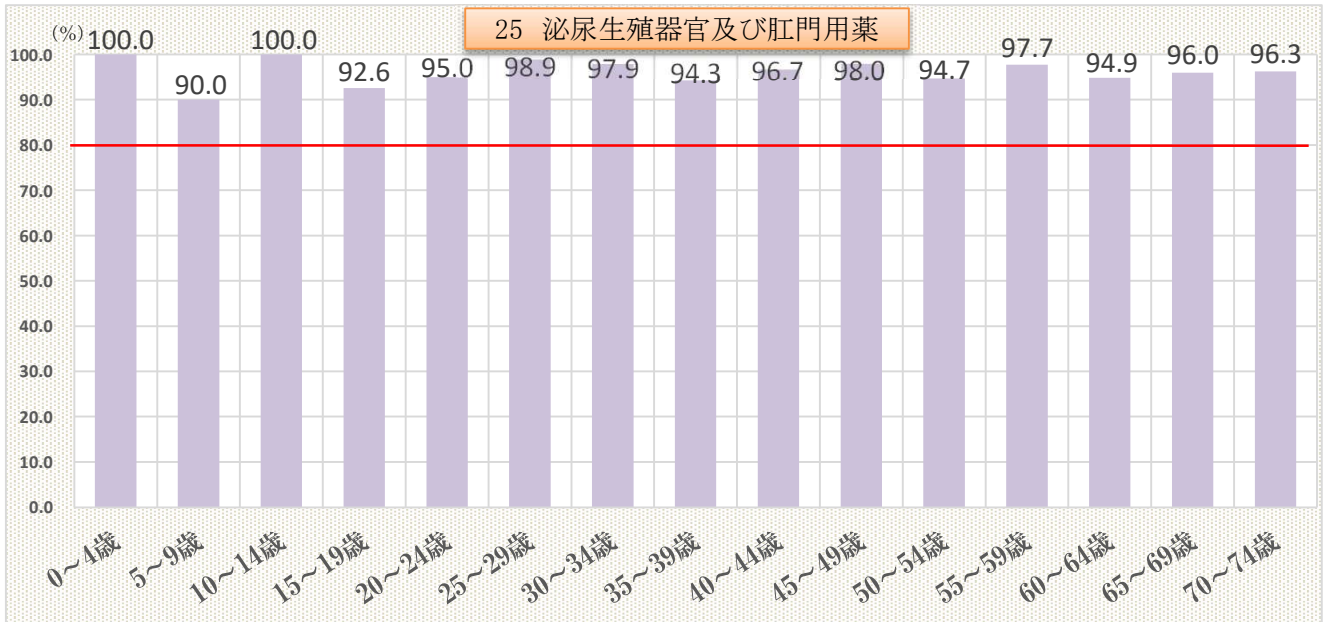
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



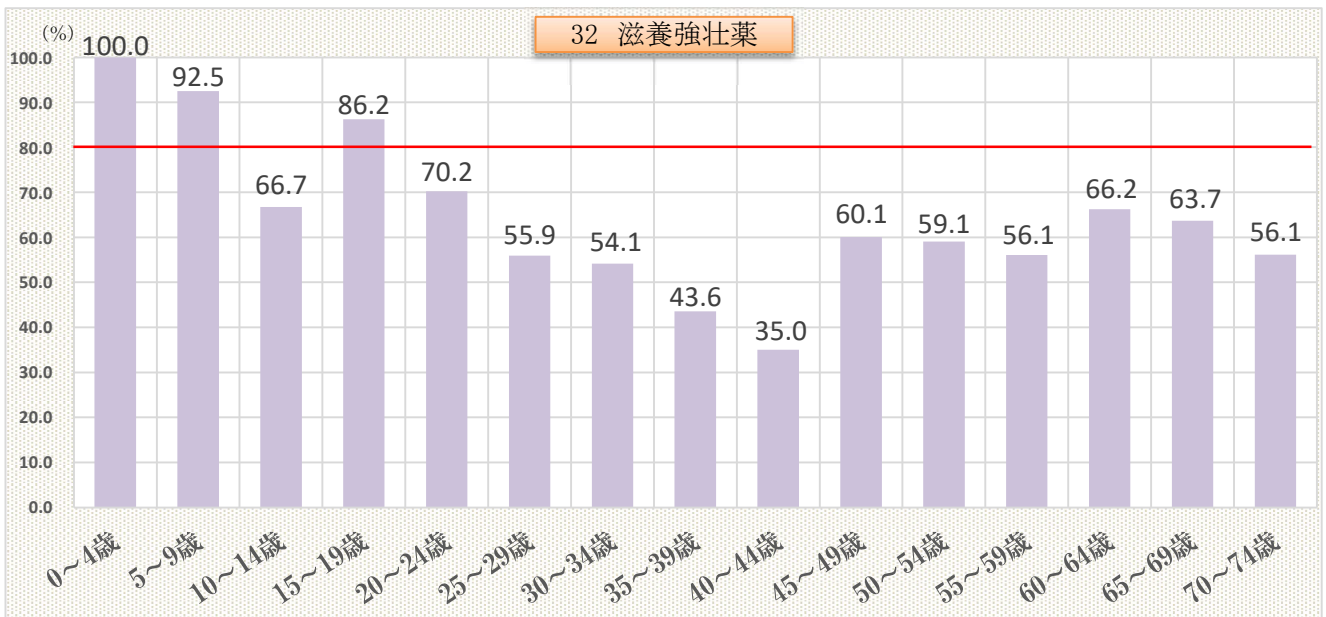
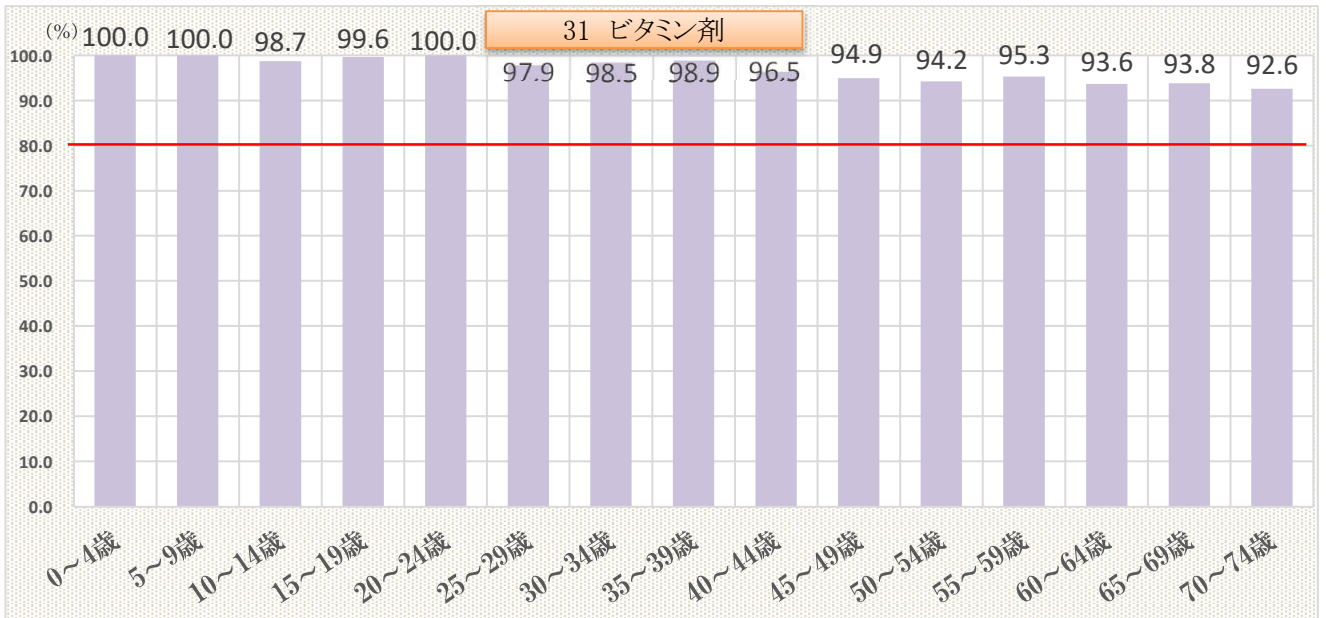
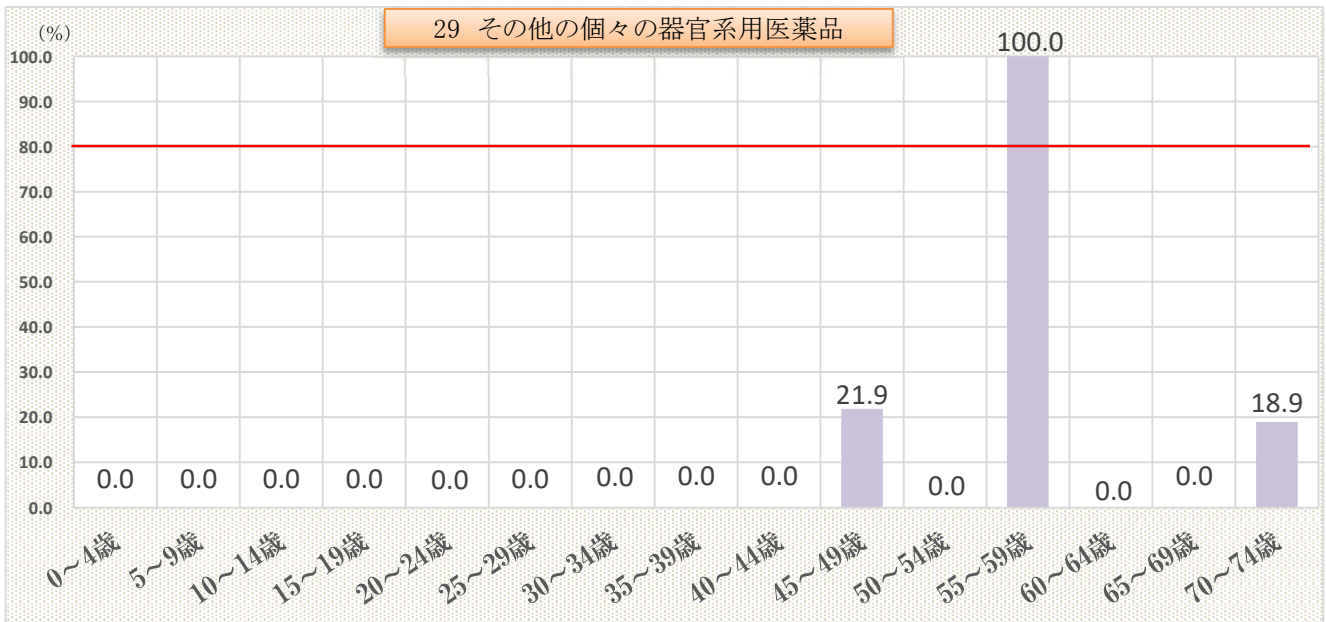
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



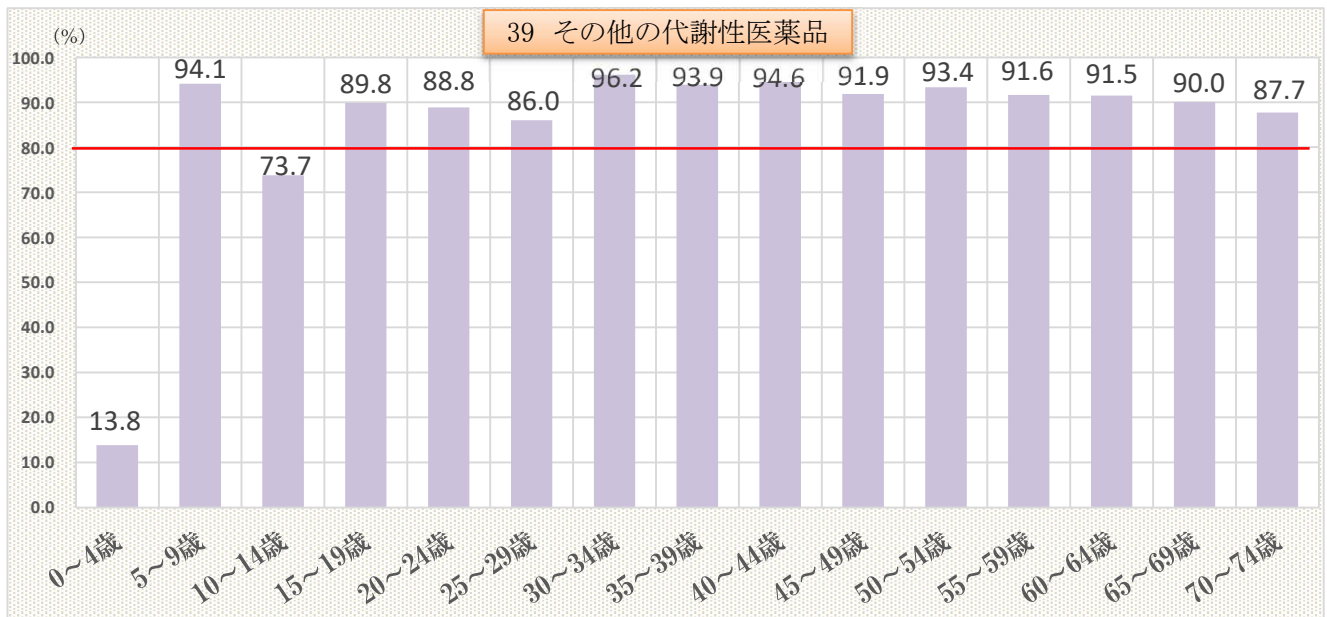
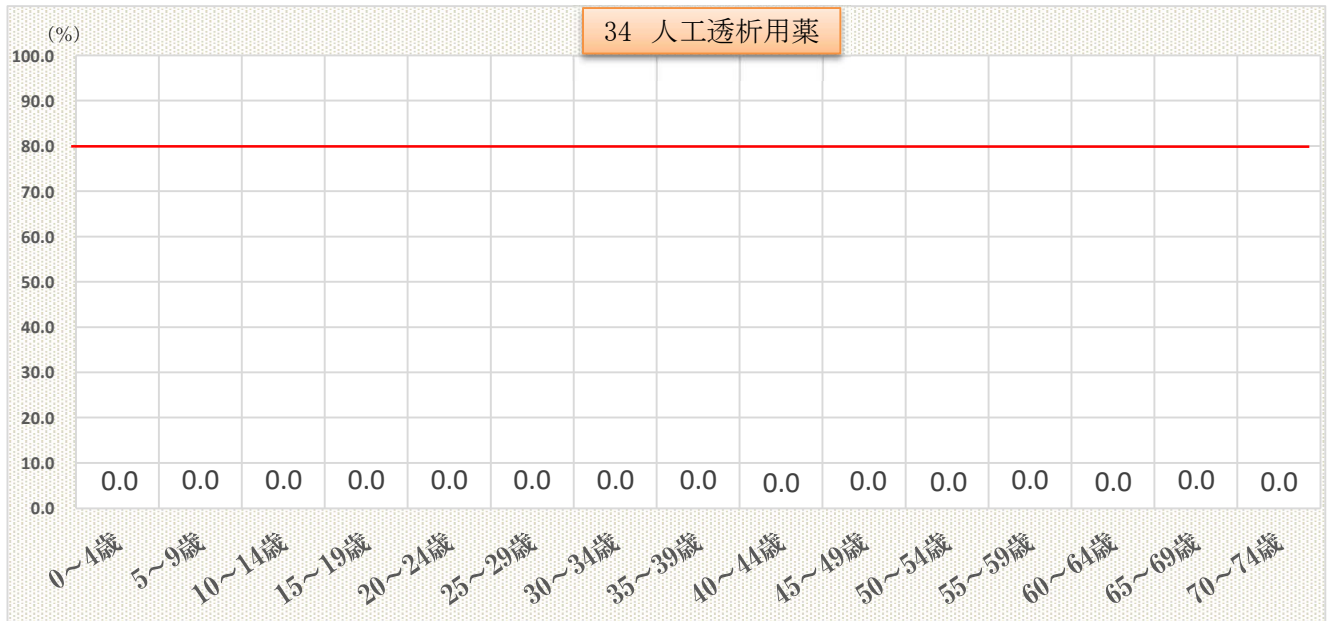
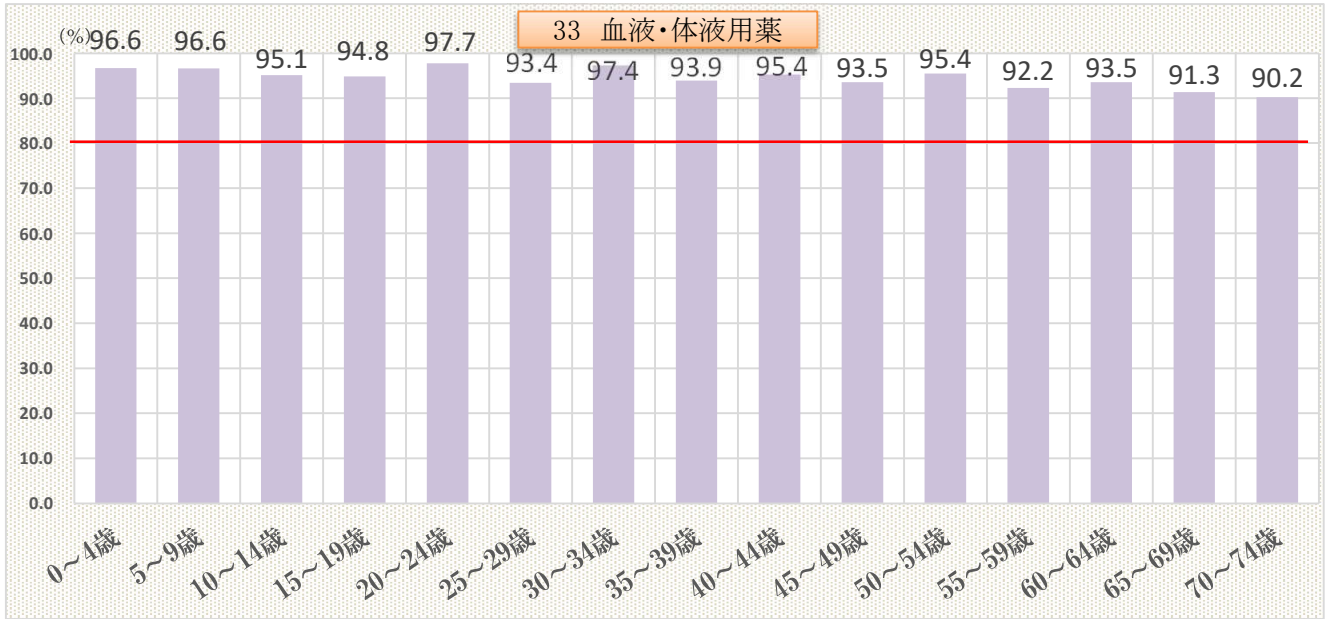
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



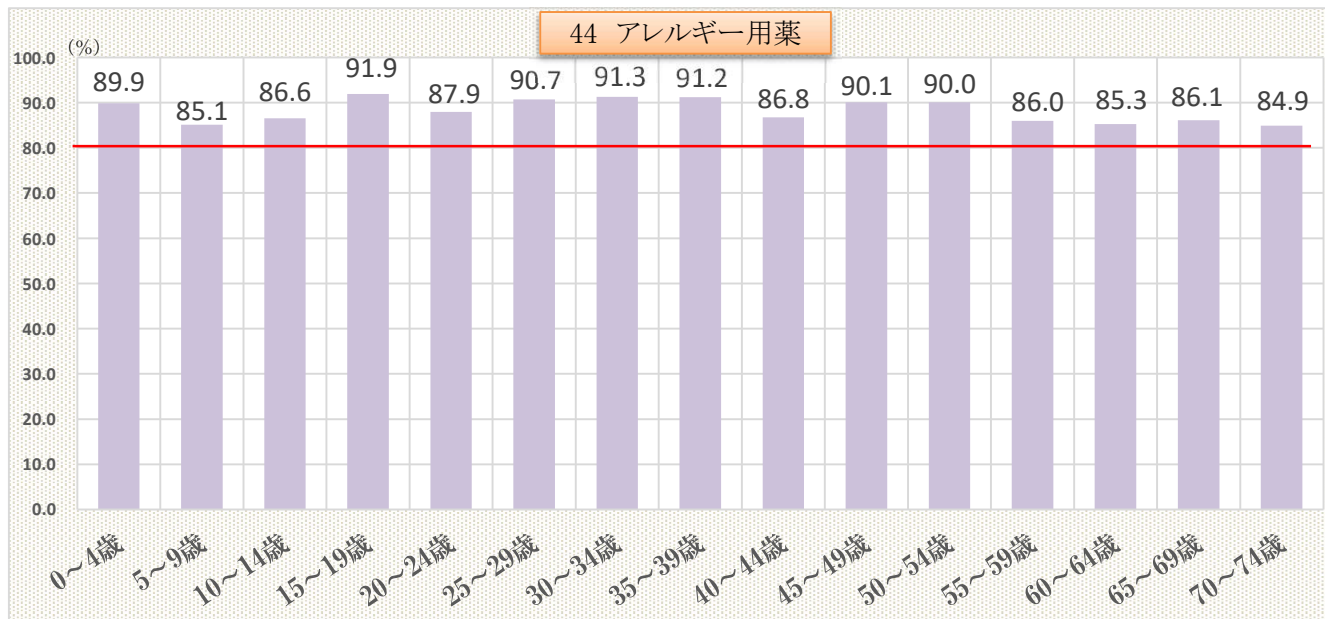
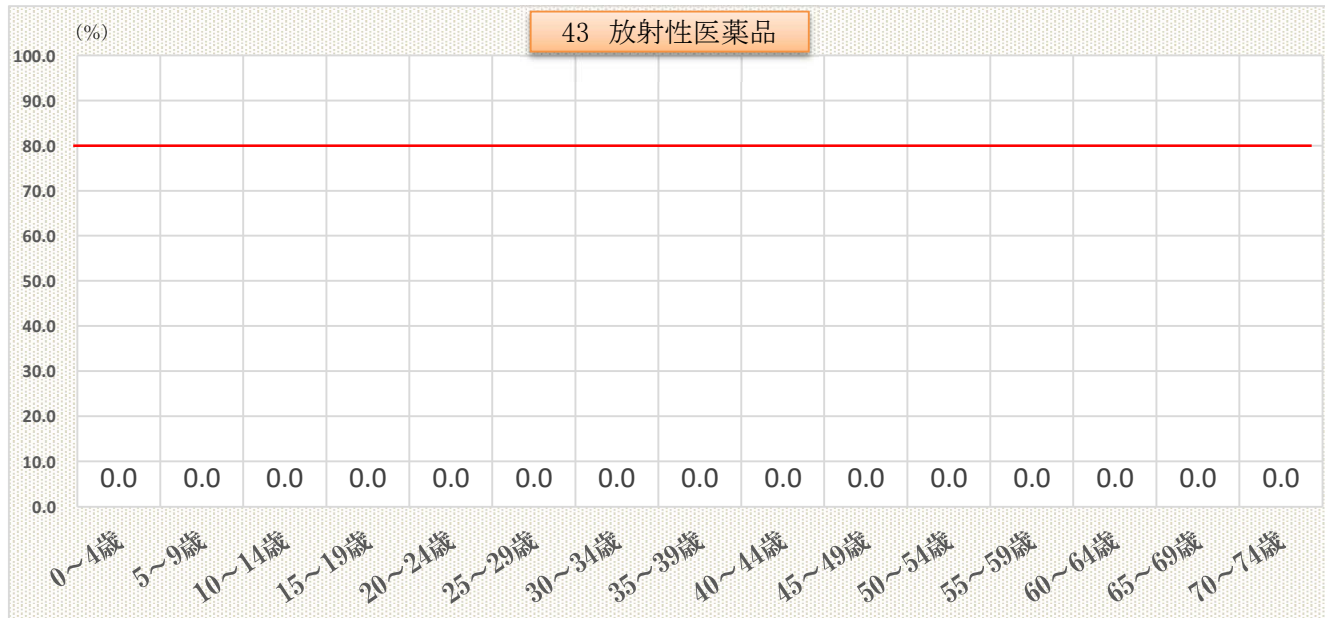
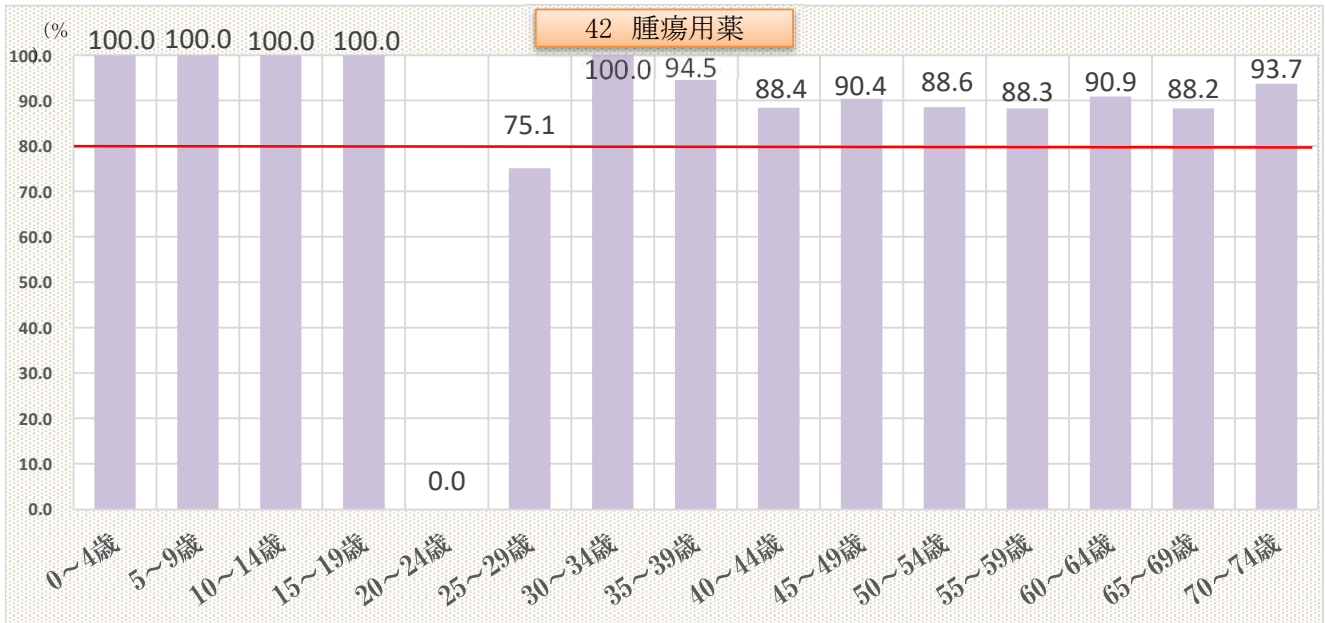
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



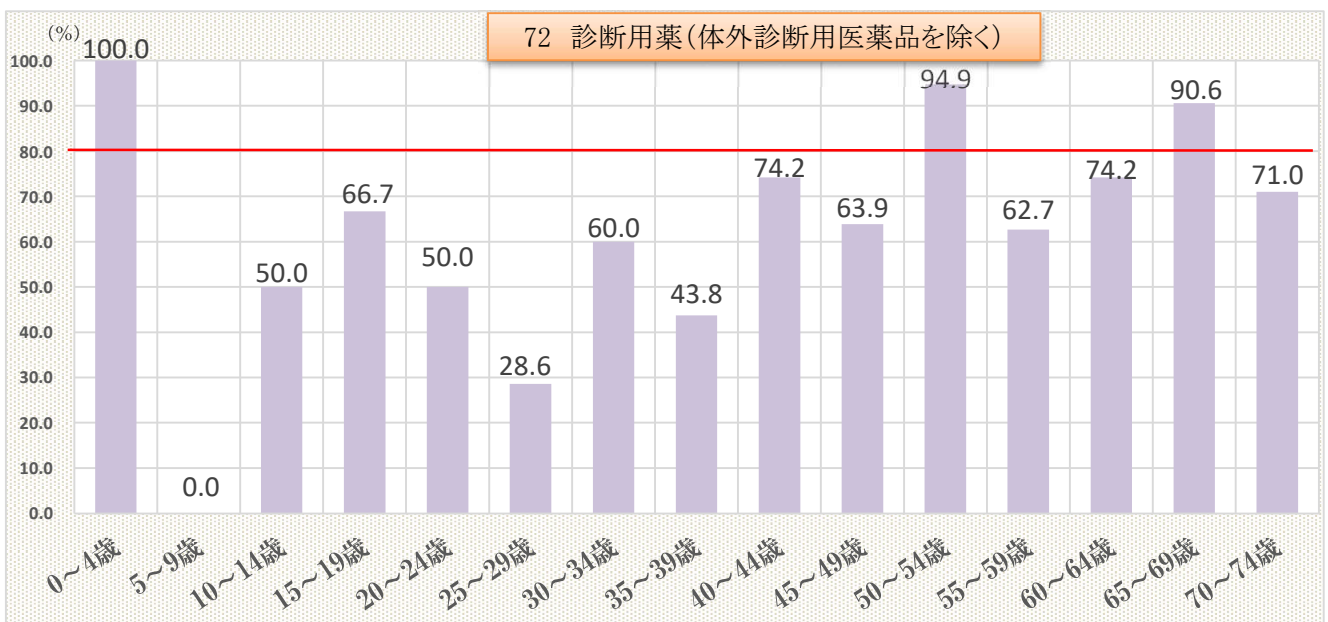
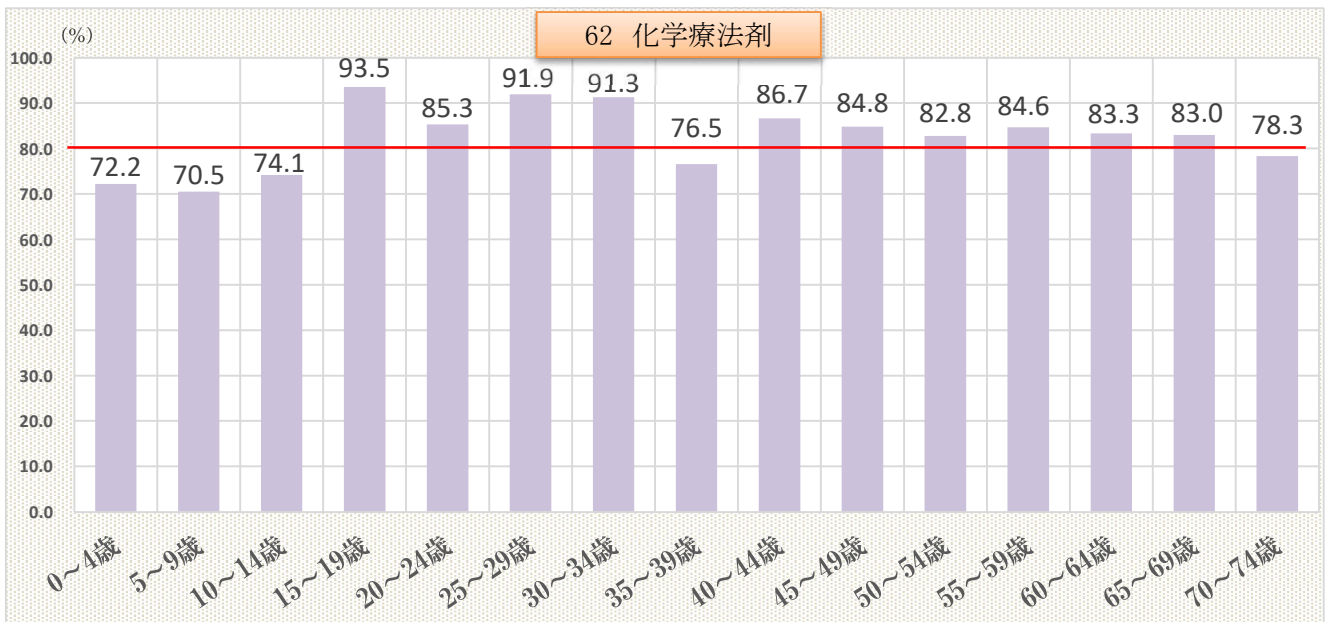
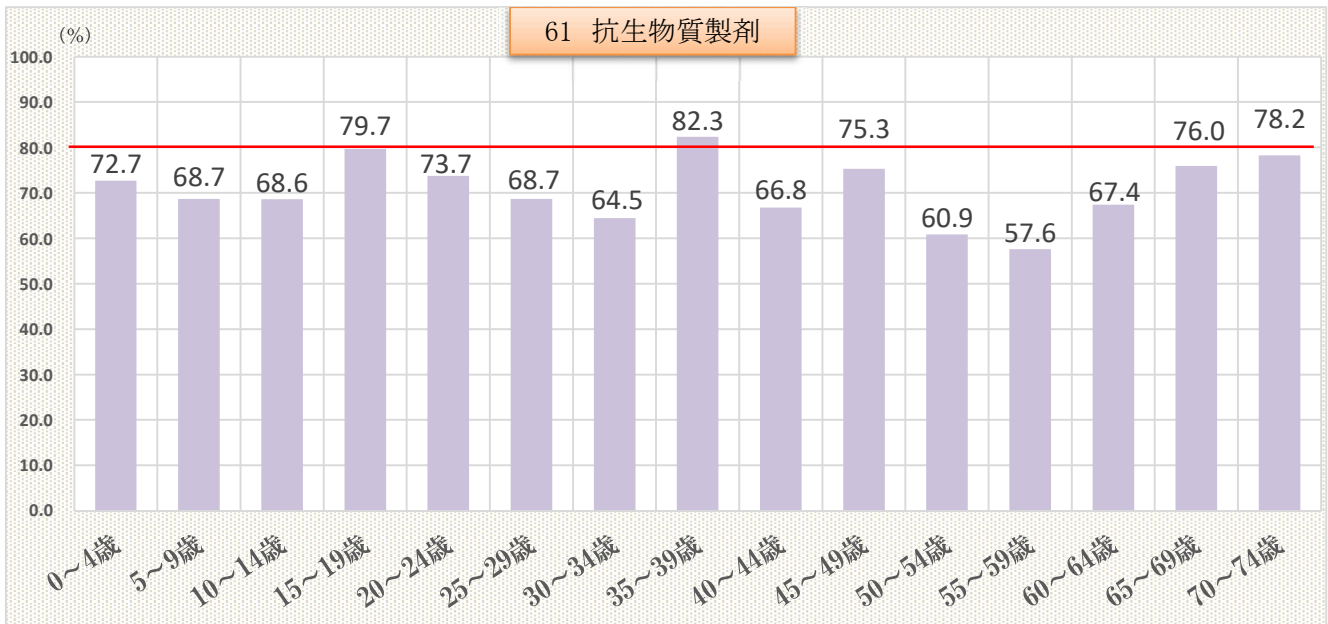
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



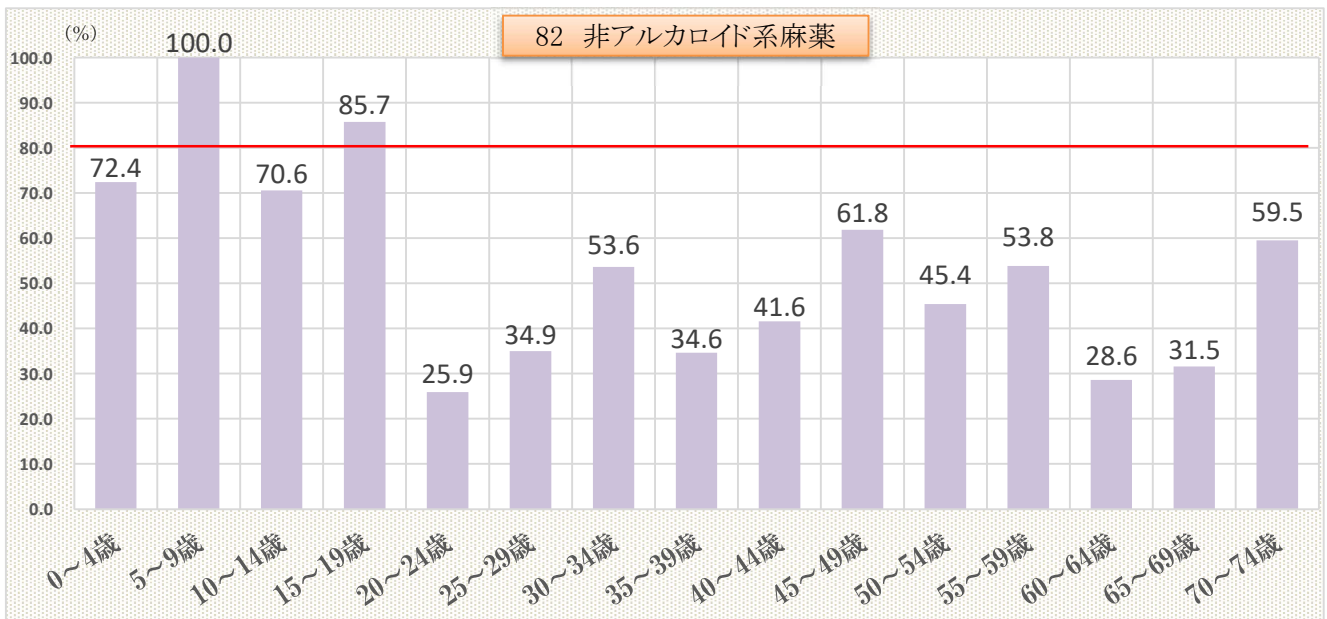
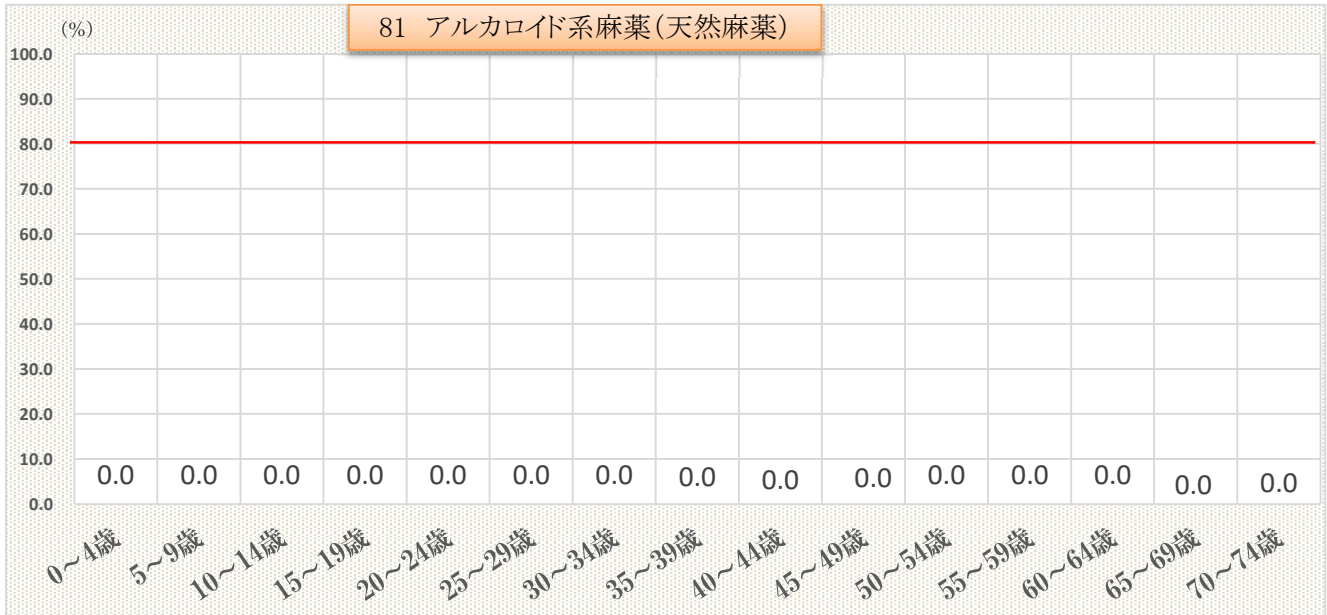
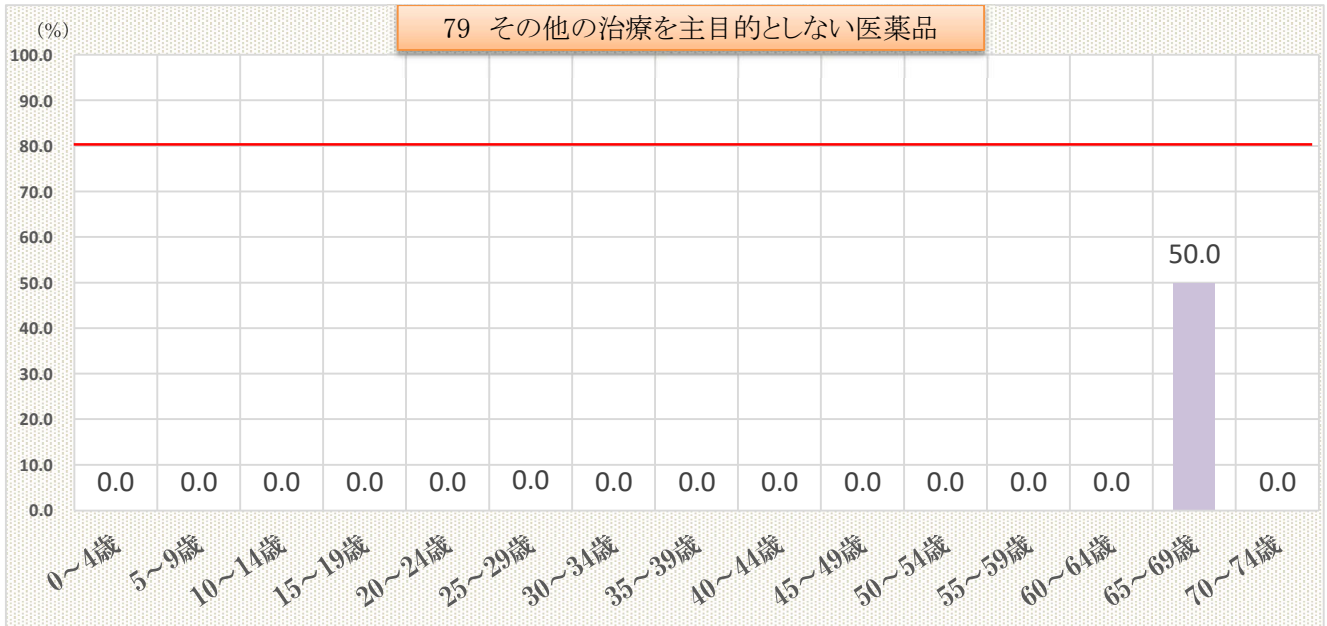
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

資料No.2-1

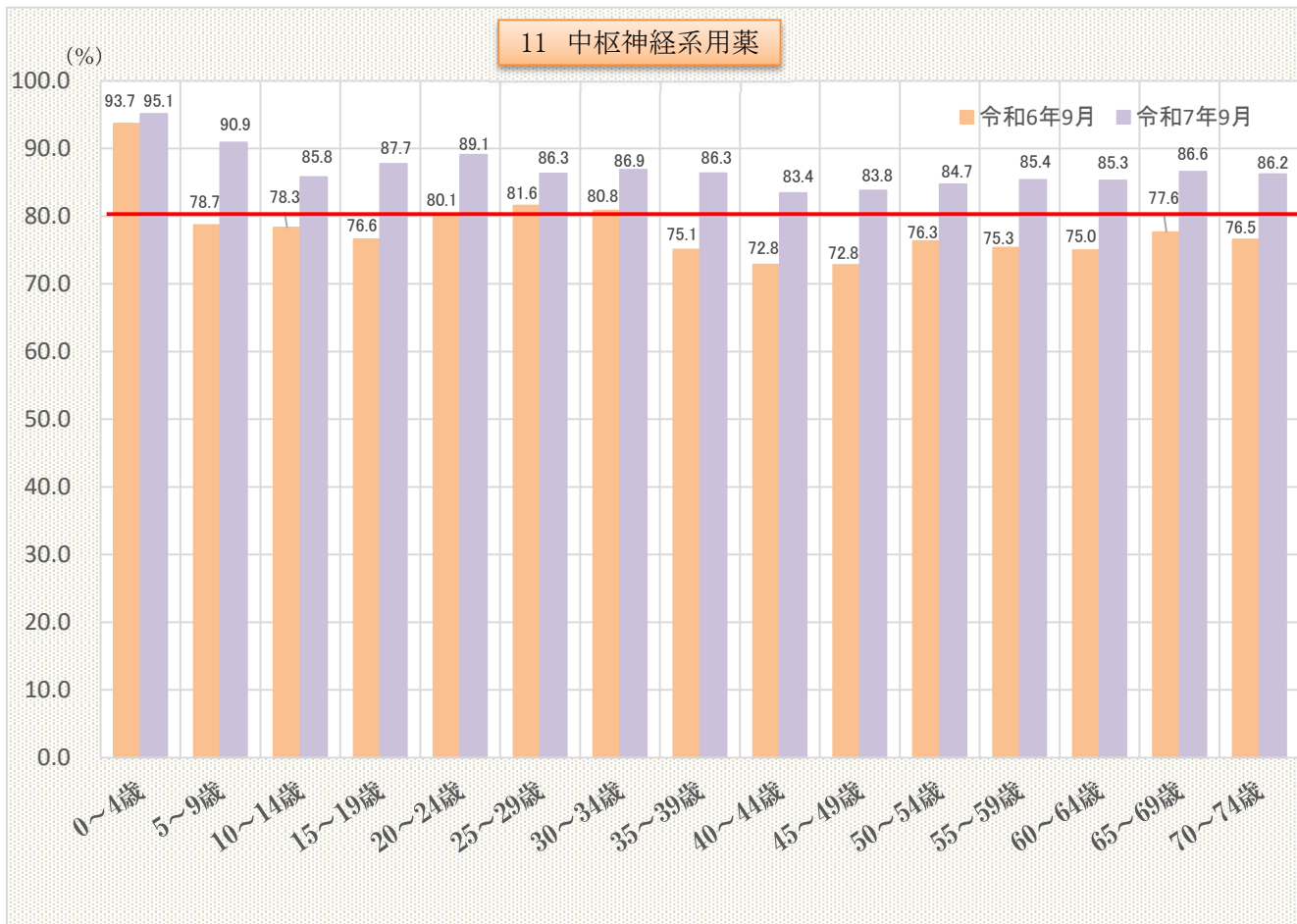
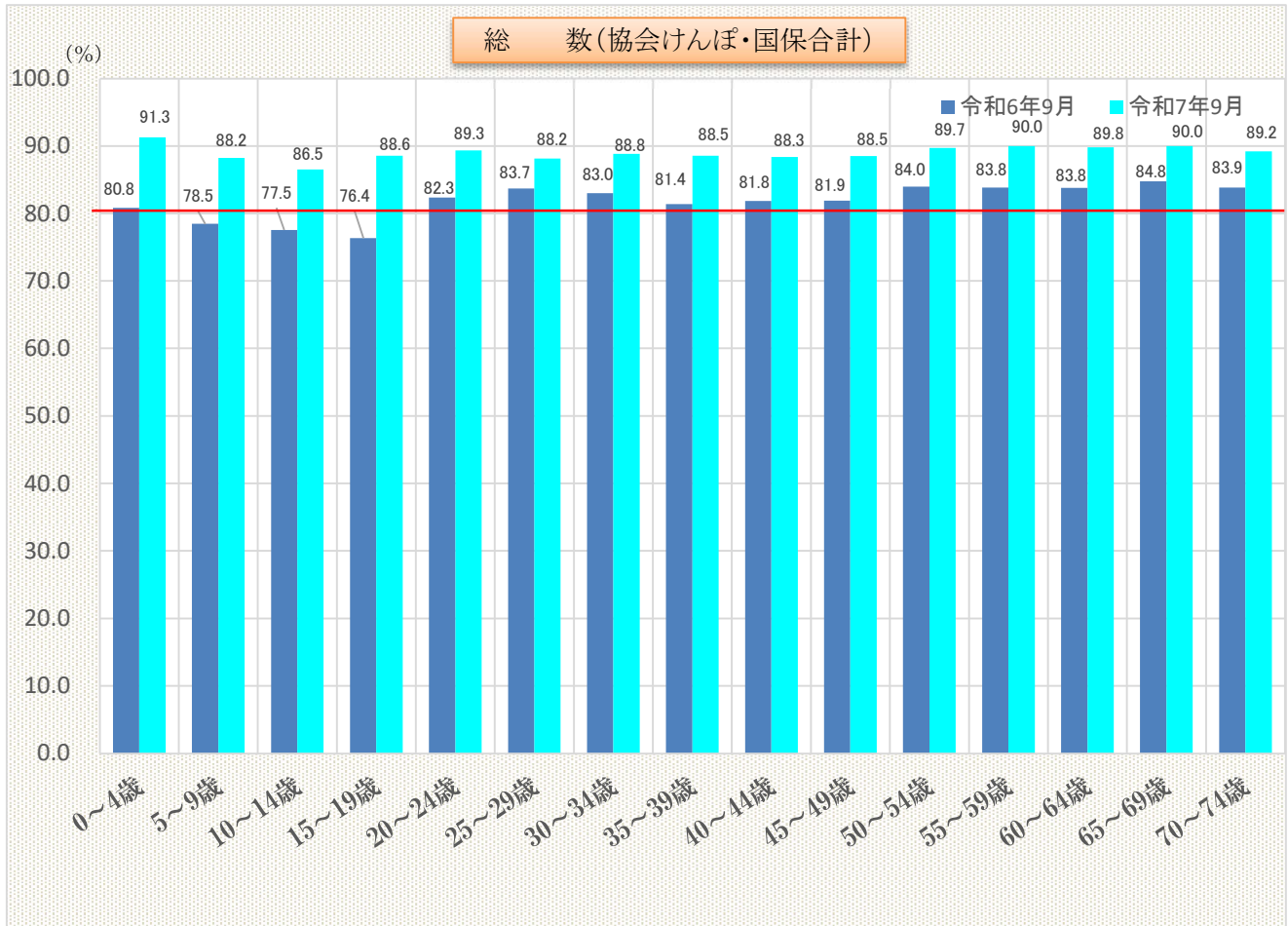


年齢階級別の使用割合

薬効分類別	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)	合計 使用割合(%)
総数	91.3	88.2	86.5	88.6	89.3	88.2	88.8	88.5	88.3	88.5	89.7	90.0	89.8	90.0	89.2
11 中枢神経系用薬	95.1	90.9	85.8	87.7	89.1	86.3	86.9	86.3	83.4	83.8	84.7	85.4	85.3	86.6	86.2
12 末梢神経系用薬	80.4	71.3	90.3	86.6	79.8	82.7	91.9	81.8	84.3	81.9	81.1	83.8	76.6	73.4	77.7
13 感覚器用薬	90.4	90.5	87.8	85.1	85.9	86.4	90.3	82.9	87.8	84.5	80.2	80.7	80.6	79.8	81.3
19 その他の神経系及び感覚器用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	96.5	90.5	67.8	84.0	90.1	90.1	96.5	92.2	95.2	95.1	95.1	94.7	93.3	93.0	92.3
22 呼吸器用薬	93.1	93.0	93.2	96.2	93.1	90.2	93.6	95.1	92.1	91.4	90.8	91.9	90.5	89.8	91.4
23 消化器用薬	90.9	90.0	96.0	94.7	94.4	93.0	88.5	93.4	93.4	93.6	93.5	93.9	93.7	94.1	93.8
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	99.9	95.0	96.9	94.9	97.5	98.1	93.3	97.5	96.1	97.2	92.3	79.0	83.3	77.5	73.9
25 泌尿生殖器用薬及び肛門用薬	100.0	90.0	100.0	92.6	95.0	98.9	97.9	94.3	96.7	98.0	94.7	97.7	94.9	96.0	96.3
26 外皮用薬	52.2	55.5	57.6	58.2	60.7	62.9	61.2	60.4	63.3	54.9	59.1	63.5	63.1	64.4	61.8
27 歯科口腔用薬	100.0	100.0	100.0	97.0	100.0	99.2	96.7	97.8	96.8	96.0	95.7	95.5	95.7	91.0	96.9
29 その他の個々の器用系用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	21.9	—	100.0	0.0	0.0	18.9
31 ビタミン剤	100.0	100.0	98.7	99.6	100.0	97.9	98.5	98.9	96.5	94.9	94.2	95.3	93.6	93.8	92.6
32 滋養強壮薬	100.0	92.5	66.7	86.2	70.2	55.9	54.1	43.6	35.0	60.1	59.1	56.1	66.2	63.7	56.1
33 血液・体液用薬	96.6	96.6	95.1	94.8	97.7	93.4	97.4	93.9	95.4	93.5	95.4	92.2	93.5	91.3	90.2
34 人工透析用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
39 その他の代謝性医薬品	13.8	94.1	73.7	89.8	88.8	86.0	96.2	93.9	94.6	91.9	93.4	91.6	91.5	90.0	87.7
41 細胞賦活用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	100.0	100.0	100.0	100.0	—	75.1	100.0	94.5	88.4	90.4	88.6	88.3	90.9	88.2	93.7
43 放射性医薬品	—	—	0.0	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
44 アレルギー用薬	89.9	85.1	86.6	91.9	87.9	90.7	91.3	91.2	86.8	90.1	90.0	86.0	85.3	86.1	84.9
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	72.7	68.7	68.6	79.7	73.7	68.7	64.5	82.3	66.8	75.3	60.9	57.6	67.4	76.0	78.2
62 化学療法剤	72.2	70.5	74.1	93.5	85.3	91.9	91.3	76.5	86.7	84.8	82.8	84.6	83.3	83.0	78.3
63 生物学的製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	100.0	0.0	50.0	66.7	50.0	28.6	60.0	43.8	74.2	63.9	94.9	62.7	74.2	90.6	71.0
73 公衆衛生用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	50.0	—
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
82 非アルカロイド系麻薬	72.4	100.0	70.6	85.7	25.9	34.9	53.6	34.6	41.6	61.8	45.4	53.8	28.6	31.5	59.5

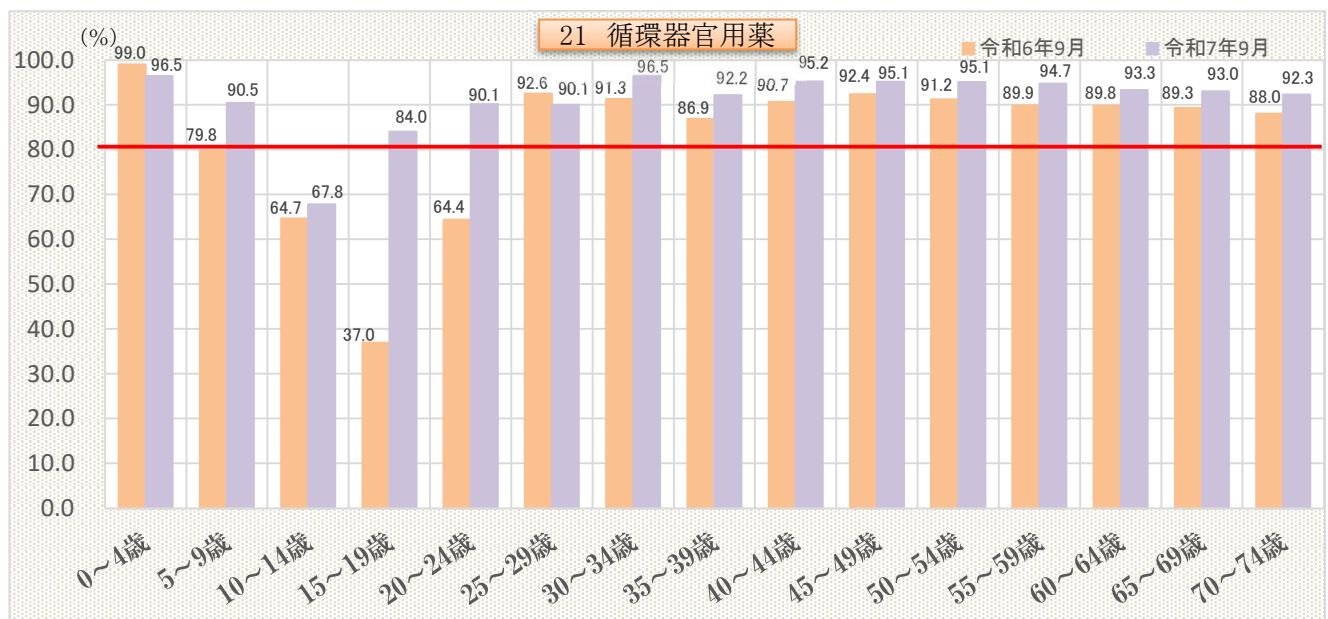
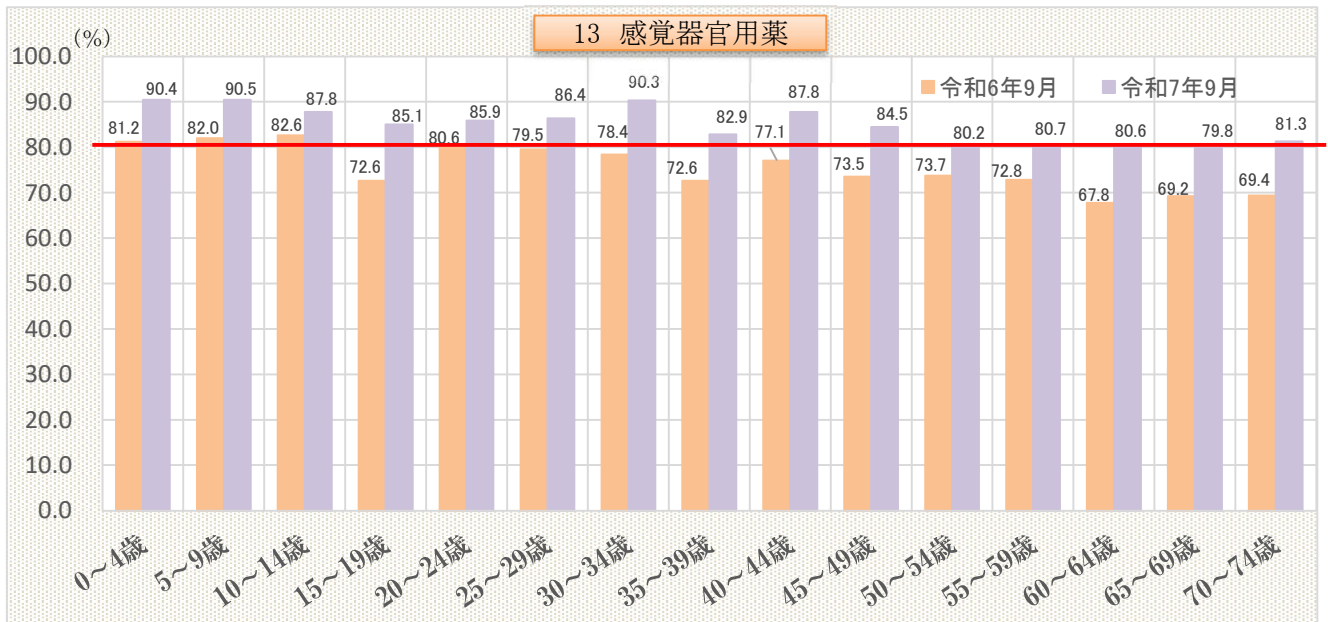
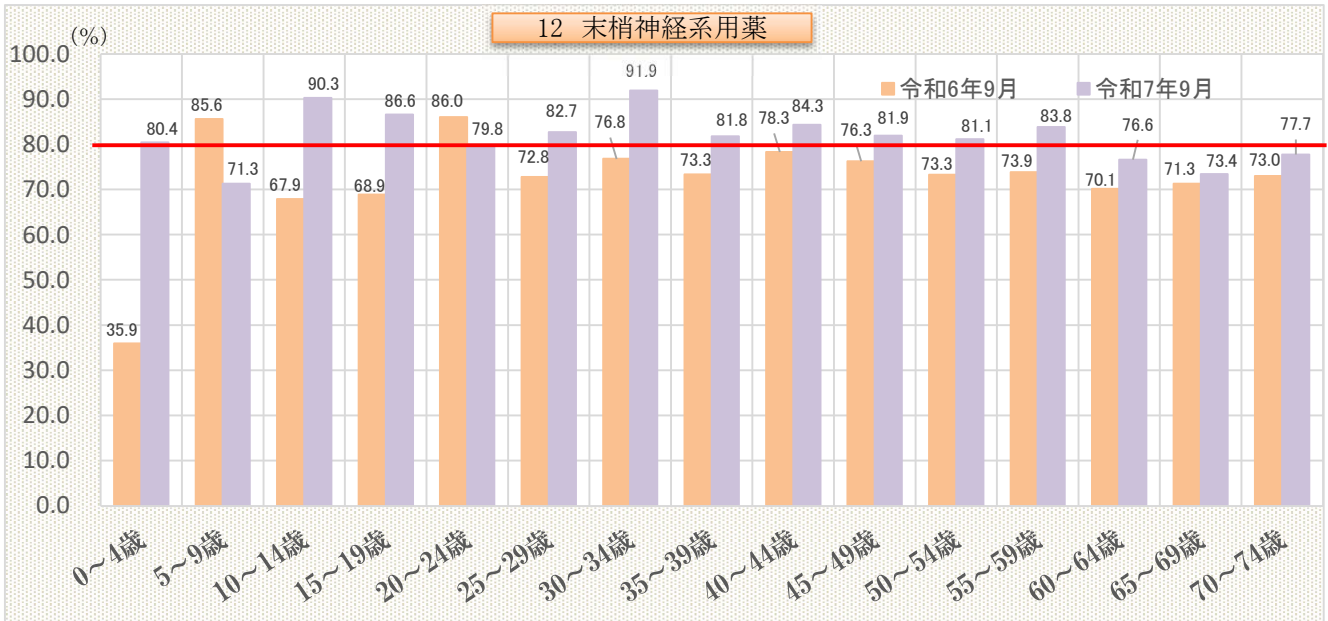
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



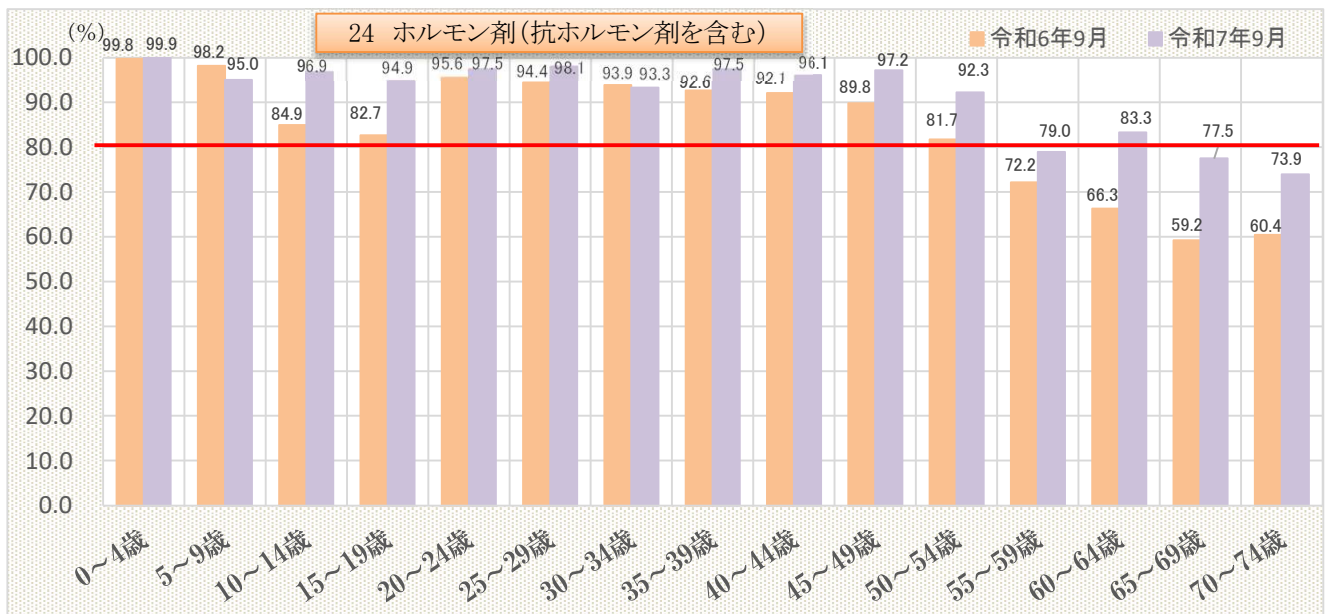
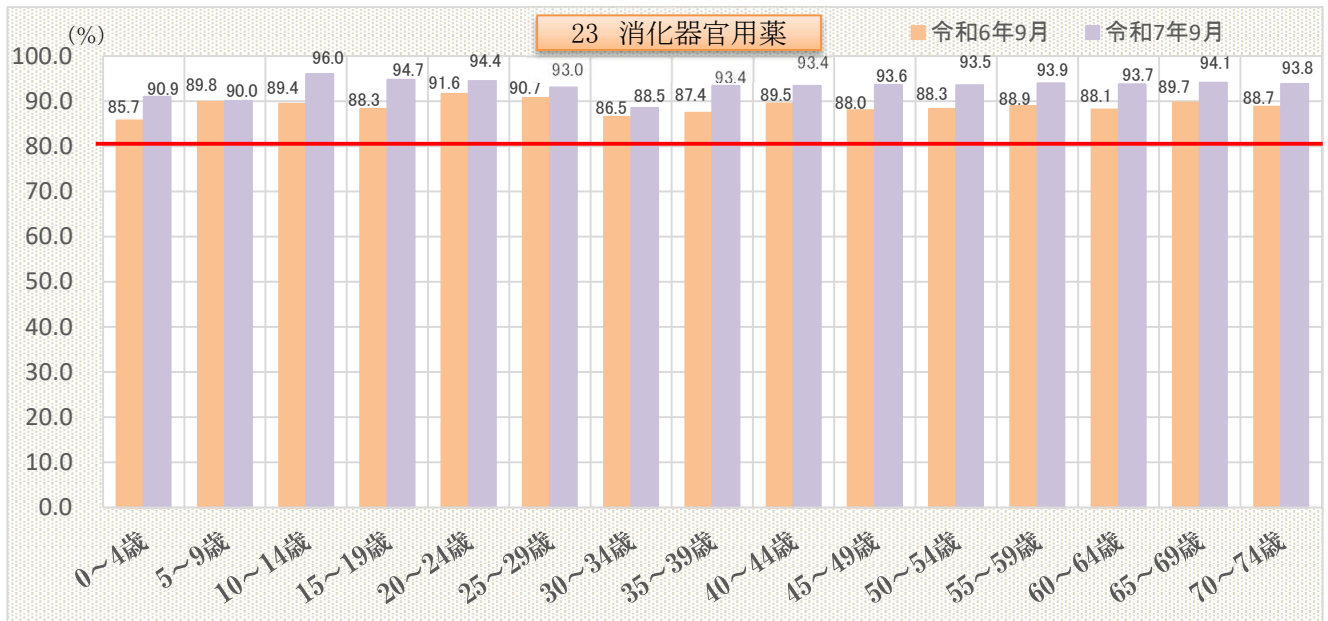
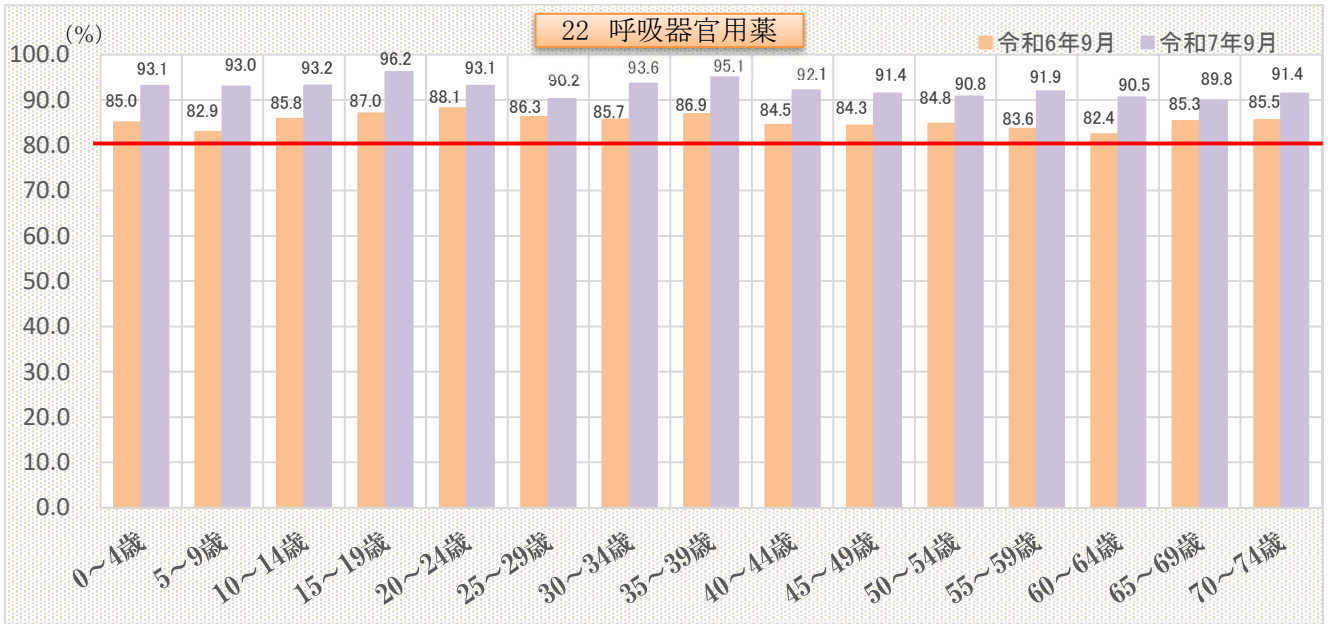
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



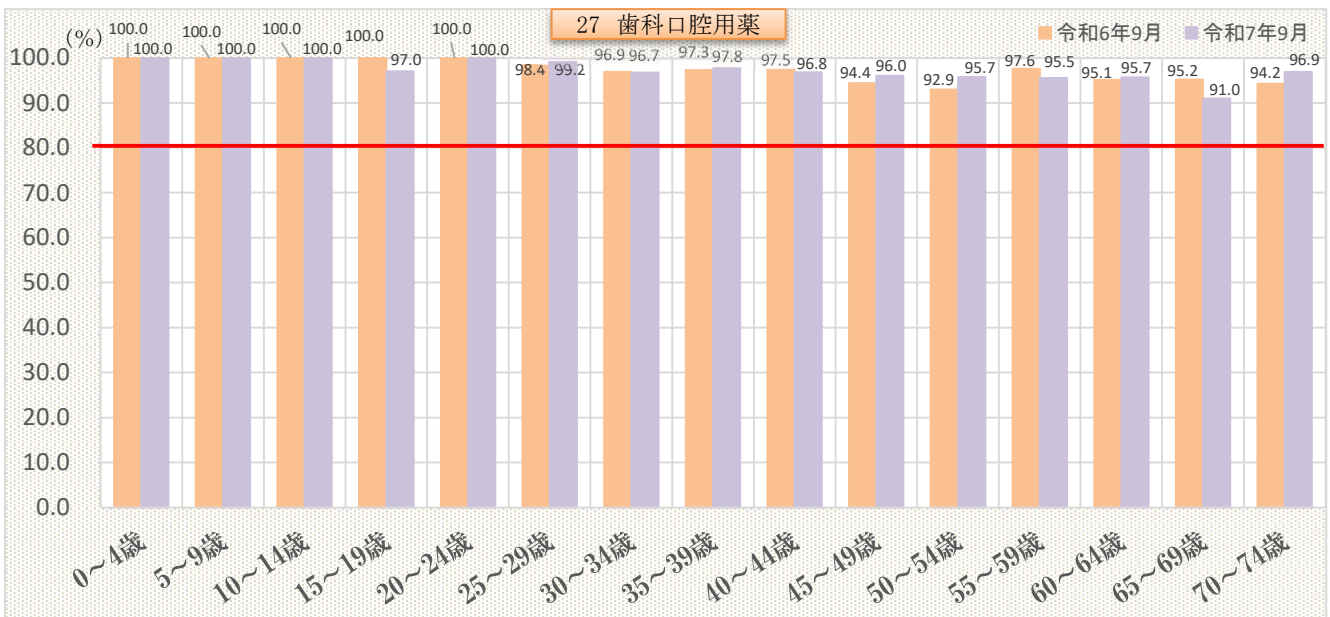
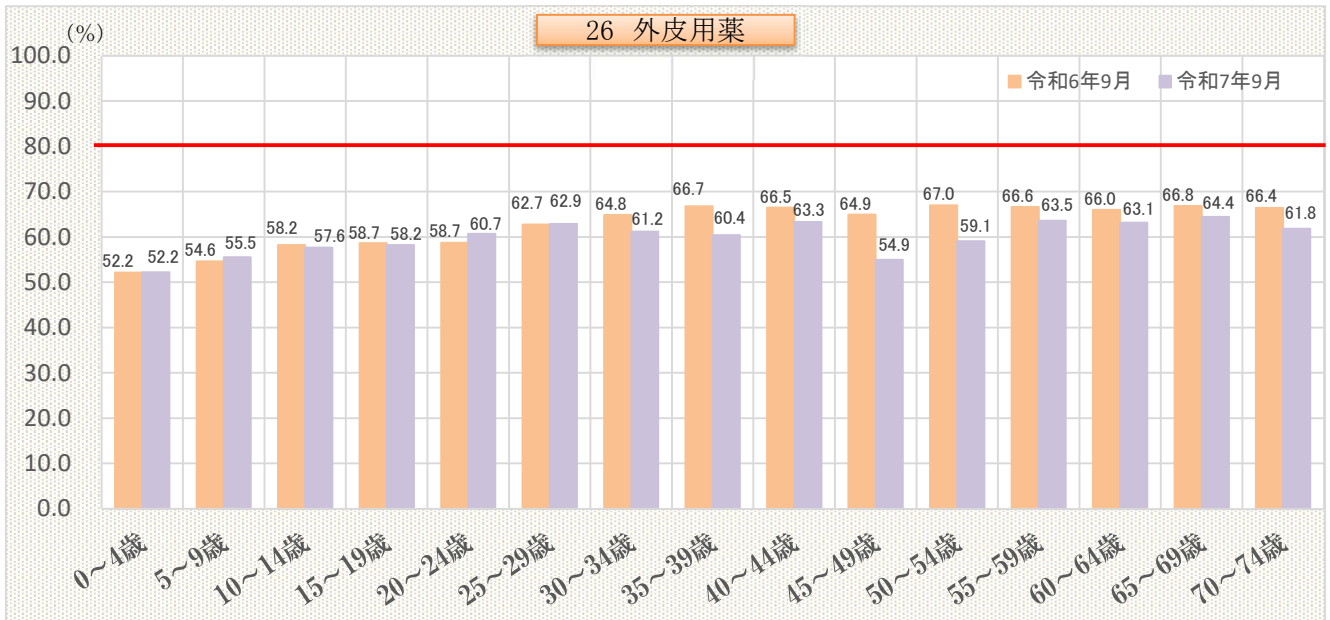
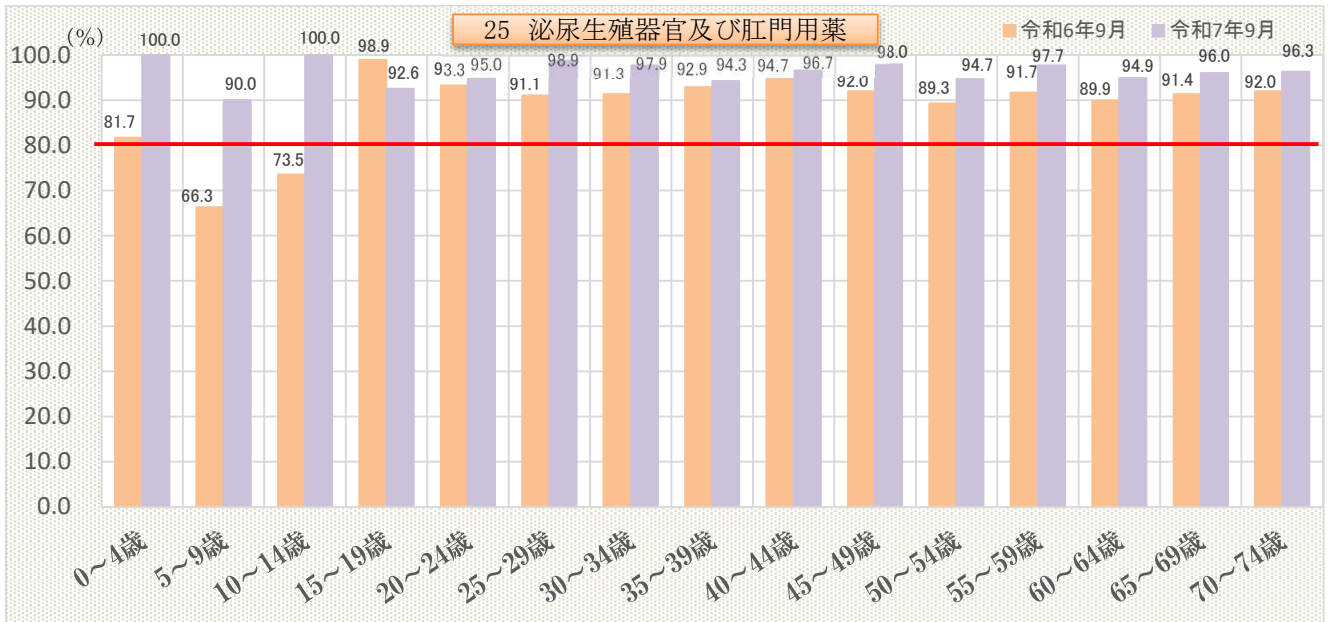
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



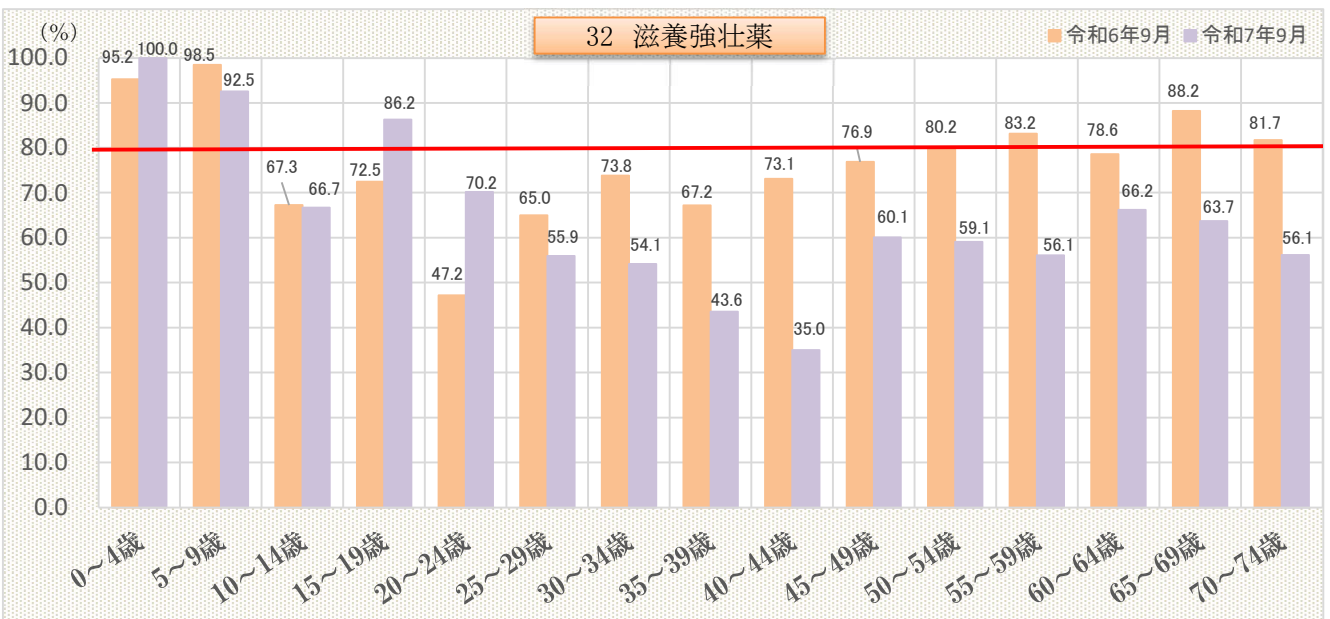
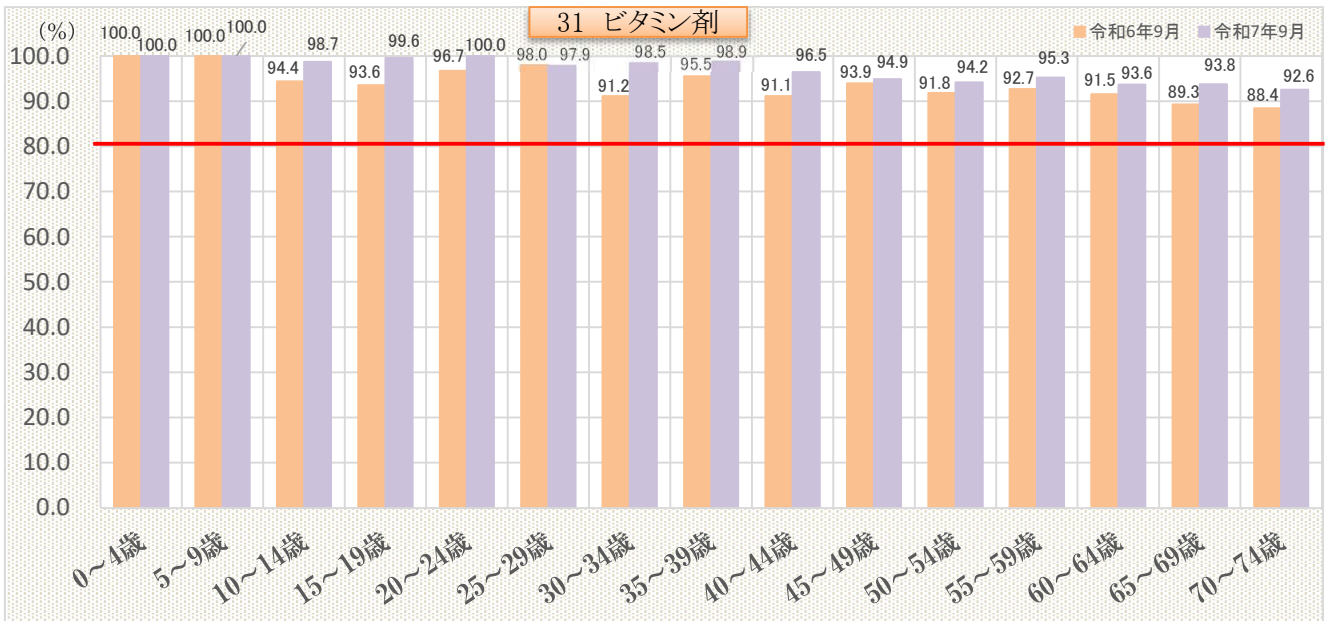
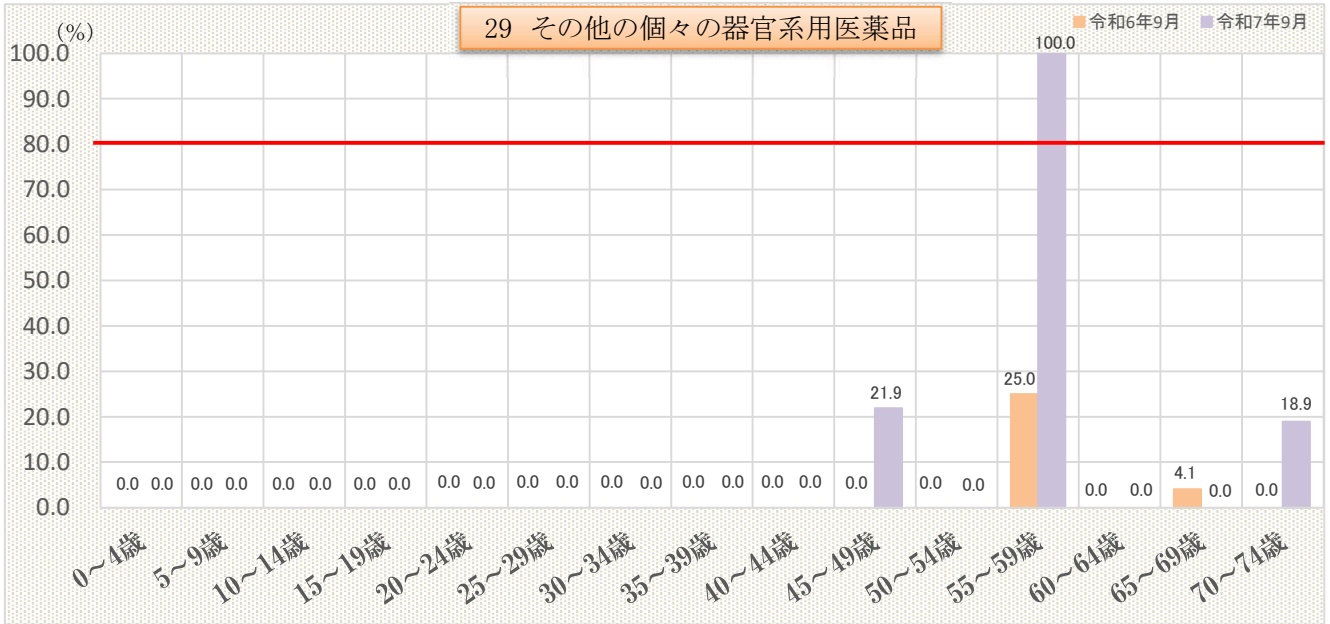
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



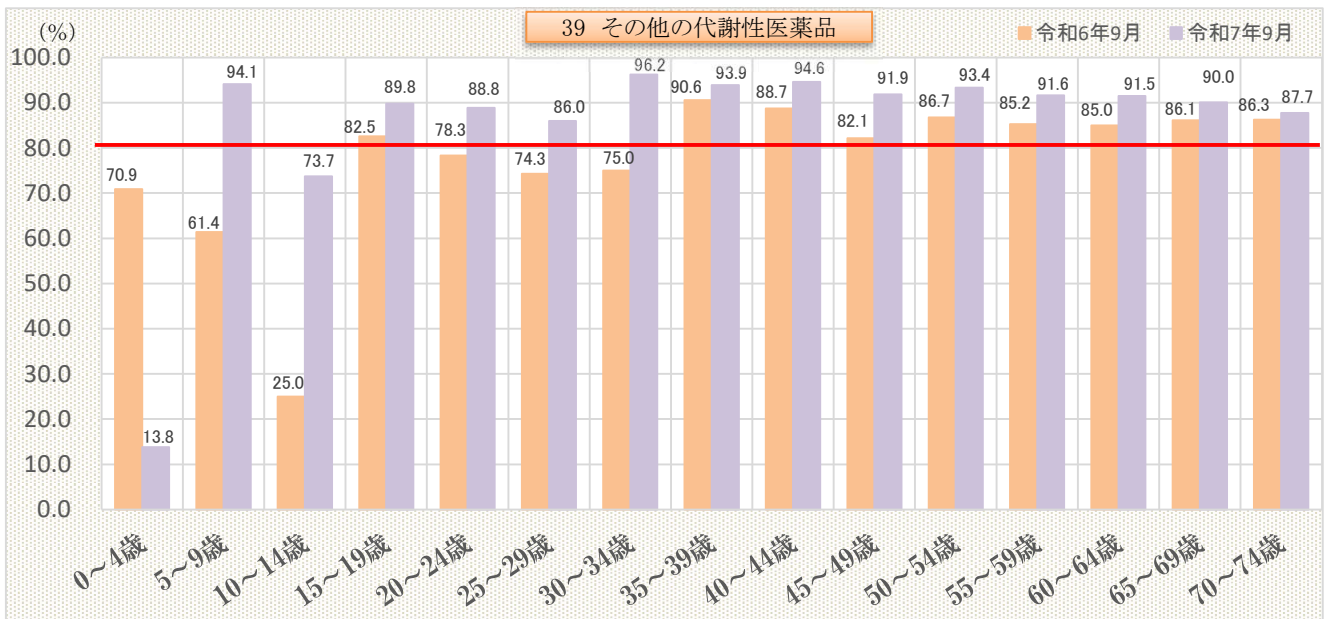
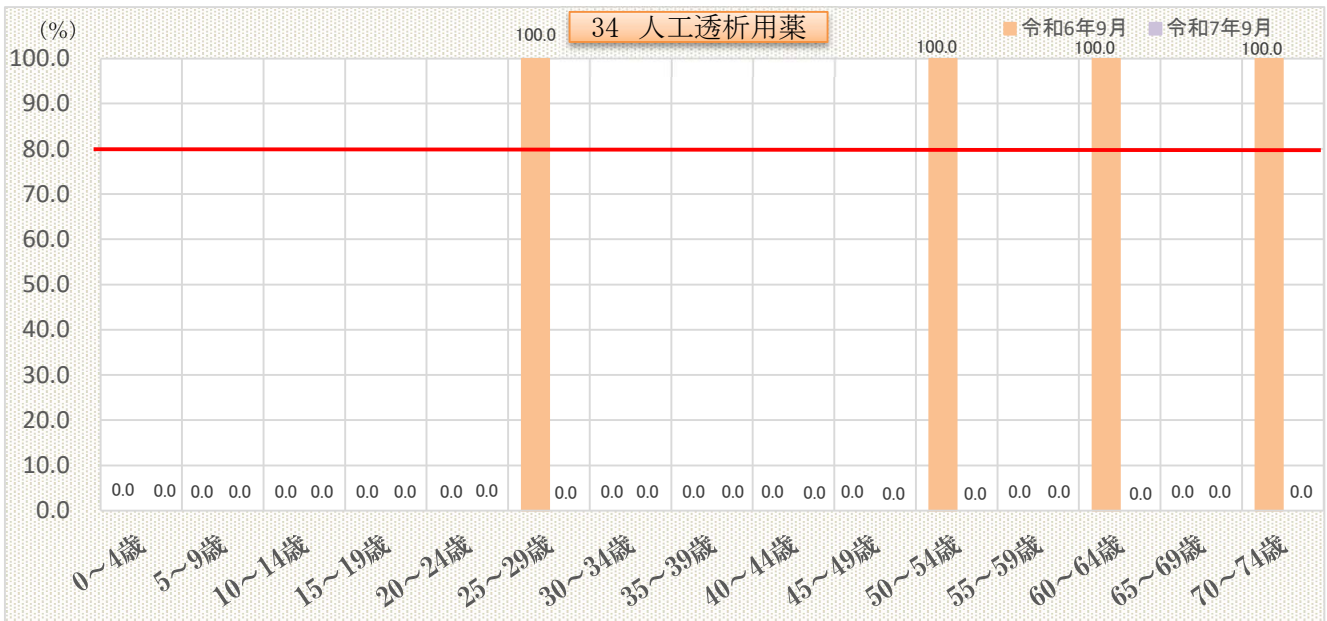
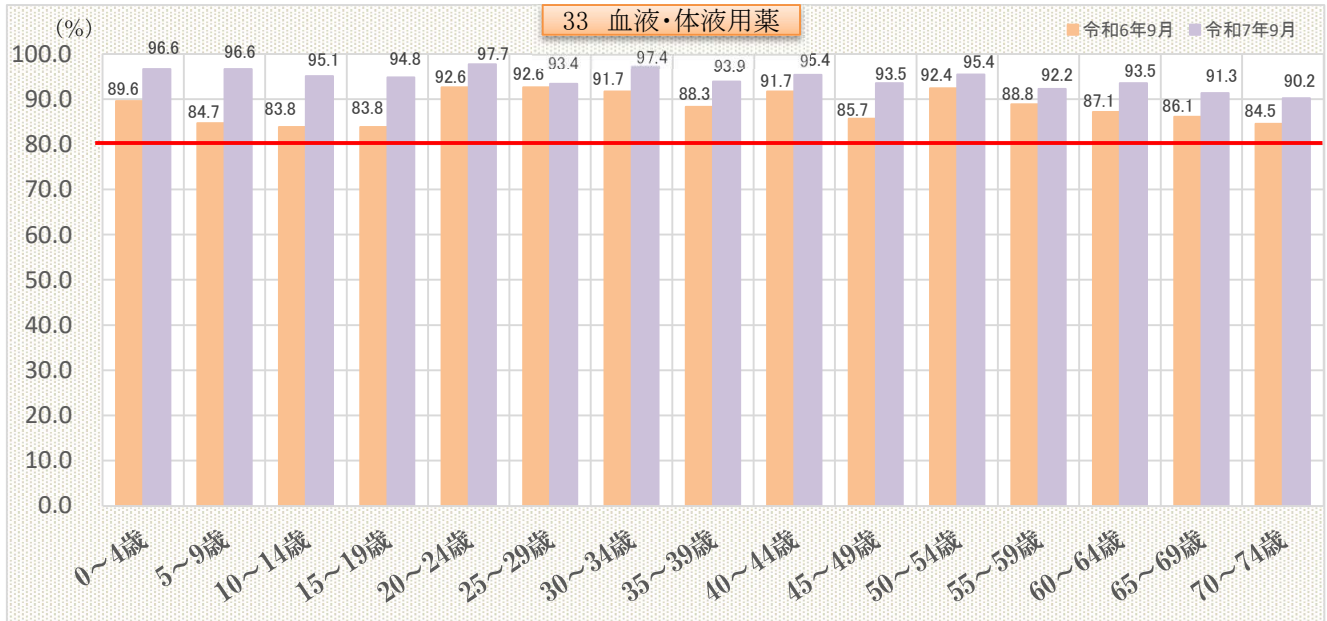
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



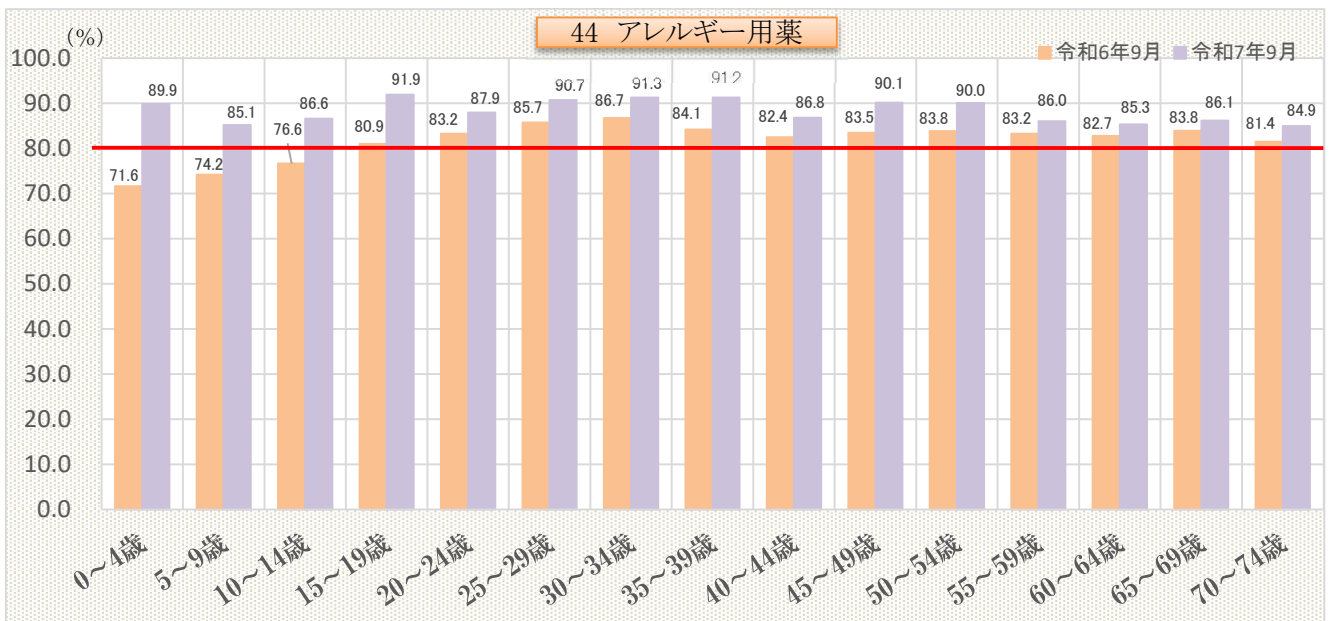
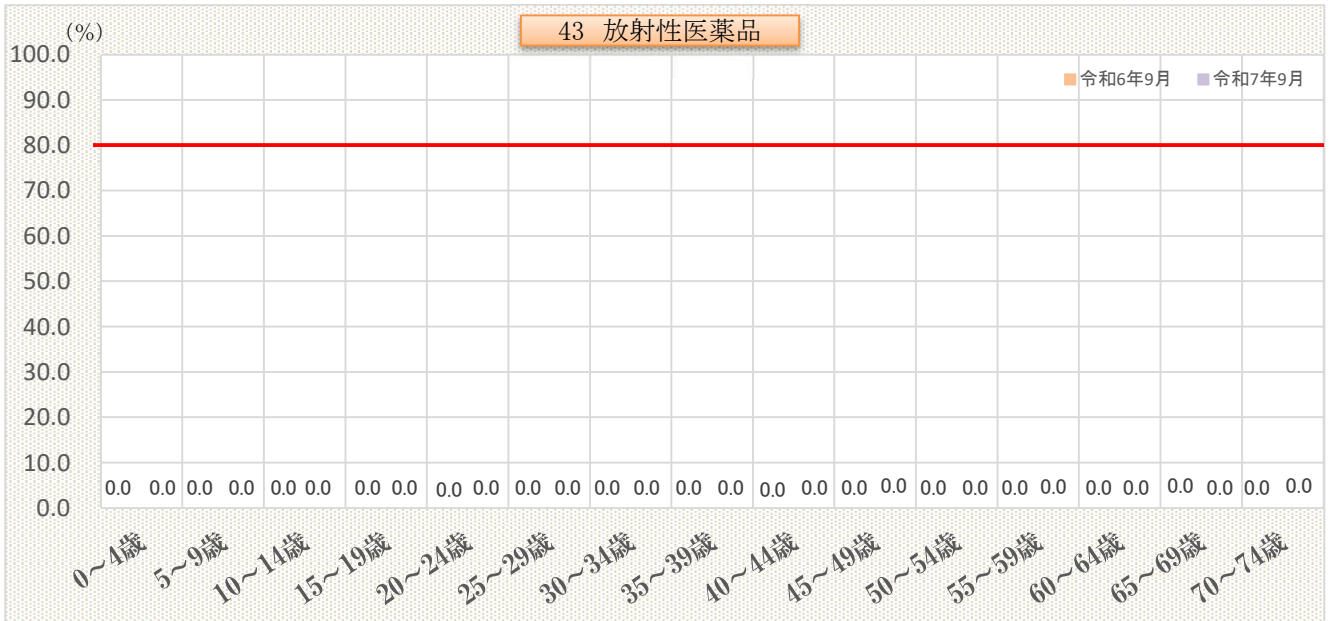
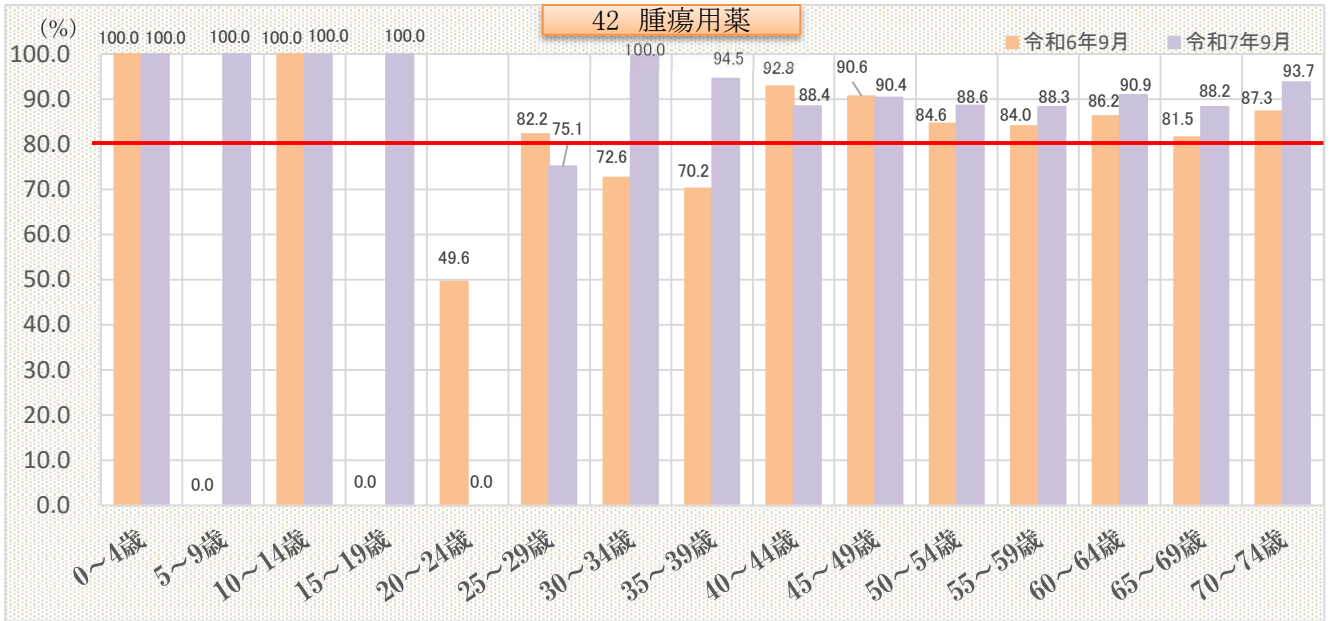
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



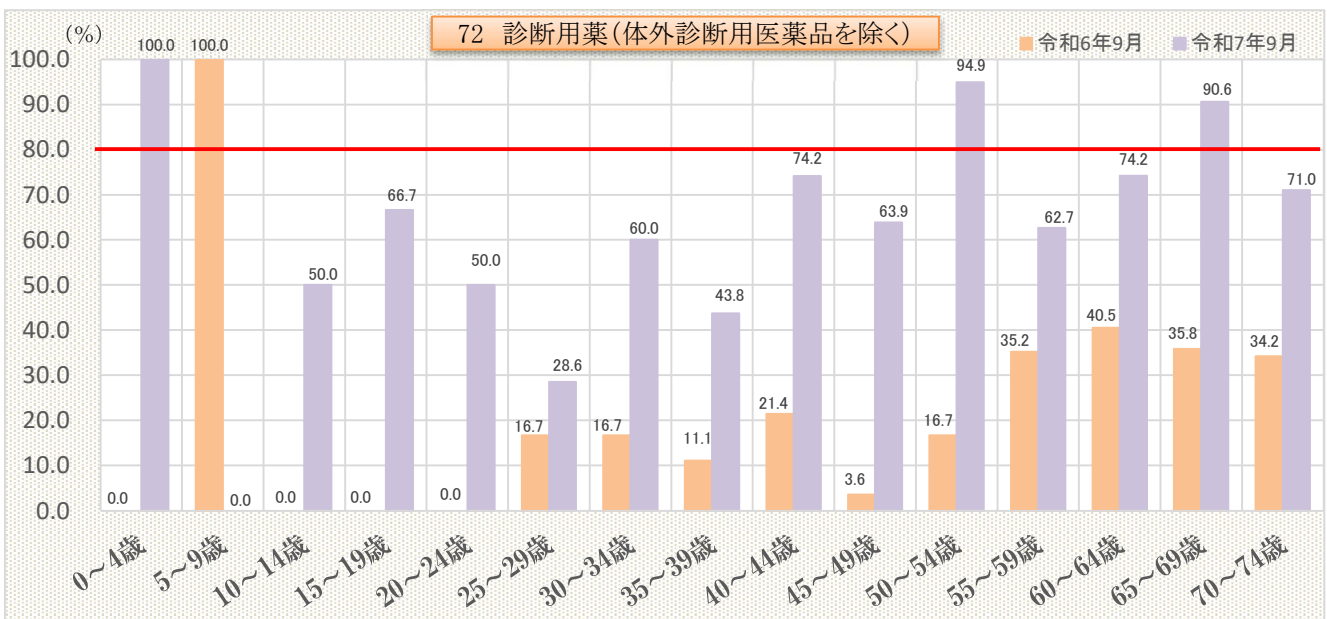
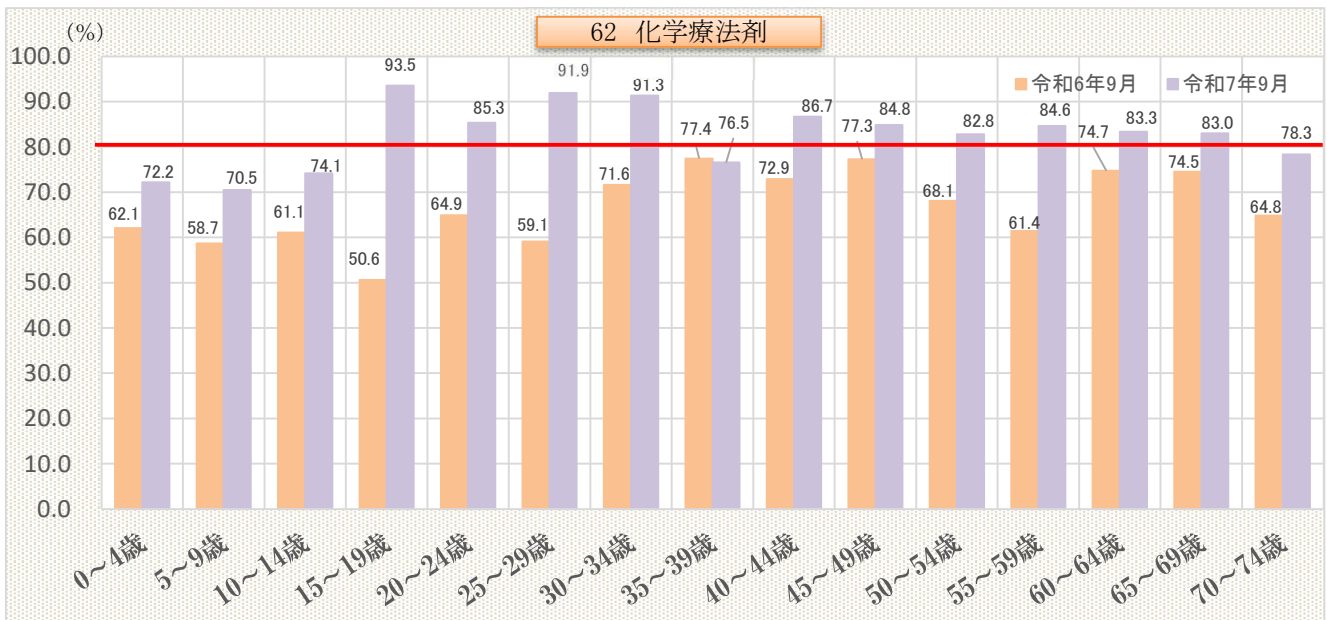
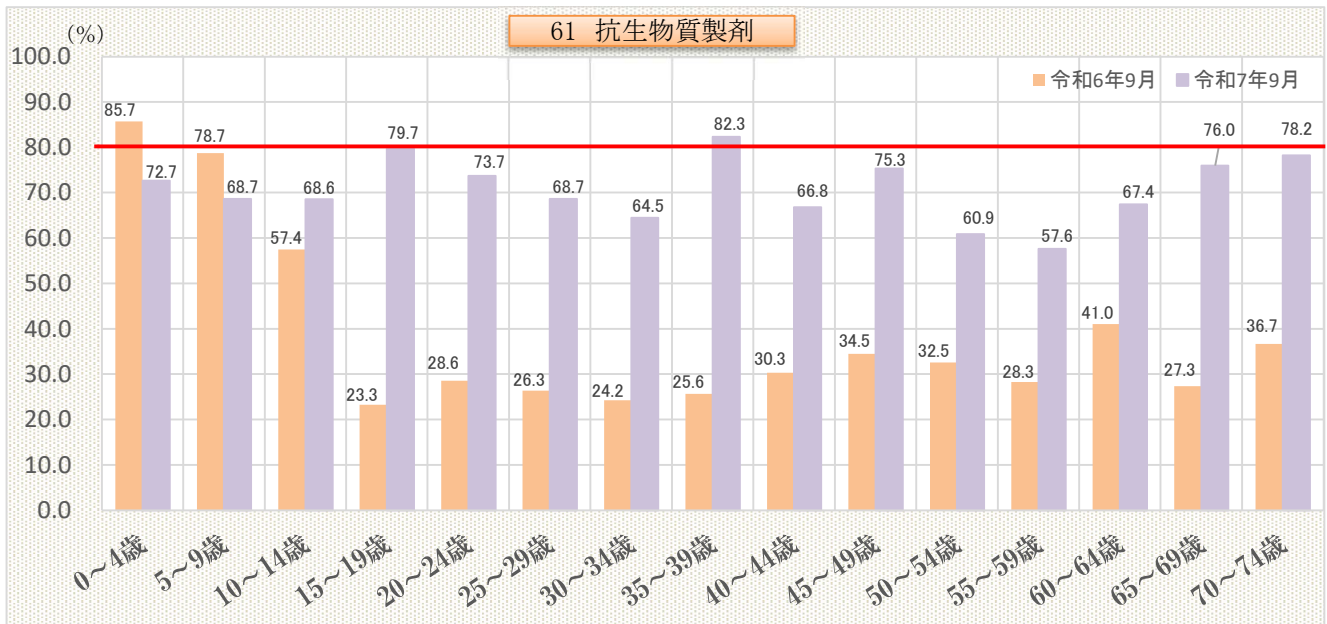
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



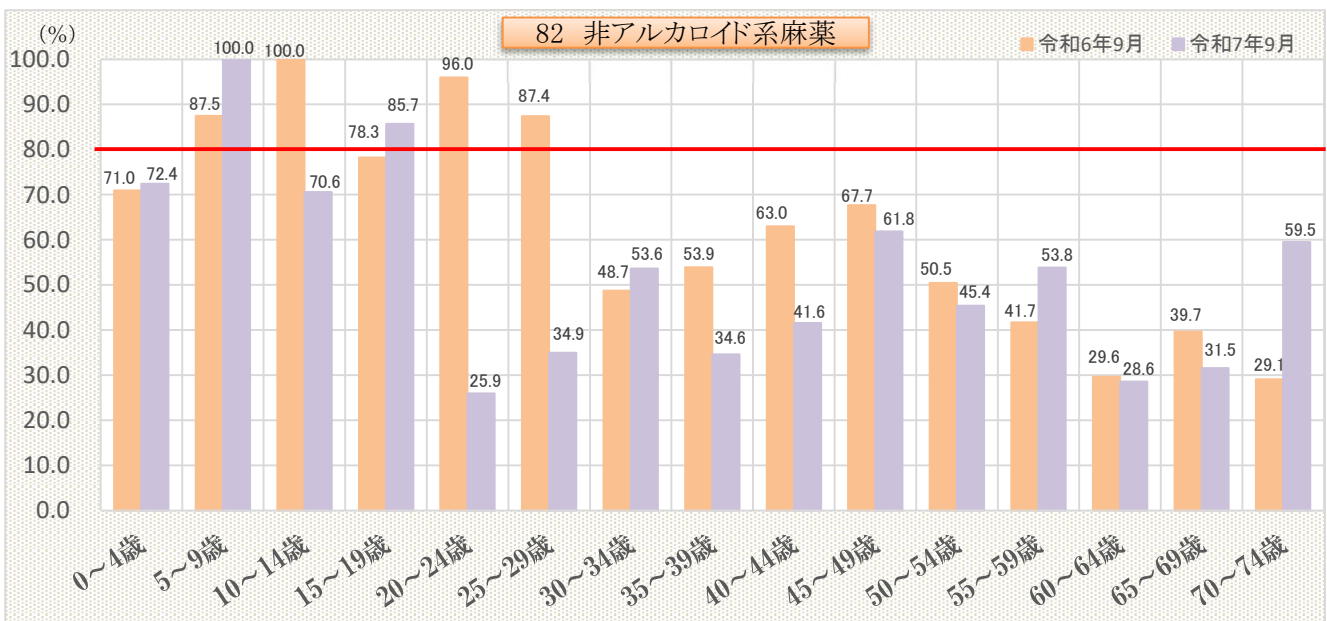
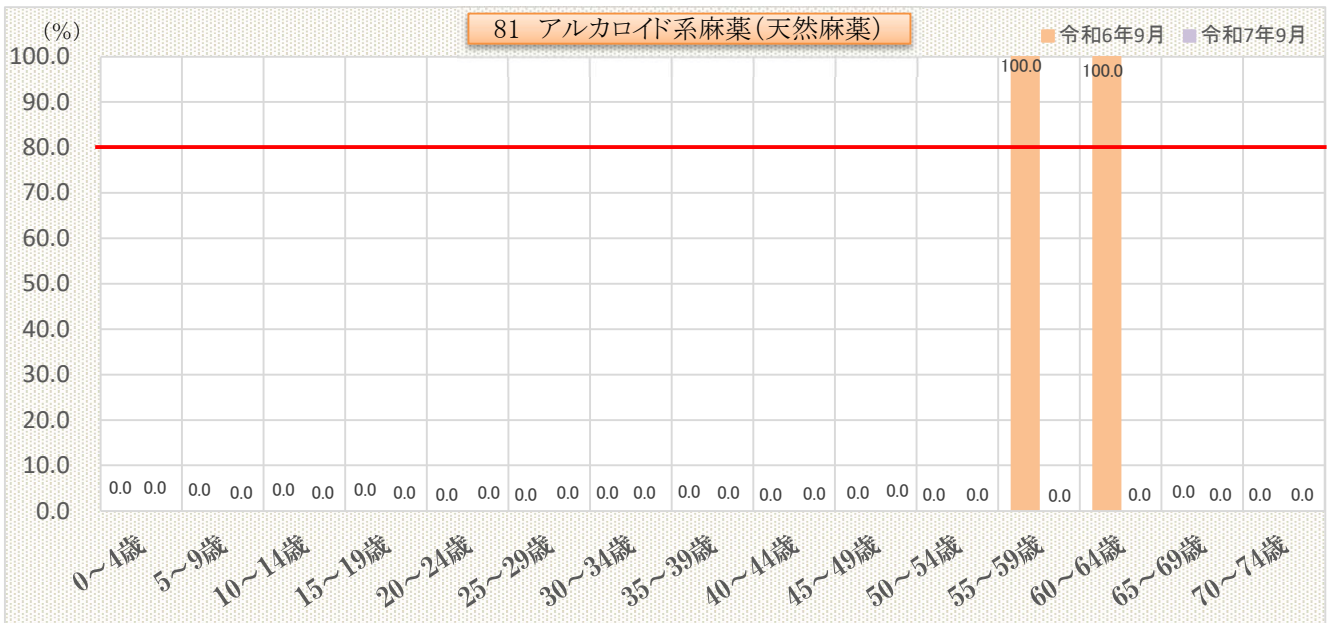
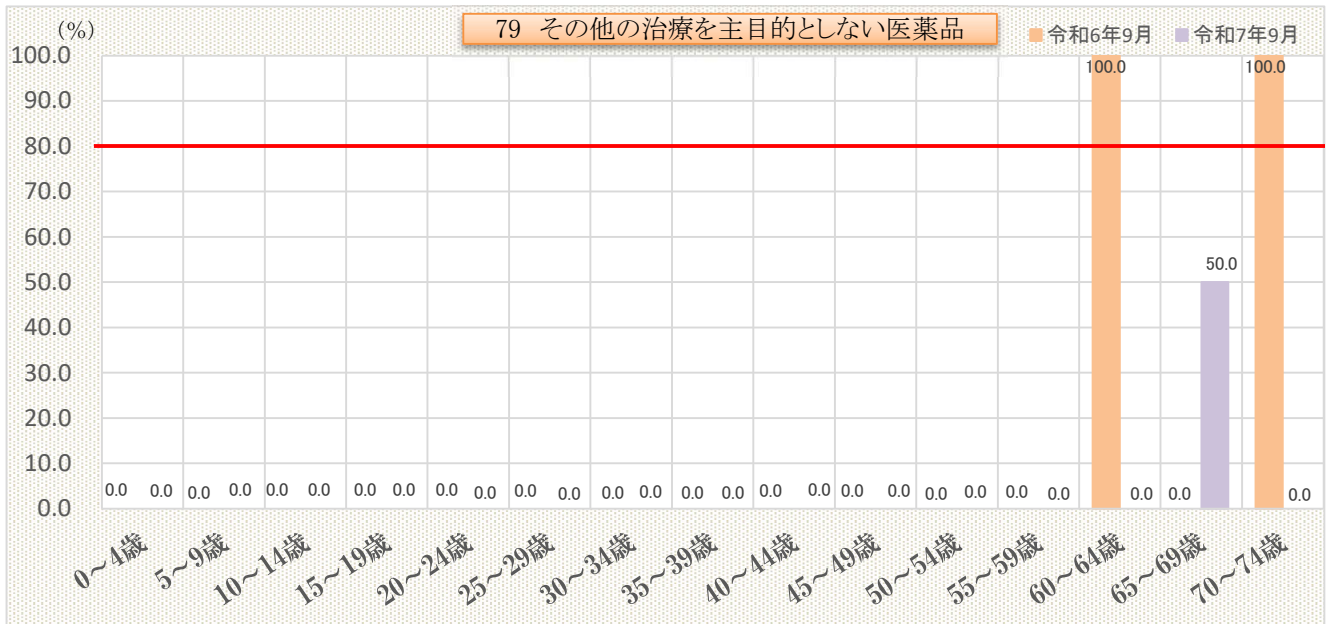
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)
総数	令和6年9月	80.8	78.5	77.5	76.4	82.3	83.7	83.0	81.4	81.4	81.8	81.9	83.8	83.8	84.8	83.9
	令和7年9月	91.3	88.2	86.5	88.6	89.3	88.2	88.8	88.5	88.3	88.5	89.0	90.0	89.8	90.0	89.2
	差	10.5	9.7	9.0	12.2	7.0	4.5	5.8	7.1	6.9	6.7	7.6	6.2	6.0	5.2	5.3
11 中枢神経系用薬	令和6年9月	93.7	78.7	78.3	76.6	80.1	81.6	80.8	75.1	72.8	72.8	76.3	75.3	75.0	77.6	76.5
	令和7年9月	95.1	90.9	85.8	87.7	89.1	86.3	86.9	86.3	83.4	83.8	84.7	85.4	85.3	86.6	86.2
	差	1.4	12.2	7.5	11.1	9.0	4.7	6.1	11.2	10.6	11.0	8.4	10.1	10.3	9.0	9.7
12 末梢神経系用薬	令和6年9月	35.9	85.6	67.9	68.9	86.0	72.8	76.8	73.3	78.3	76.3	73.3	73.9	70.1	71.3	73.0
	令和7年9月	80.4	71.3	90.3	86.6	79.8	82.7	91.9	81.8	84.3	81.9	81.1	83.8	76.6	73.4	77.7
	差	44.5	△14.3	22.4	17.7	△6.2	9.9	15.1	8.5	6.0	5.6	7.8	9.9	6.5	2.1	4.7
13 感覚器用薬	令和6年9月	81.2	82.0	82.6	72.6	80.6	79.5	78.4	72.6	77.1	73.5	73.7	72.8	67.8	69.2	69.4
	令和7年9月	90.4	90.5	87.8	85.1	85.9	86.4	90.3	82.9	87.8	84.5	80.2	80.7	80.6	79.8	81.3
	差	9.2	8.5	5.2	12.5	5.3	6.9	11.9	10.3	10.7	11.0	6.5	7.9	12.8	10.6	11.9
19 その他の神経系及び 感覚器用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	令和6年9月	99.0	79.8	64.7	37.0	64.4	92.6	91.3	86.9	90.7	92.4	91.2	89.9	89.8	89.3	88.0
	令和7年9月	96.5	90.5	67.8	84.0	90.1	90.1	96.5	92.2	95.2	95.1	95.1	94.7	93.3	93.0	92.3
	差	△2.5	10.7	3.1	47.0	25.7	△2.5	5.2	5.3	4.5	2.7	3.9	4.8	3.5	3.7	4.3
22 呼吸器用薬	令和6年9月	85.0	82.9	85.8	87.0	88.1	86.3	85.7	86.9	84.5	84.3	84.8	83.6	82.4	85.3	85.5
	令和7年9月	93.1	93.0	93.2	96.2	93.1	90.2	93.6	95.1	92.1	91.4	90.8	91.9	90.5	89.8	91.4
	差	8.1	10.1	7.4	9.2	5.0	3.9	7.9	8.2	7.6	7.1	6.0	8.3	8.1	4.5	5.9
23 消化器用薬	令和6年9月	85.7	89.8	89.4	88.3	91.6	90.7	86.5	87.4	89.5	88.0	88.3	88.9	88.1	89.7	88.7
	令和7年9月	90.9	90.0	96.0	94.7	94.4	93.0	88.5	93.4	93.4	93.6	93.5	93.9	93.7	94.1	93.8
	差	5.2	0.2	6.6	6.4	2.8	2.3	2.0	6.0	3.9	5.6	5.2	5.0	5.6	4.4	5.1
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	令和6年9月	99.8	98.2	84.9	82.7	95.6	94.4	93.9	92.6	92.1	89.8	81.7	72.2	66.3	59.2	60.4
	令和7年9月	99.9	95.0	96.9	94.9	97.5	98.1	93.3	97.5	96.1	97.2	92.3	79.0	83.3	77.5	73.9
	差	0.1	△3.2	12.0	12.2	1.9	3.7	△0.6	4.9	4.0	7.4	10.6	6.8	17.0	18.3	13.5
25 泌尿生殖器及び肛門用薬	令和6年9月	81.7	66.3	73.5	98.9	93.3	91.1	91.3	92.9	94.7	92.0	89.3	91.7	89.9	91.4	92.0
	令和7年9月	100.0	90.0	100.0	92.6	95.0	98.9	97.9	94.3	96.7	98.0	94.7	97.7	94.9	96.0	96.3
	差	18.3	23.7	26.5	△6.3	1.7	7.8	6.6	1.4	2.0	6.0	5.4	6.0	5.0	4.6	4.3
26 外皮用薬	令和6年9月	52.2	54.6	58.2	58.7	58.7	62.7	64.8	66.7	66.5	64.9	67.0	66.6	66.0	66.8	66.4
	令和7年9月	52.2	55.5	57.6	58.2	60.7	62.9	61.2	60.4	63.3	54.9	59.1	63.5	63.1	64.4	61.8
	差	0.0	0.9	△0.6	△0.5	2.0	0.2	△3.6	△6.3	△3.2	△10.0	△7.9	△3.1	△2.9	△2.4	△4.6
27 歯科口腔用薬	令和6年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4	96.9	97.3	97.5	94.4	92.9	97.6	95.1	95.2	94.2
	令和7年9月	100.0	100.0	100.0	97.0	100.0	99.2	96.7	97.8	96.8	96.0	95.7	95.5	95.7	91.0	96.9
	差	0.0	0.0	0.0	△3.0	0.0	0.8	△0.2	0.5	△0.7	1.6	2.8	△2.1	0.6	△4.2	2.7
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	—	—	0.0	4.1	0.0
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	21.9	—	100.0	0.0	0.0	18.9
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21.9	—	100.0	0.0	0.0	△4.1
31 ビタミン剤	令和6年9月	100.0	100.0	94.4	93.6	96.7	98.0	91.2	95.5	91.1	93.9	91.8	92.7	91.5	89.3	88.4
	令和7年9月	100.0	100.0	98.7	99.6	100.0	97.9	98.5	98.9	96.5	94.9	94.2	95.3	93.6	93.8	92.6
	差	0.0	0.0	4.3	6.0	3.3	△0.1	7.3	3.4	5.4	1.0	2.4	2.6	2.1	4.5	4.2

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)
32 滋養強壯薬	令和6年9月	95.2	98.5	67.3	72.5	47.2	65.0	73.8	67.2	73.1	76.9	80.2	83.2	78.6	88.2	81.7
	令和7年9月	100.0	92.5	66.7	86.2	70.2	55.9	54.1	43.6	35.0	60.1	59.1	56.1	66.2	63.7	56.1
	差	4.8	△ 6.0	△ 0.6	13.7	23.0	△ 9.1	△ 19.7	△ 23.6	△ 38.1	△ 16.8	△ 21.1	△ 27.1	△ 12.4	△ 24.5	△ 25.6
33 血液・体液用薬	令和6年9月	89.6	84.7	83.8	83.8	92.6	92.6	91.7	88.3	91.7	85.7	92.4	88.8	87.1	86.1	84.5
	令和7年9月	96.6	96.6	95.1	94.8	97.7	93.4	97.4	93.9	95.4	93.5	95.4	92.2	93.5	91.3	90.2
	差	7.0	11.9	11.3	11.0	5.1	0.8	5.7	5.6	3.7	7.8	3.0	3.4	6.4	5.2	5.7
34 人工透析用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	100.0
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
39 その他の代謝性医薬品	令和6年9月	70.9	61.4	25.0	82.5	78.3	74.3	75.0	90.6	88.7	82.1	86.7	85.2	85.0	86.1	86.3
	令和7年9月	13.8	94.1	73.7	89.8	88.8	86.0	96.2	93.9	94.6	91.9	93.4	91.6	91.5	90.0	87.7
	差	△ 57.1	32.7	48.7	7.3	10.5	11.7	21.2	3.3	5.9	9.8	6.7	6.4	6.5	3.9	1.4
41 細胞賦活用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	令和6年9月	100.0	—	100.0	—	49.6	82.2	72.6	70.2	92.8	90.6	84.6	84.0	86.2	81.5	87.3
	令和7年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	—	75.1	100.0	94.5	88.4	90.4	88.6	88.3	90.9	88.2	93.7
	差	0.0	—	0.0	—	—	△ 7.1	27.4	24.3	△ 4.4	△ 0.2	4.0	4.3	4.7	6.7	6.4
43 放射性医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	0.0	—	—	—	—	—	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0
44 アレルギー用薬	令和6年9月	71.6	74.2	76.6	80.9	83.2	85.7	86.7	84.1	82.4	83.5	83.8	83.2	82.7	83.8	81.4
	令和7年9月	89.9	85.1	86.6	91.9	87.9	90.7	91.3	91.2	86.8	90.1	90.0	86.0	85.3	86.1	84.9
	差	18.3	10.9	10.0	11.0	4.7	5.0	4.6	7.1	4.4	6.6	6.2	2.8	2.6	2.3	3.5
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び 漢方処方に基づく医薬品	令和6年9月	85.7	78.7	57.4	23.3	28.6	26.3	24.2	25.6	30.3	34.5	32.5	28.3	41.0	27.3	36.7
	令和7年9月	72.7	68.7	68.6	79.7	73.7	68.7	64.5	82.3	66.8	75.3	60.9	57.6	67.4	76.0	78.2
	差	△ 13.0	△ 10.0	11.2	56.4	45.1	42.4	40.3	56.7	36.5	40.8	28.4	29.3	26.4	48.7	41.5
62 化学療法剤	令和6年9月	62.1	58.7	61.1	50.6	64.9	59.1	71.6	77.4	72.9	77.3	68.1	61.4	74.7	74.5	64.8
	令和7年9月	72.2	70.5	74.1	93.5	85.3	91.9	91.3	76.5	86.7	84.8	82.8	84.6	83.3	83.0	78.3
	差	10.1	11.8	13.0	42.9	20.4	32.8	19.7	△ 0.9	13.8	7.5	14.7	23.2	8.6	8.5	13.5

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)		
63 生物学的製剤	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
64 寄生動物用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する 医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	令和6年9月	—	100.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	11.1	21.4	3.6	16.7	35.2	40.5	35.8	34.2	34.2	34.2
	令和7年9月 差	100.0	0.0	50.0	66.7	50.0	28.6	60.0	43.8	74.2	63.9	94.9	62.7	74.2	90.6	71.0	71.0	71.0
73 公衆衛生用薬	令和6年9月	—	△ 100.0	50.0	66.7	50.0	11.9	43.3	32.7	52.8	60.3	78.2	27.5	33.7	54.8	36.8	36.8	36.8
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない 医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	100.0	—	100.0	—	100.0
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月 差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	△ 100.0	—	△ 100.0	—	—
82 非アルカロイド系麻薬	令和6年9月	71.0	87.5	100.0	78.3	96.0	87.4	48.7	53.9	63.0	67.7	50.5	41.7	29.6	39.7	29.1	29.1	29.1
	令和7年9月 差	72.4	100.0	70.6	85.7	25.9	34.9	53.6	34.6	41.6	61.8	45.4	53.8	28.6	31.5	59.5	59.5	59.5
		1.4	12.5	△ 29.4	7.4	△ 70.1	△ 52.5	4.9	△ 19.3	△ 21.4	△ 5.9	△ 5.1	12.1	△ 1.0	△ 8.2	30.4	30.4	30.4

4. 統計分析 (3)若い世代における薬効分類別の使用割合

(資料No.3-1、3-2)

≪年齢階級別の使用割合の高い薬剤の状況≫

- 5歳から9歳は歯科口腔用薬 100%、ビタミン剤 100%、腫瘍用薬 100%、非アルカロイド系麻薬 100%である。
- 10歳から14歳は泌尿生殖器官及び肛門用薬 100%、歯科口腔用薬 100%、腫瘍用薬 100%である。
- 15歳から19歳は腫瘍用薬 100%、ビタミン剤 99.6%、歯科口腔用薬 97.0%である。
- 腫瘍用薬は、全ての年齢階級において使用割合が100%の状況である。

≪年齢階級別の使用割合の低い薬剤の状況≫

- 5歳から9歳は診断用薬(体外診断用医薬品を除く)0%、外皮用薬 55.5%、抗生物質製剤 68.7%である。
- 10歳から14歳は放射性医薬品 0%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)50.0%、外皮用薬 57.6%である。
- 15歳から19歳は外皮用薬 58.2%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)66.7%、抗生物質製剤 79.7%である。

【5歳から9歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (131/131)	100.0%	診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (0/1)	0.0%
ビタミン剤 (107/107)	100.0%	外皮用薬 (12,761/22,975)	55.5%
腫瘍用薬 (9/9)	100.0%	抗生物質製剤 (6,558/9,552)	68.7%

【10歳から14歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
泌尿生殖器官及び肛門用薬 (636/636)	100.0%	放射性医薬品 (0/17)	0.0%
歯科口腔用薬 (119/119)	100.0%	診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (1/2)	50.0%
腫瘍用薬 (4/4)	100.0%	外皮用薬 (18,799/32,621)	57.6%

【15歳から19歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
腫瘍用薬 (8/8)	100.0%	外皮用薬 (20,900/35,911)	58.2%
ビタミン剤 (15,847/15,914)	99.6%	診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (2/3)	66.7%
歯科口腔用薬 (65/67)	97.0%	抗生物質製剤 (3,246/4,074)	79.7%

《昨年度との比較》

○昨年度と比較し、5歳から9歳は9.7ポイント、10歳から14歳は9.0ポイント、15歳から19歳は12.2ポイントの伸びとなっている。【年齢階級別の使用割合(%)】(P9より)伸びの高かった薬剤は以下のとおり

【5歳から9歳までの前年度比較】

※資料No.3-2より

薬効分類別	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
39 その他の代謝性医薬品	61.4%	94.1%	32.7
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	66.3%	90.0%	23.7
82 非アルカロイド系麻薬	87.5%	100.0%	12.5

【10歳から14歳までの前年度比較】

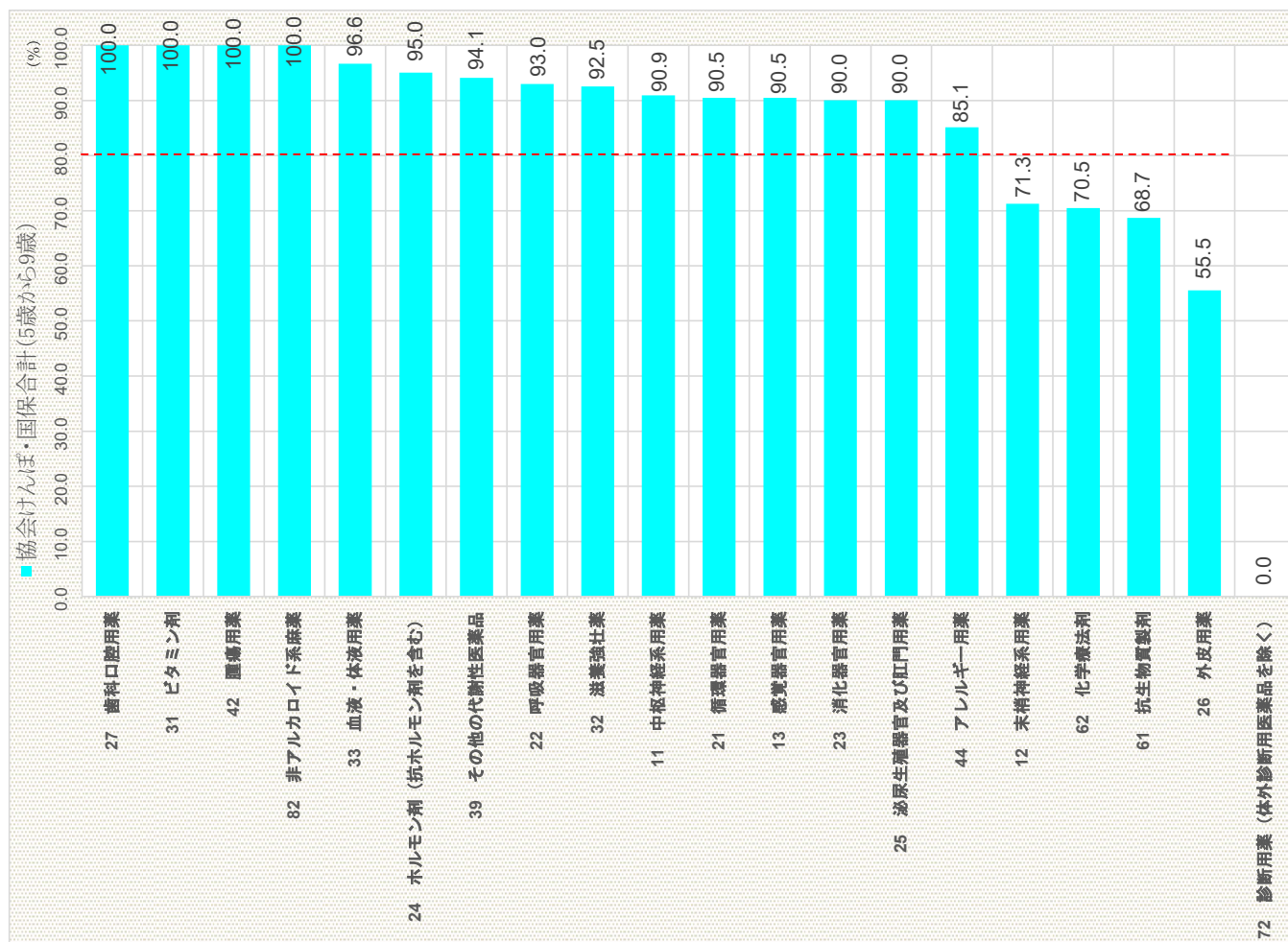
薬効分類別	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	0.0%	50.0%	50.0
39 その他の代謝性医薬品	25.0%	73.7%	48.7
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	73.5%	100.0%	26.5

【15歳から19歳までの前年度比較】

薬効分類別	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	0.0%	66.7%	66.7
61 抗生物質製剤	23.3%	79.7%	56.4
21 循環器官用薬	37.0%	84.0%	47.0

若い世代における薬効分類別の使用割合

資料No.3-1

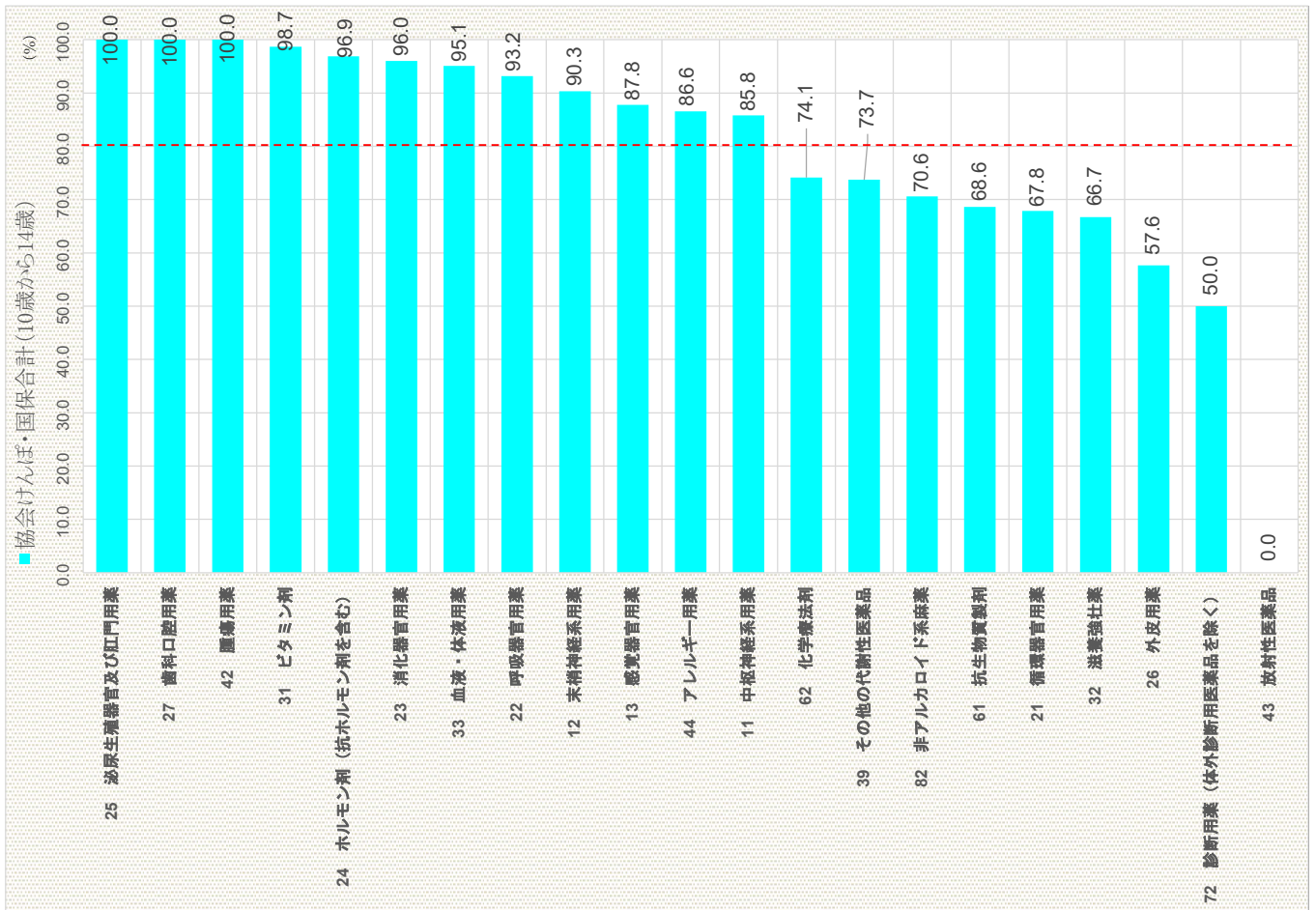


薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (5歳から9歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	131
31 ビタミン剤	100.0	107
42 腫瘍用薬	100.0	9
82 非アルカロイド系麻薬	100.0	7
33 血液・体液用薬	96.6	113,670
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	95.0	1,371
39 その他の代謝性医薬品	94.1	1,340
22 呼吸器官用薬	93.0	96,751
32 滋養強壮薬	92.5	373
11 中枢神経系用薬	90.9	19,378
21 循環器官用薬	90.5	902
13 感覚器官用薬	90.5	6,466
23 消化器官用薬	90.0	12,286
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	90.0	601
44 アレルギー用薬	85.1	178,655
12 末梢神経系用薬	71.3	206
62 化学療法剤	70.5	1,556
61 抗生物質製剤	68.7	9,552
26 外用薬	55.5	22,975
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	0.0	1

若い世代における薬効分類別の使用割合

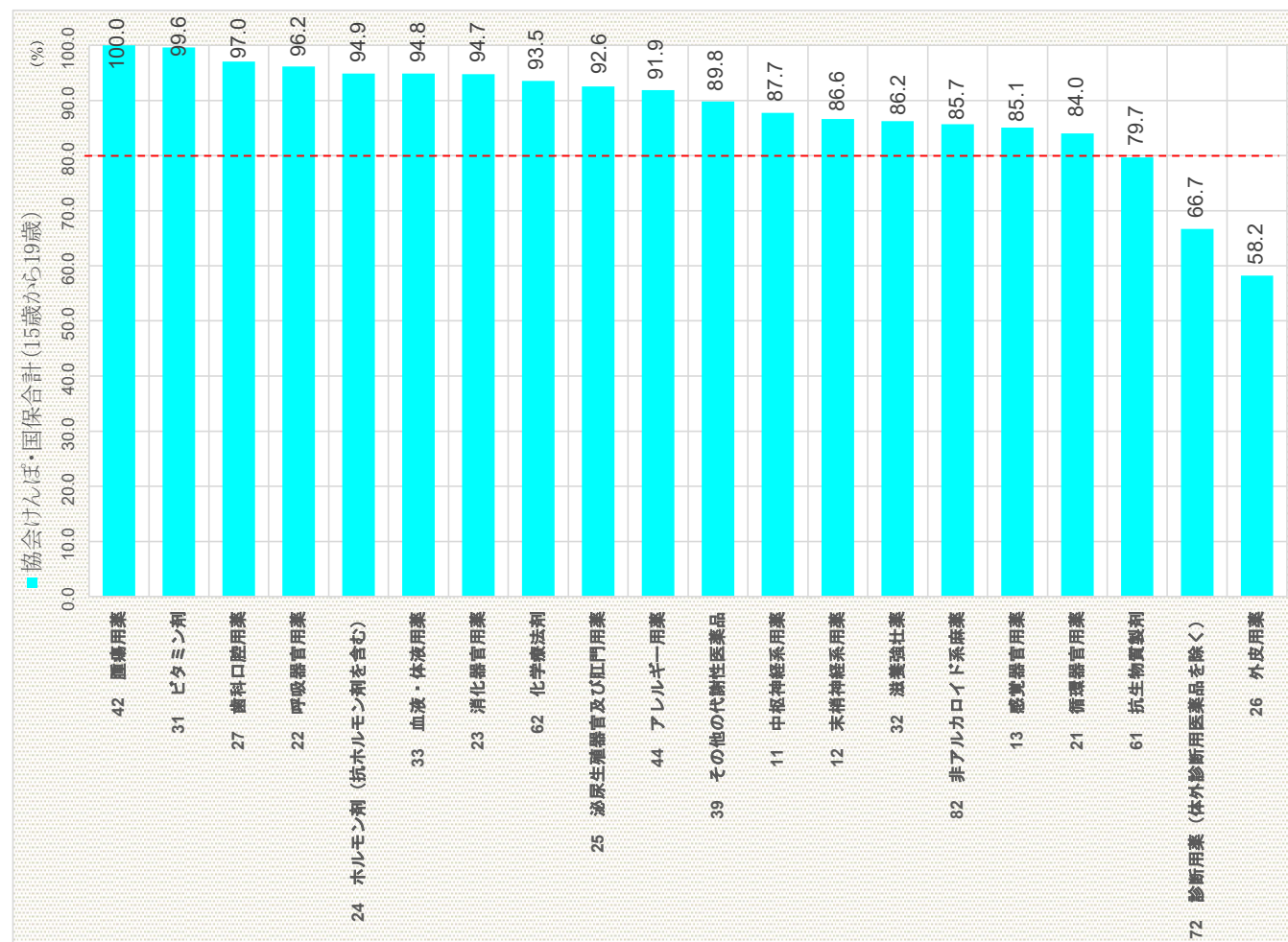
資料№3-1

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(10歳から14歳)	
	使用割合(%)	対象薬剤数 切替薬剤数
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	100.0	636
27 歯科口腔用薬	100.0	119
42 腫瘍用薬	100.0	4
31 ビタミン剤	98.7	4,543
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	96.9	2,073
23 消化器官用薬	96.0	21,796
33 血液・体液用薬	95.1	95,335
22 呼吸器官用薬	93.2	24,626
12 末梢神経系用薬	90.3	2,030
13 感覚器官用薬	87.8	6,899
44 アレルギー用薬	86.6	129,110
11 中枢神経系用薬	85.8	44,875
62 化学療法剤	74.1	1,330
39 その他の代謝性医薬品	73.7	2,797
82 非アルカロイド系麻薬	70.6	17
61 抗生物質製剤	68.6	6,624
21 循環器官用薬	67.8	6,316
32 滋養強壮薬	66.7	1,785
26 外皮用薬	57.6	32,621
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	50.0	2
43 放射性医薬品	0.0	17



若い世代における薬効分類別の使用割合

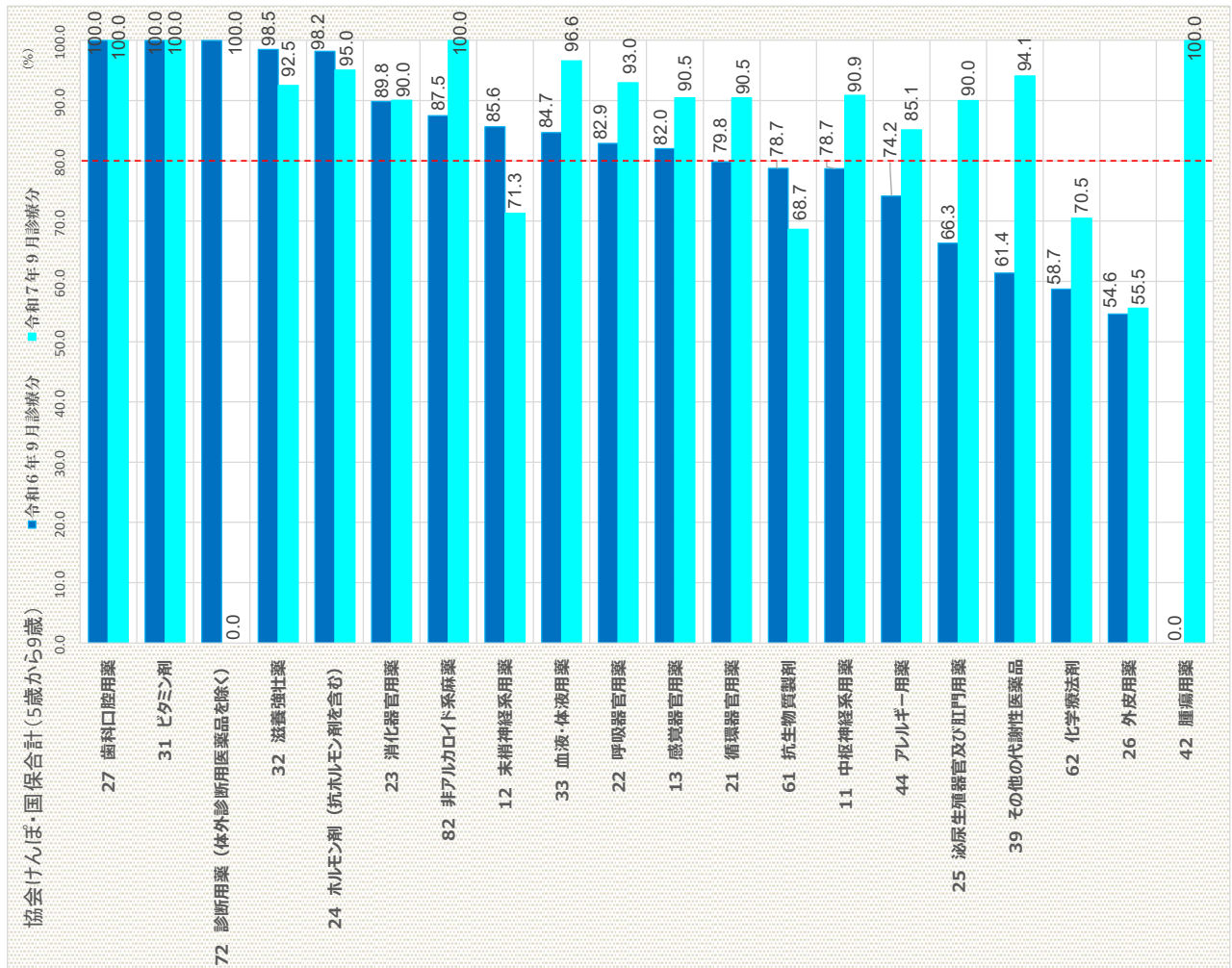
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (15歳から19歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
42 腫瘍用薬	100.0	8
31 ビタミン剤	99.6	15,914
27 歯科口腔用薬	97.0	67
22 呼吸器官用薬	96.2	13,053
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	94.9	9,962
33 血液・体液用薬	94.8	81,335
23 消化器官用薬	94.7	31,356
62 化学療法剤	93.5	2,048
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	92.6	1,061
44 アレルギー用薬	91.9	58,666
39 その他の代謝性医薬品	89.8	8,003
11 中枢神経系用薬	87.7	71,524
12 末梢神経系用薬	86.6	3,212
32 滋養強壮薬	86.2	2,647
82 非アロカロイド系麻薬	85.7	84
13 感覚器官用薬	85.1	6,040
21 循環器官用薬	84.0	9,686
61 抗生物質製剤	79.7	4,074
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	66.7	3
26 外皮用薬	58.2	35,911

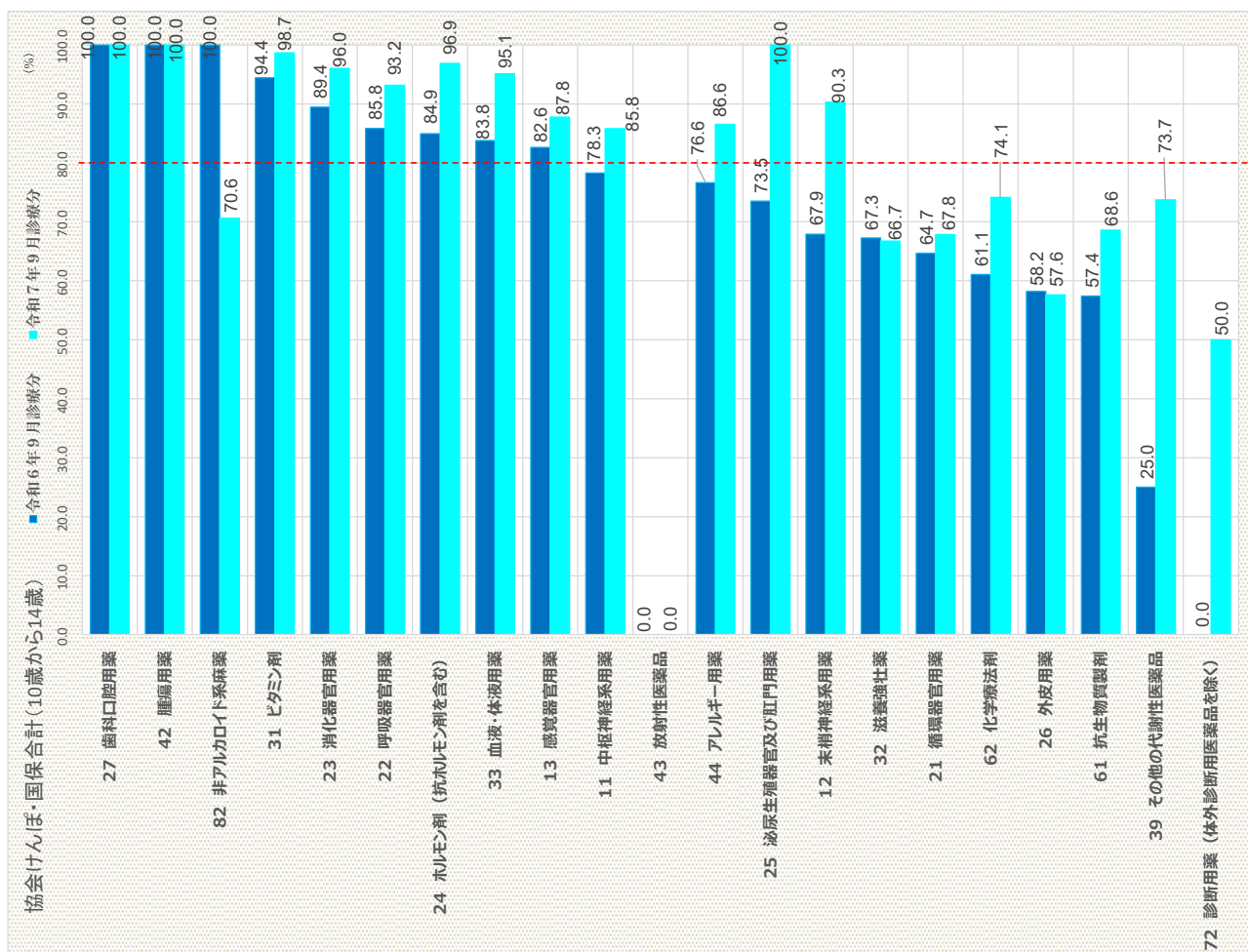
若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(5歳から9歳)				令和7年9月診療分			
	令和6年9月診療分		令和7年9月診療分		使用割合(%)		使用割合(%)	
	対象薬剤数	切替薬剤数	対象薬剤数	切替薬剤数	対象薬剤数	切替薬剤数	対象薬剤数	切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	123	123	100.0	131	131	100.0	131
31 ビタミン剤	100.0	73	73	100.0	107	107	100.0	107
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	100.0	1	1	0.0	1	0	0.0	1
32 滋養強壮薬	98.5	1,642	1,617	92.5	373	345	92.5	373
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	98.2	2,029	1,992	95.0	1,371	1,303	95.0	1,303
23 消化器官用薬	89.8	14,517	13,038	90.0	12,286	11,063	90.0	12,286
82 非アルカロイド系麻薬	87.5	16	14	100.0	7	7	100.0	7
12 末梢神経系用薬	85.6	250	214	71.3	206	147	71.3	206
33 血液・体液用薬	84.7	108,221	91,664	96.6	113,670	109,825	96.6	113,670
22 呼吸器官用薬	82.9	140,709	116,646	93.0	96,751	89,952	93.0	96,751
13 感覚器官用薬	82.0	4,344	3,564	90.5	6,466	5,849	90.5	6,466
21 循環器官用薬	79.8	1,387	1,107	90.5	902	816	90.5	902
61 抗生物質製剤	78.7	12,636	9,950	68.7	9,552	6,558	68.7	9,552
11 中枢神経系用薬	78.7	18,565	14,610	90.9	19,378	17,613	90.9	19,378
44 アレルギ-用薬	74.2	190,444	141,273	85.1	178,655	152,060	85.1	178,655
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	66.3	796	528	90.0	601	541	90.0	601
39 その他の代謝性医薬品	61.4	6,236	3,829	94.1	1,340	1,261	94.1	1,340
62 化学療法剤	58.7	2,202	1,293	70.5	1,556	1,097	70.5	1,556
26 外皮用薬	54.6	25,058	13,683	55.5	22,975	12,761	55.5	22,975
42 腫瘍用薬	—	—	—	100.0	9	9	100.0	9



若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

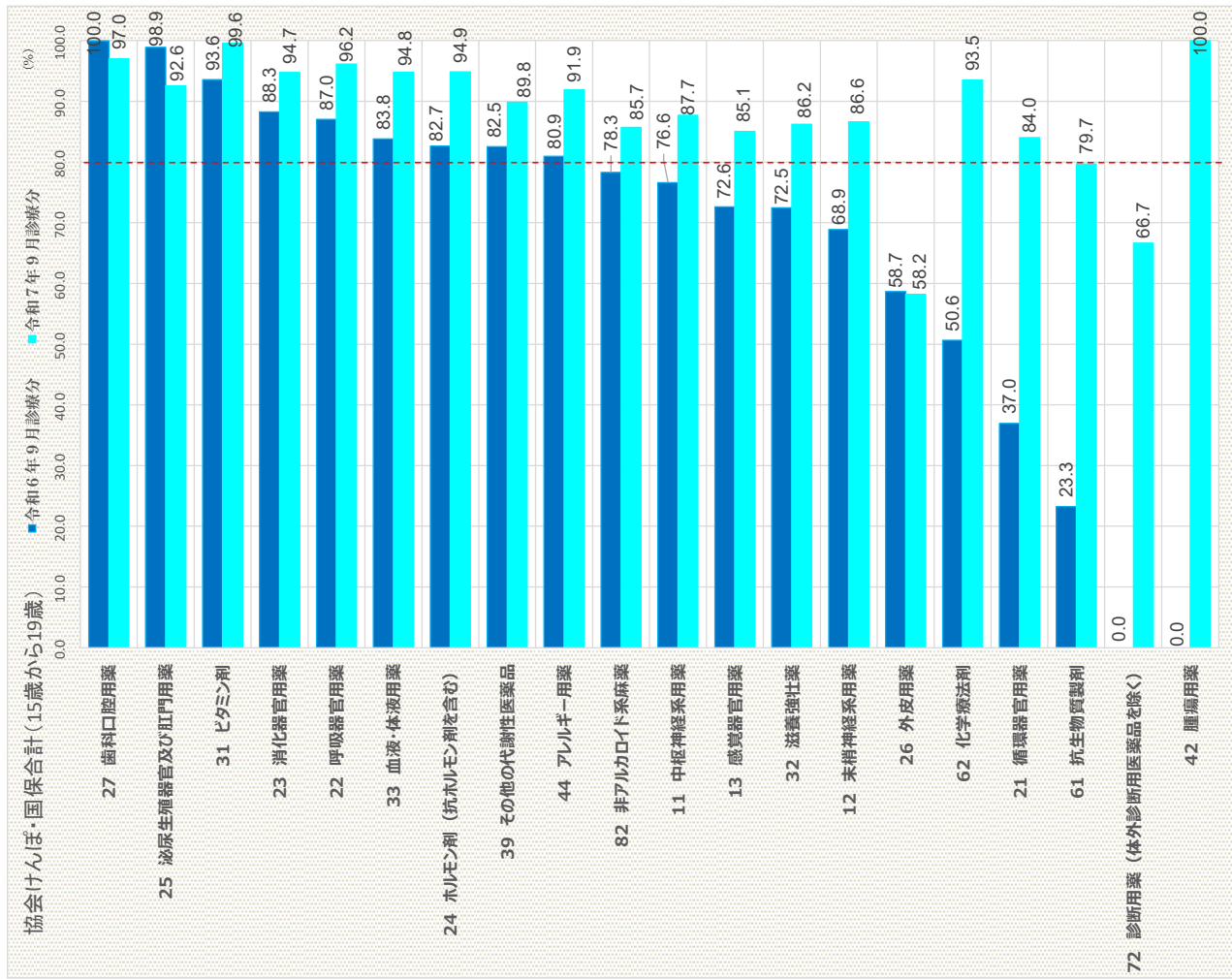
資料№3-2



薬効分類	令和6年9月診療分				令和7年9月診療分				
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	152	152	100.0	119	119	100.0	119	119
42 腫瘍用薬	100.0	23	23	100.0	4	4	100.0	4	4
82 非アルカロイド系麻薬	100.0	25	25	70.6	17	17	70.6	17	12
31 ビタミン剤	94.4	4,135	3,904	98.7	4,543	4,483	98.7	4,543	4,483
23 消化器官用薬	89.4	23,584	21,092	96.0	21,796	20,925	96.0	21,796	20,925
22 呼吸器官用薬	85.8	57,992	49,783	93.2	24,626	22,943	93.2	24,626	22,943
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	84.9	1,997	1,696	96.9	2,073	2,008	96.9	2,073	2,008
33 血液・体液用薬	83.8	75,911	63,608	95.1	95,335	90,672	95.1	95,335	90,672
13 感覚器官用薬	82.6	3,940	3,256	87.8	6,899	6,054	87.8	6,899	6,054
11 中枢神経系用薬	78.3	41,829	32,753	85.8	44,875	38,496	85.8	44,875	38,496
43 放射性医薬品	—	—	—	0.0	17	0	0.0	17	0
44 アレルギ-用薬	76.6	112,242	86,014	86.6	129,110	111,748	86.6	129,110	111,748
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	73.5	608	447	100.0	636	636	100.0	636	636
12 末梢神経系用薬	67.9	1,675	1,138	90.3	2,030	1,833	90.3	2,030	1,833
32 滋養強壮薬	67.3	2,111	1,420	66.7	1,785	1,191	66.7	1,785	1,191
21 循環器官用薬	64.7	5,684	3,677	67.8	6,316	4,285	67.8	6,316	4,285
62 化学療法剤	61.1	1,143	698	74.1	1,330	986	74.1	1,330	986
26 外皮用薬	58.2	41,650	24,238	57.6	32,621	18,799	57.6	32,621	18,799
61 抗生物質製剤	57.4	7,774	4,466	68.6	6,624	4,543	68.6	6,624	4,543
39 その他の代謝性医薬品	25.0	3,404	852	73.7	2,797	2,062	73.7	2,797	2,062
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	0.0	4	0	50.0	2	1	50.0	2	1

若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料№3-2



薬効分類	令和6年9月診療分		令和7年9月診療分	
	使用割合 (%)	対象薬剤数	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	62	97.0	67
25 泌尿生殖器及び肛門用薬	98.9	458	92.6	1,061
31 ビタミン剤	93.6	9,768	99.6	15,914
23 消化器官用薬	88.3	32,617	94.7	31,356
22 呼吸器官用薬	87.0	33,933	96.2	13,053
33 血液・体液用薬	83.8	67,109	94.8	81,335
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	82.7	6,869	94.9	9,962
39 その他の代謝性医薬品	82.5	9,546	89.8	8,003
44 アレルギ-用薬	80.9	57,866	91.9	58,666
82 非アロカロイド系麻薬	78.3	92	85.7	84
11 中枢神経系用薬	76.6	66,576	87.7	71,524
13 感覚器官用薬	72.6	3,694	85.1	6,040
32 滋養強壮薬	72.5	3,964	86.2	2,647
12 末梢神経系用薬	68.9	3,516	86.6	3,212
26 外用用薬	58.7	43,149	58.2	35,911
62 化学療法剤	50.6	2,754	93.5	2,048
21 循環器官用薬	37.0	11,086	84.0	9,686
61 抗生物質製剤	23.3	9,178	79.7	4,074
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	0.0	3	66.7	3
42 腫瘍用薬	—	—	100.0	8

4. 統計分析 (4)後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合

(資料No.4-1、4-2、4-3)

《使用割合の状況(総数)》

○75歳以上の使用割合の総数は、87.9%であり、昨年度より4.7ポイント伸び、国及び山梨県で掲げた目標値80%を超えている。

※資料No.4-2より

	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
使用割合(総数)	83.2%	87.9%	4.7

《使用割合の状況(薬効分類別)》

○75歳以上の使用割合が高い薬剤については、人工透析用薬100%、その他の治療を主目的としない医薬品100%、アルカロイド系麻薬(天然麻薬)100%という状況である。

○75歳以上の使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品0%、その他の個々の器官系用医薬品3.6%、非アルカロイド系麻薬20.2%という状況である。

【75歳以上において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.4-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
人工透析用薬 (50/50)	100.0%	放射性医薬品 (0/8,274)	0.0%
その他の治療を主目的としない 医薬品(3/3)	100.0%	その他の個々の器官系用医薬 品(198/5,422)	3.6%
アルカロイド系麻薬(天然麻 薬)(239/239)	100.0%	非アルカロイド系麻薬 (940/4,663)	20.2%

《昨年度との比較》

○昨年度から最も伸びたのは、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)であり、44.1ポイント伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.4-3より

薬効分類別	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差(%pt)
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	37.0%	81.1%	44.1
61 抗生物質製剤	33.1%	62.0%	28.9
13 感覚器官用薬	68.1%	77.6%	9.5

《使用割合が高い年齢階級の状況及び昨年度との比較》

○年齢階級別に見ると95歳から99歳及び100歳以上において使用割合が最も高く、89.5%である。

また、全ての年齢階級で、80%を超えている。

○昨年度と比較すると、75歳以上で最も高い伸びとなっているのは、80歳から84歳の年齢階級で昨年度から5.3ポイント伸びている。

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳から 79歳	80歳から 84歳	85歳から 89歳	90歳から 94歳	95歳から 99歳	100歳以上
令和6年9月	82.9%	82.4%	83.3%	84.2%	86.0%	89.3%
令和7年9月	87.4%	87.7%	87.8%	89.2%	89.5%	89.5%
差(%pt)	4.5	5.3	4.5	5.0	3.5	0.2

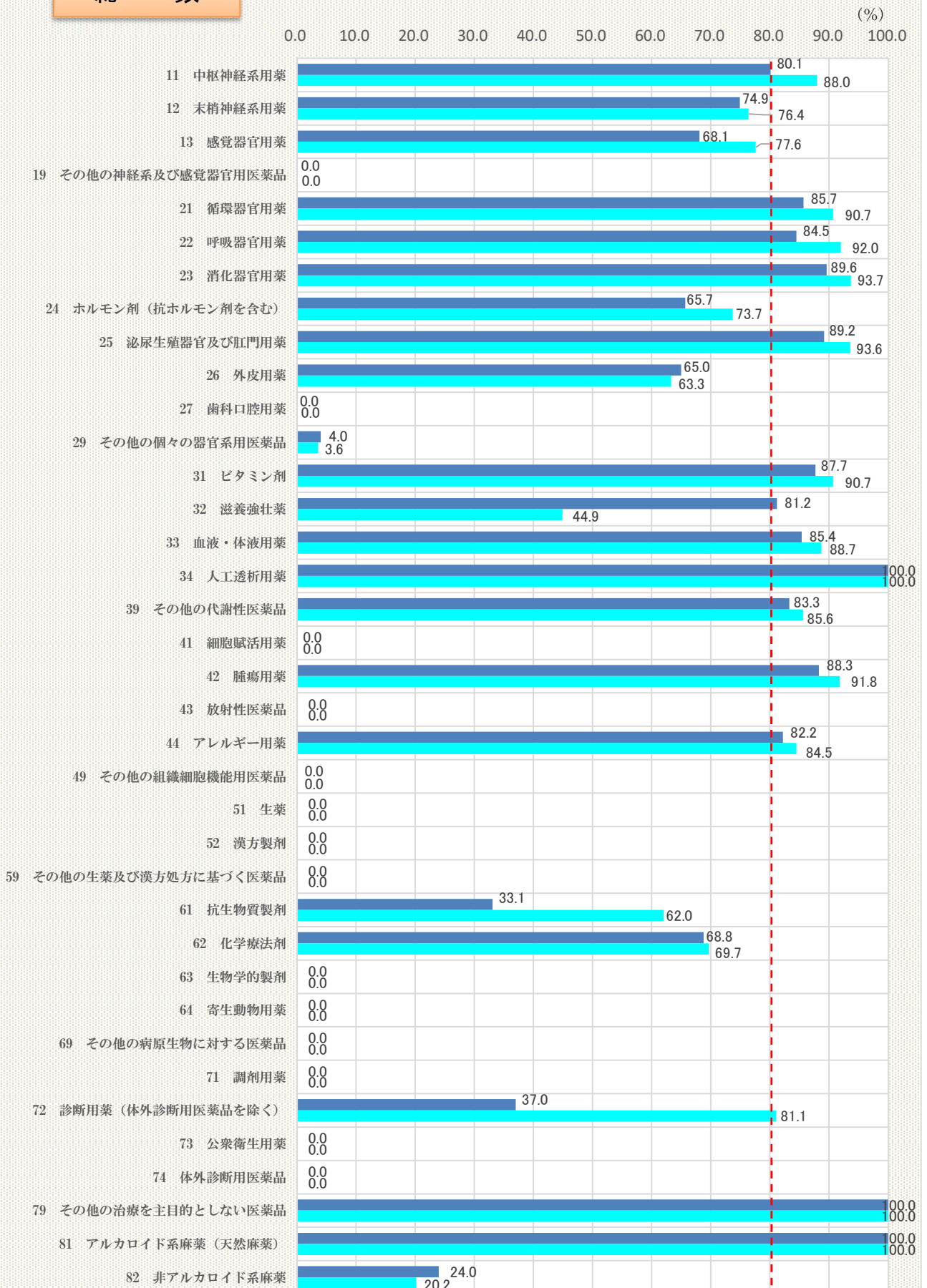
75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1

総数

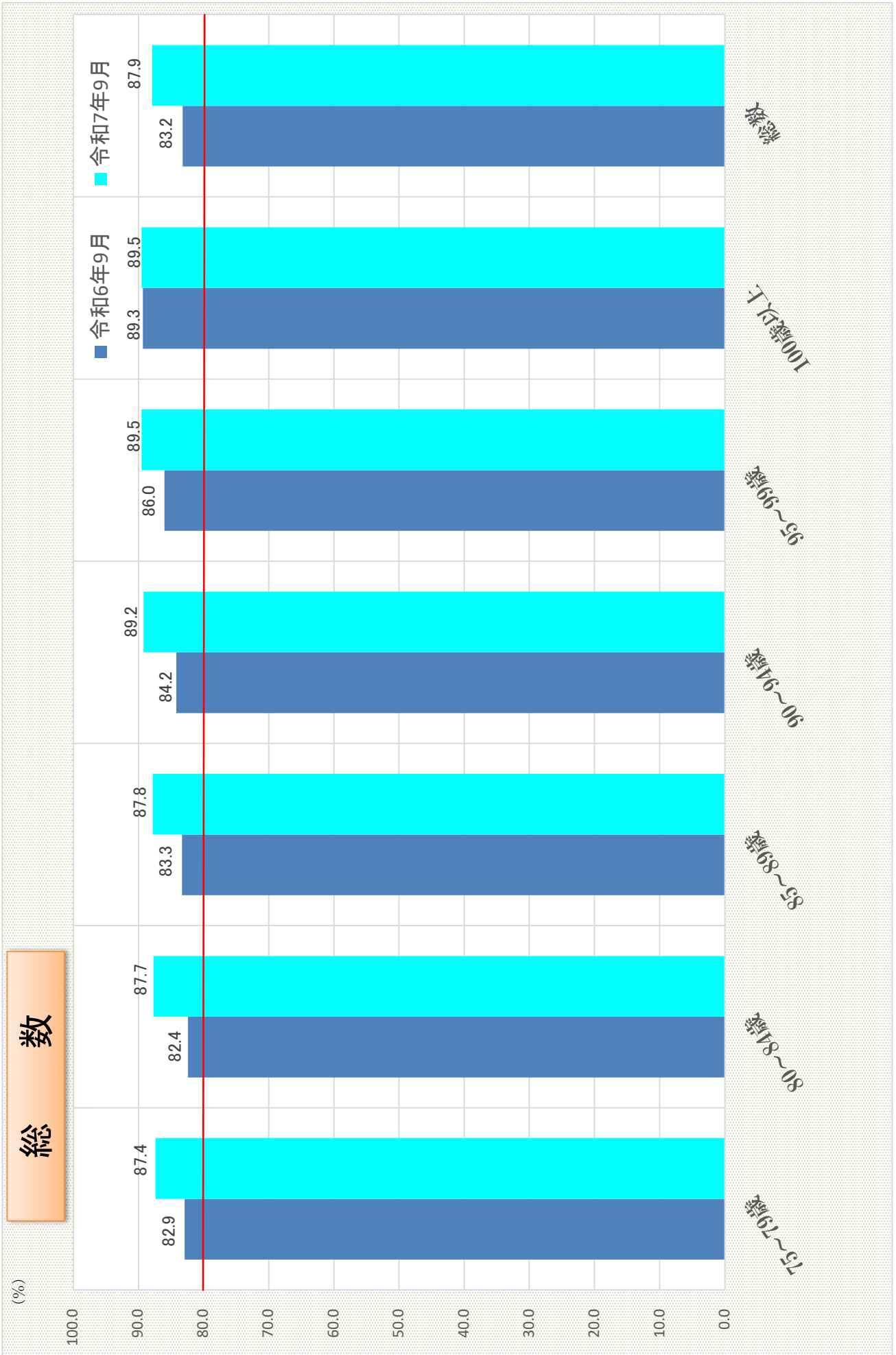
■ 令和6年9月

■ 令和7年9月



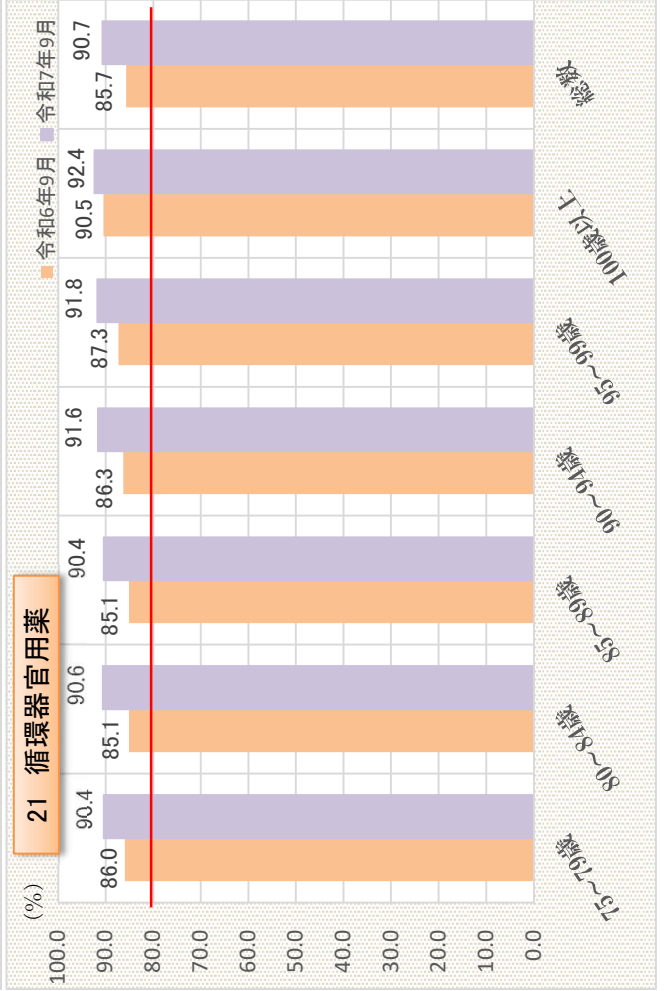
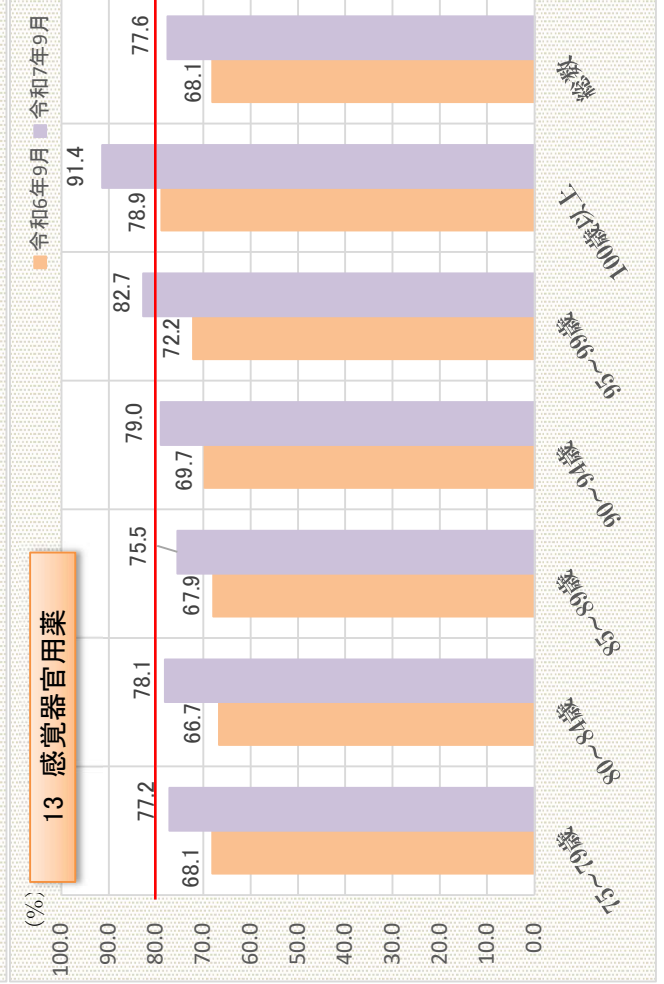
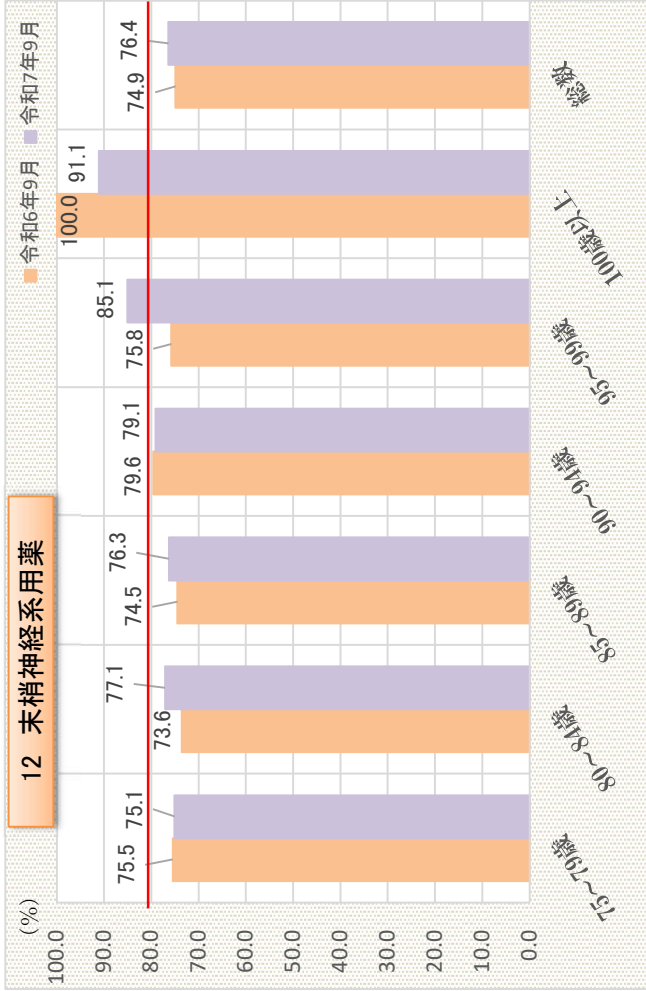
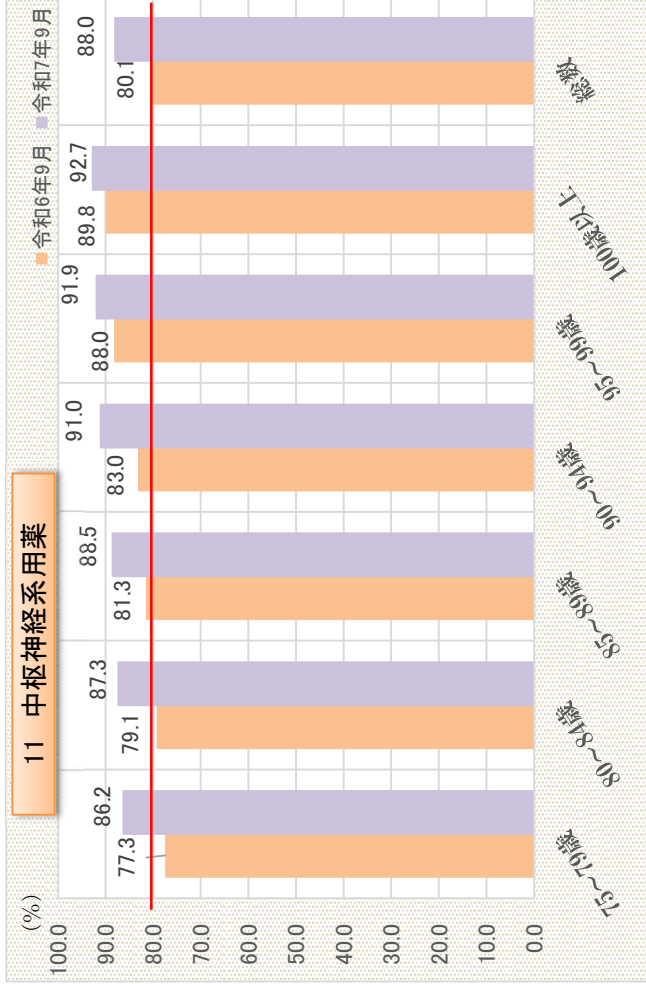
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



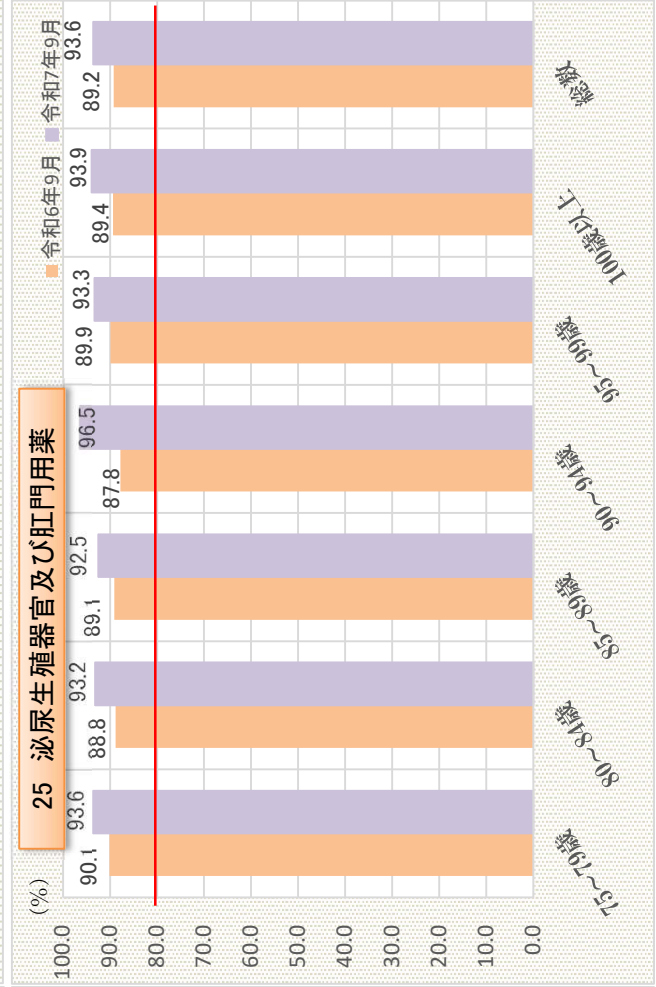
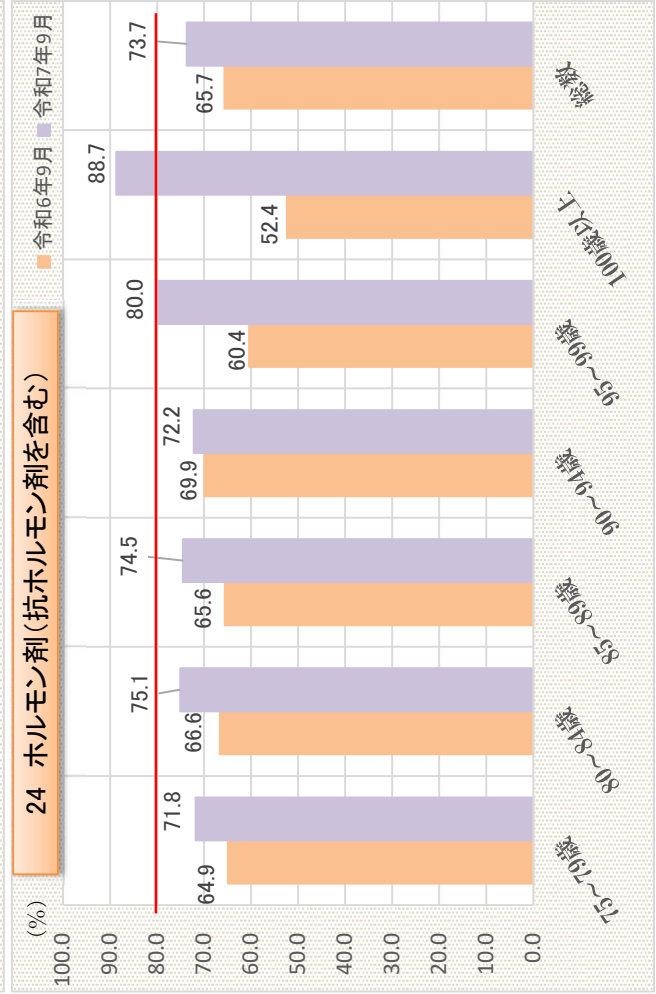
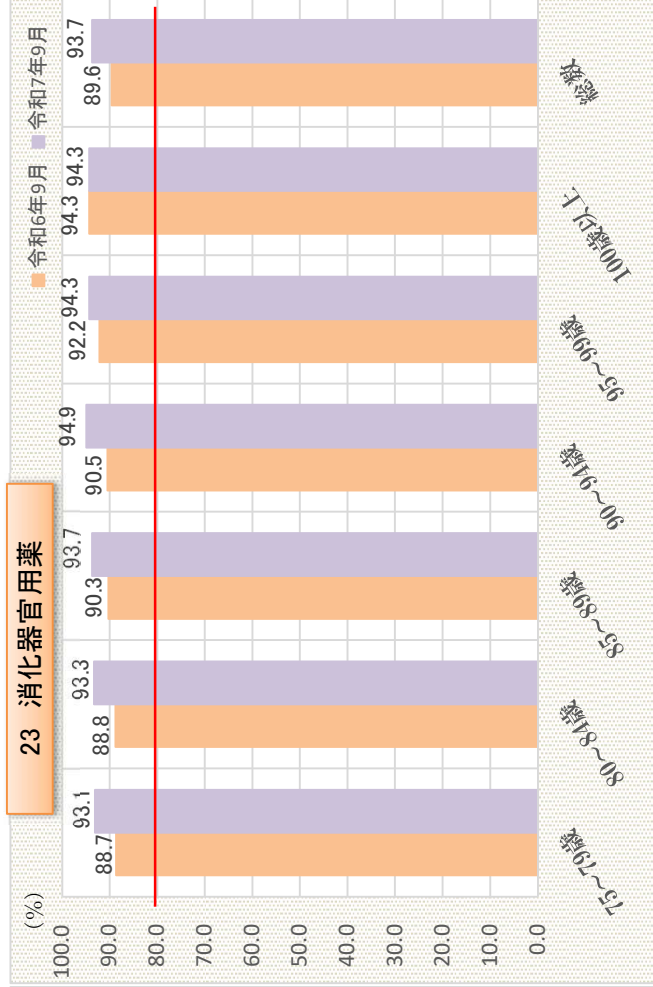
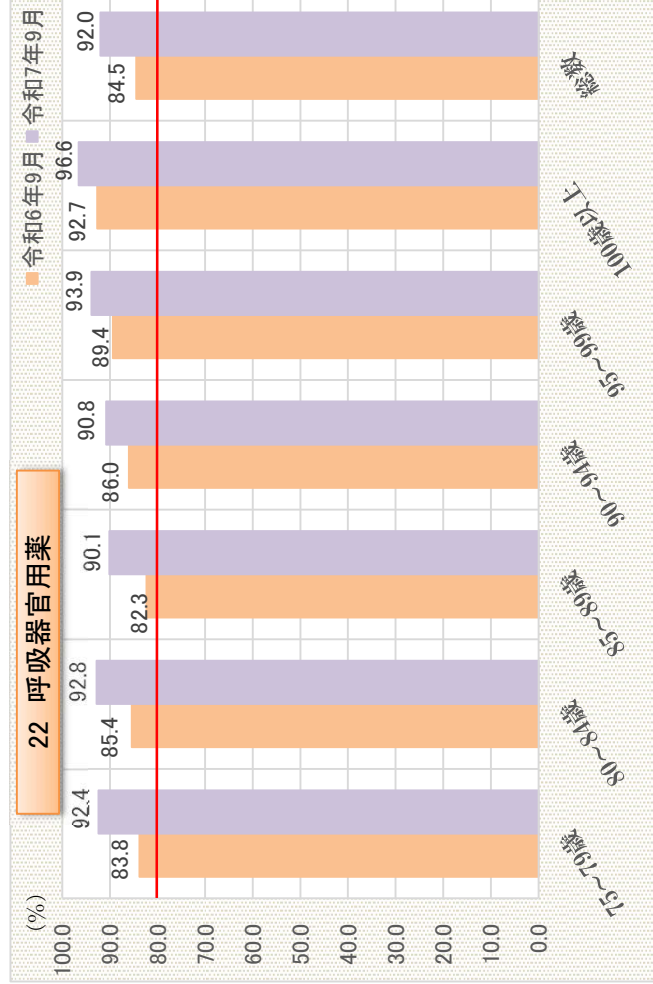
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



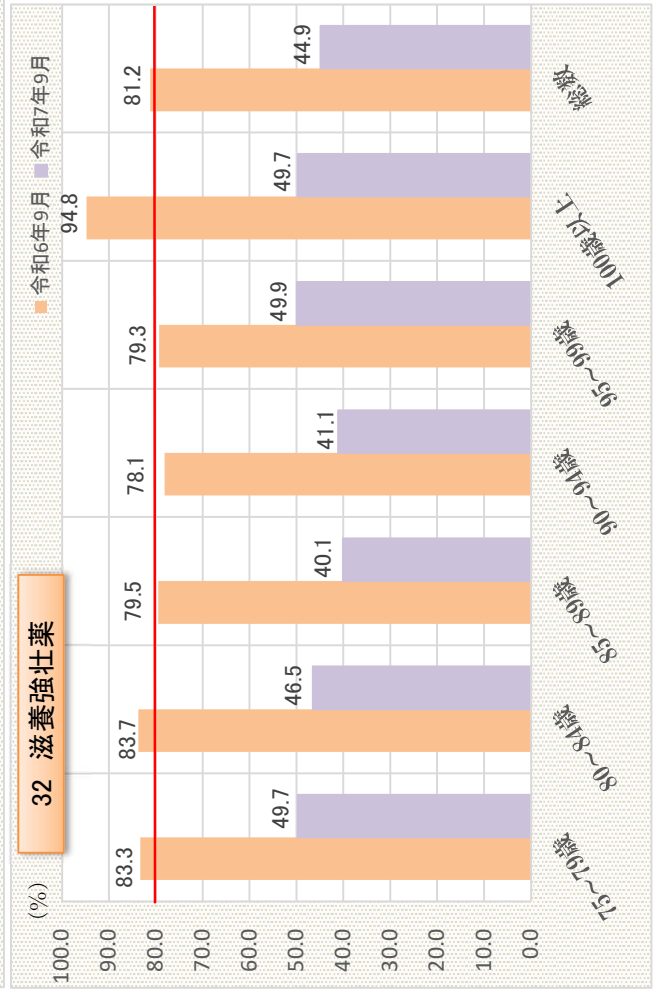
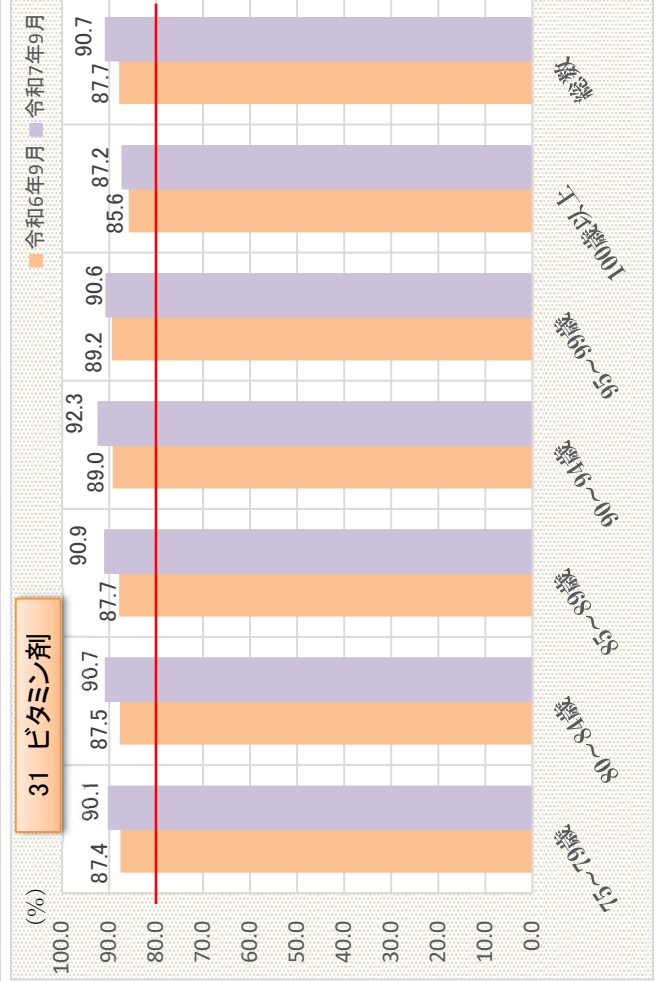
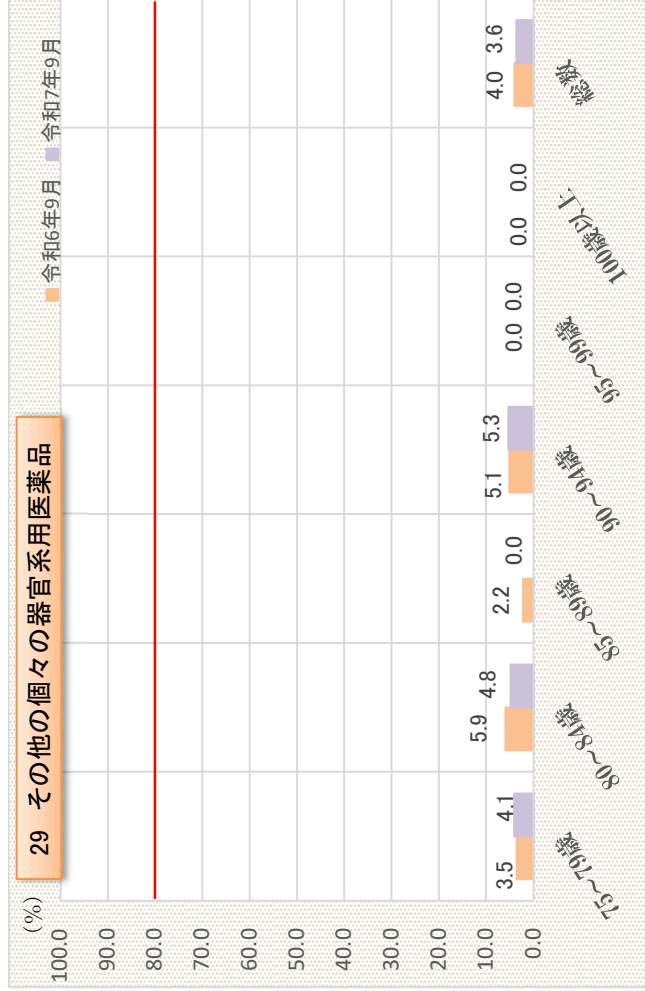
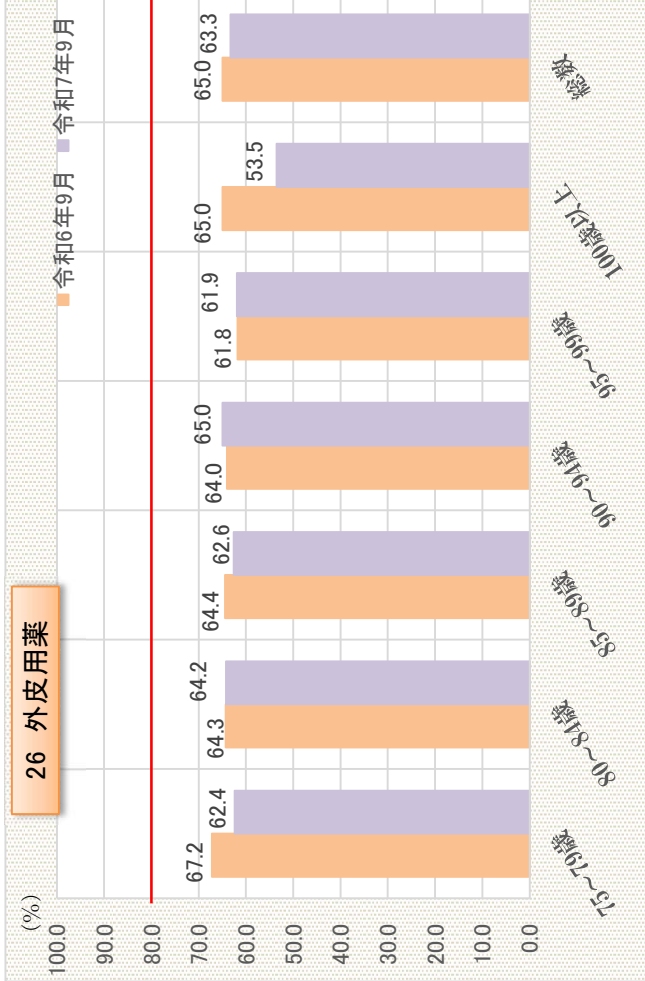
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1-1



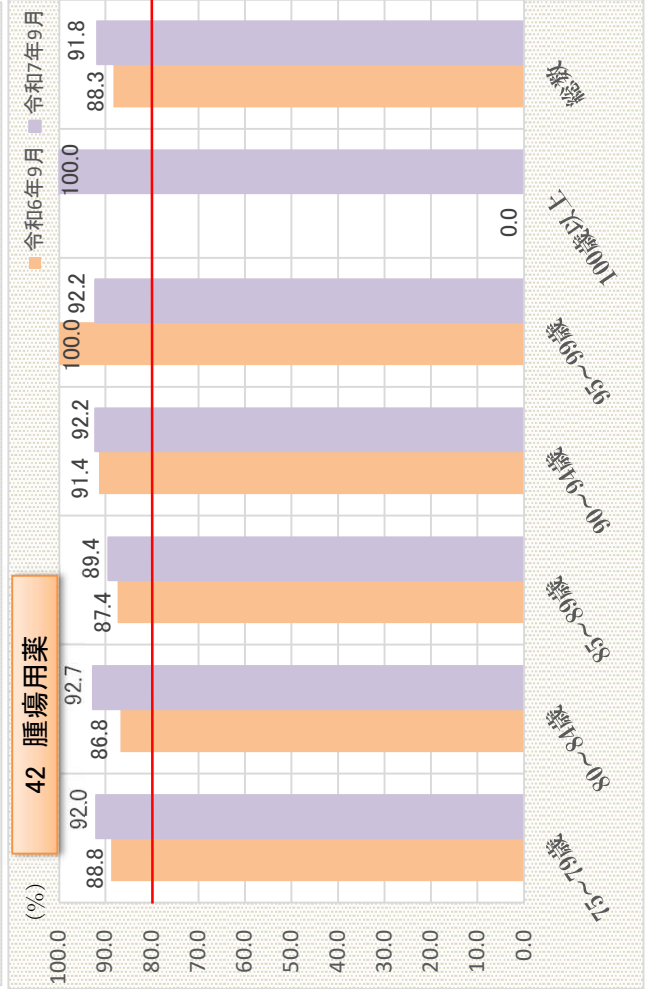
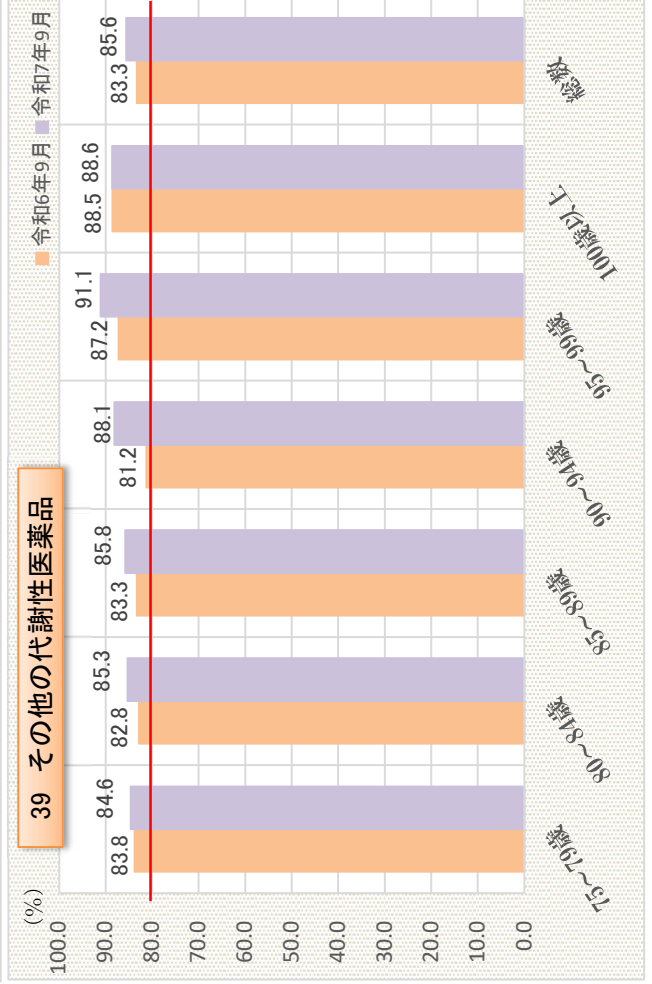
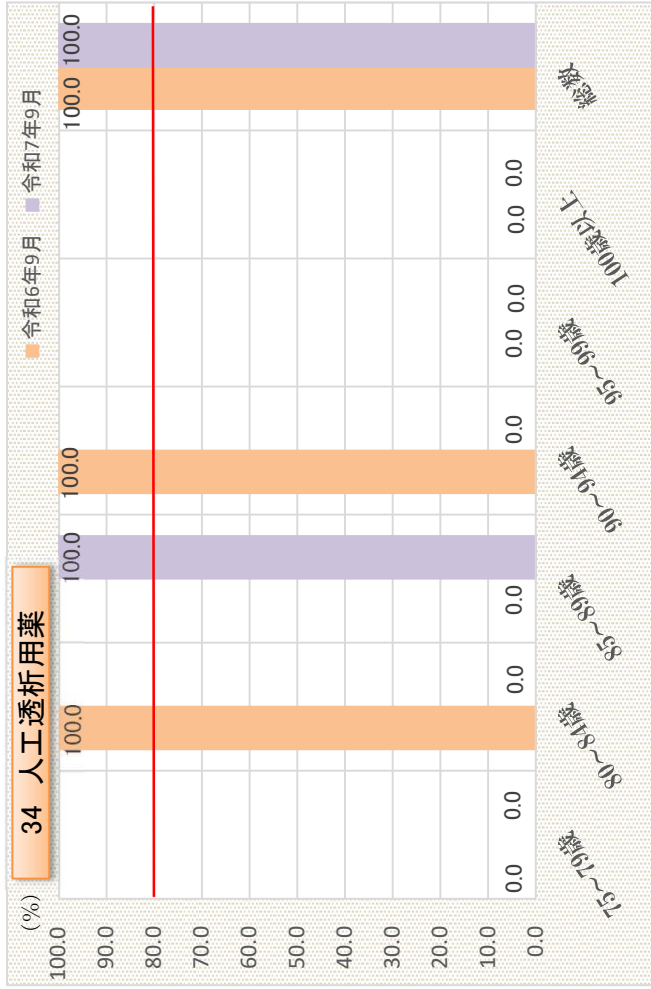
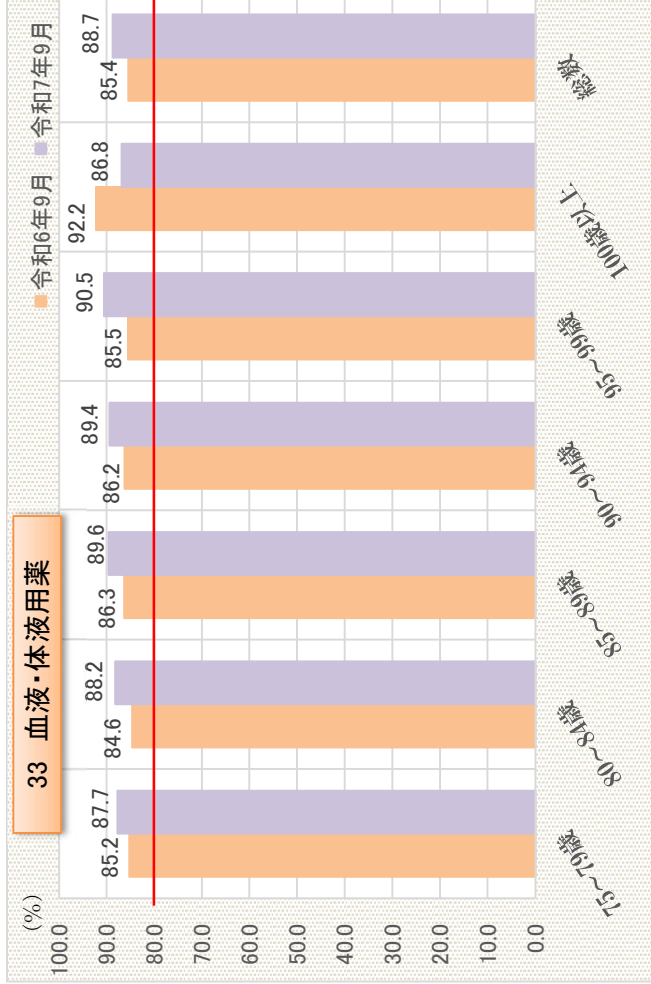
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



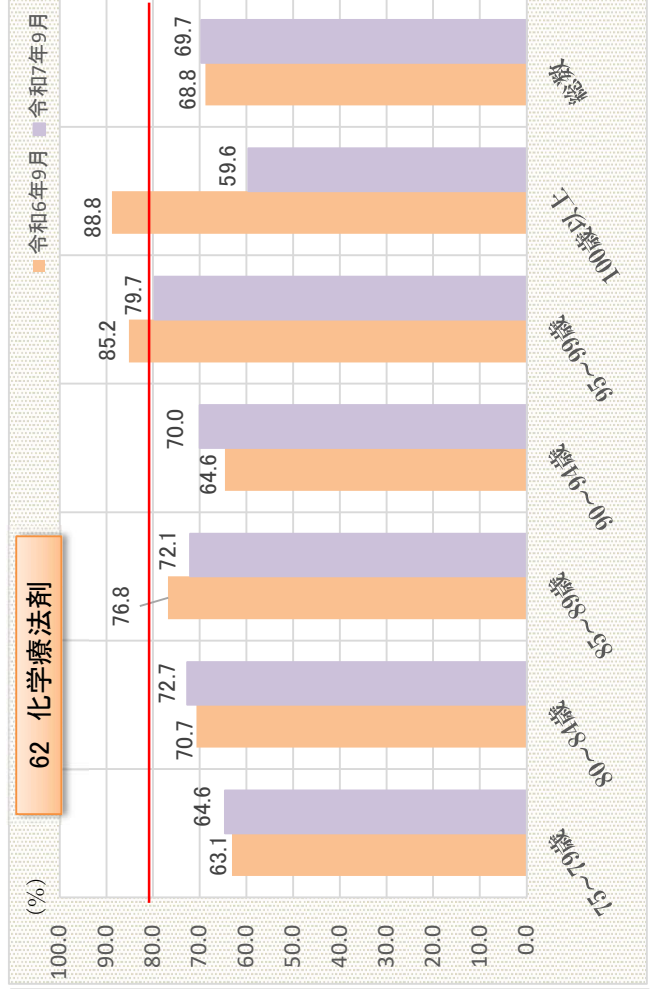
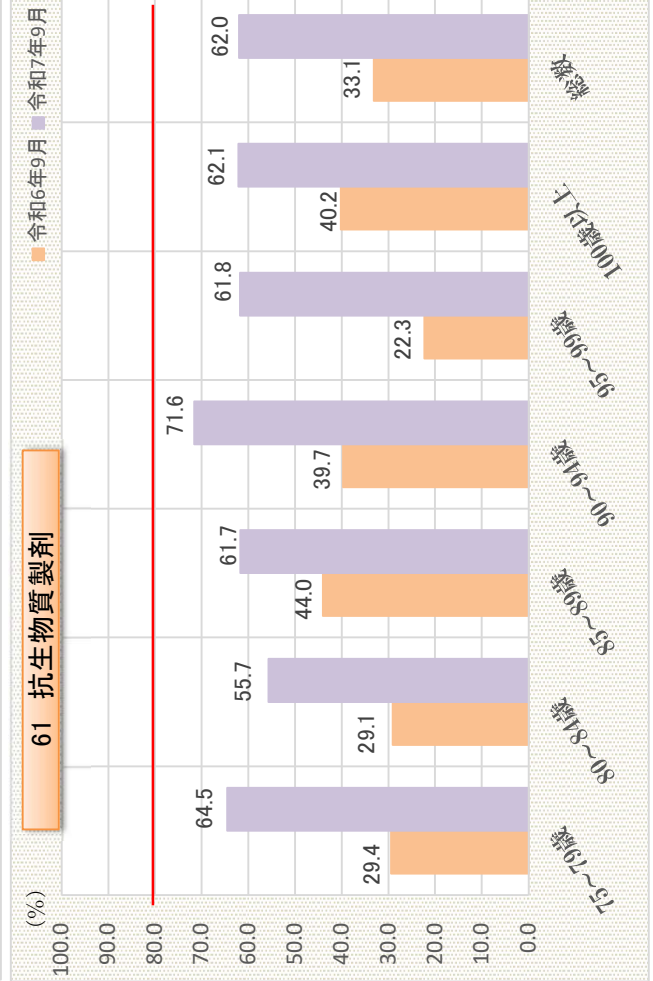
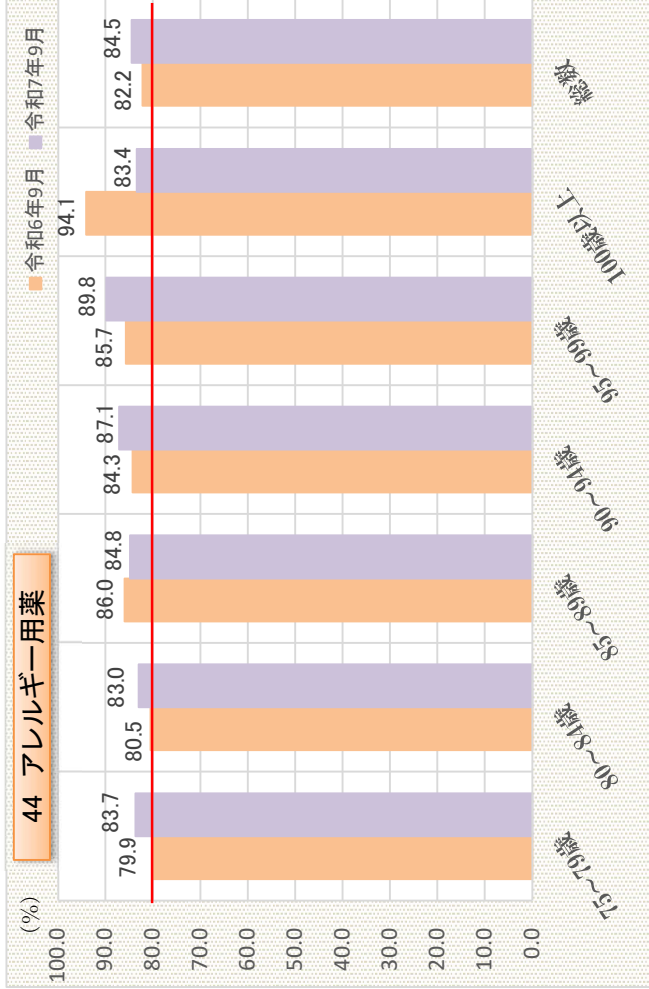
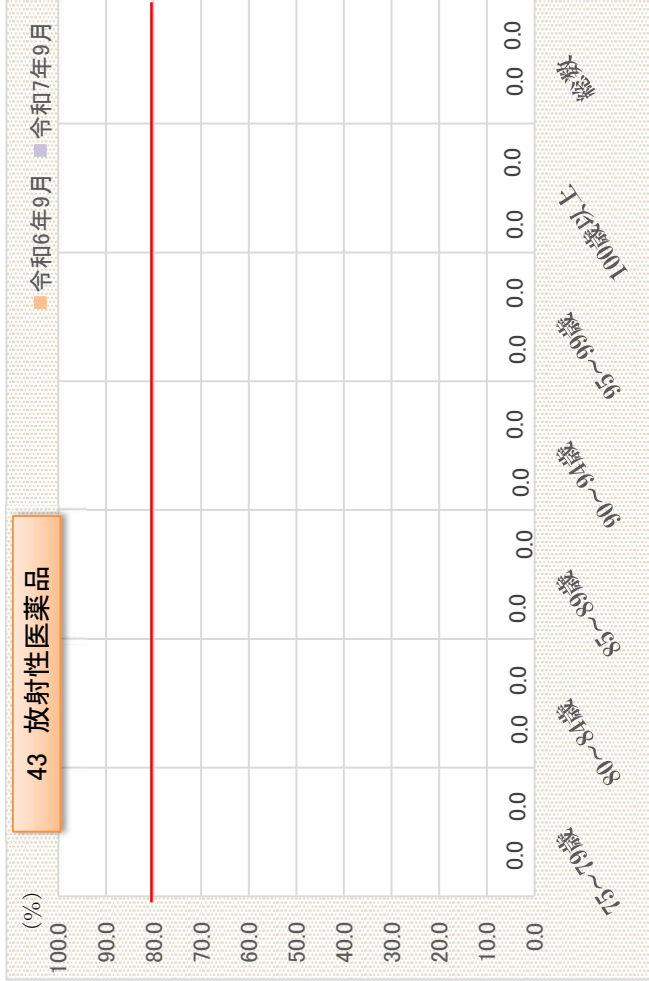
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1-1



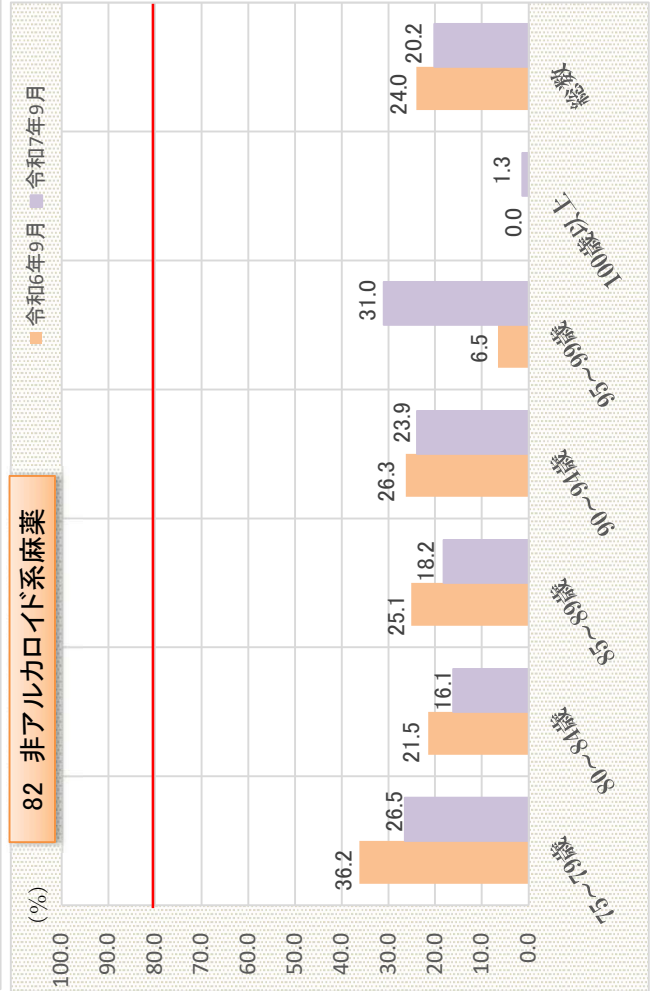
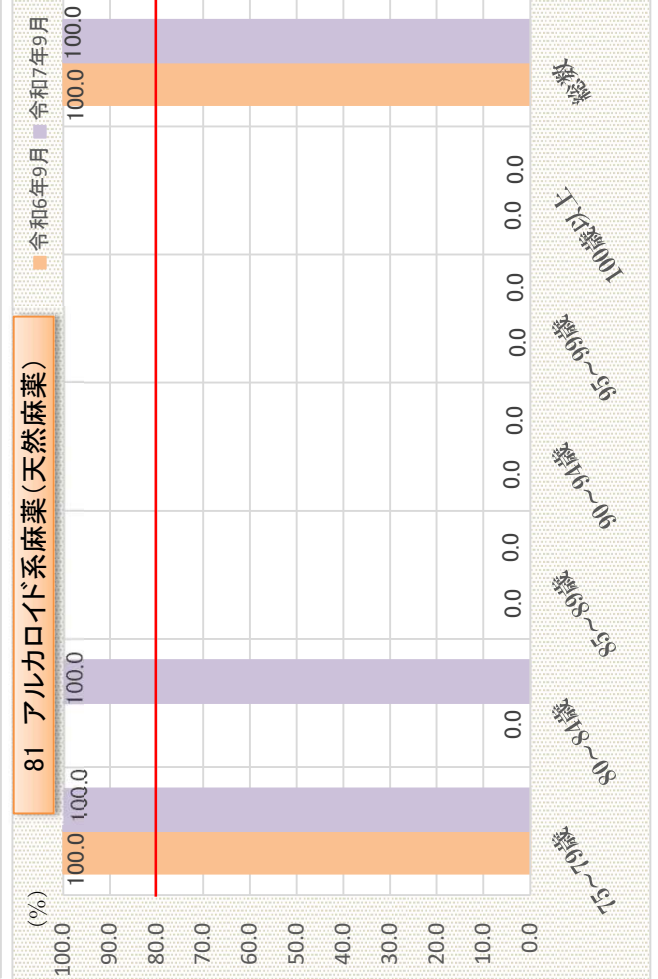
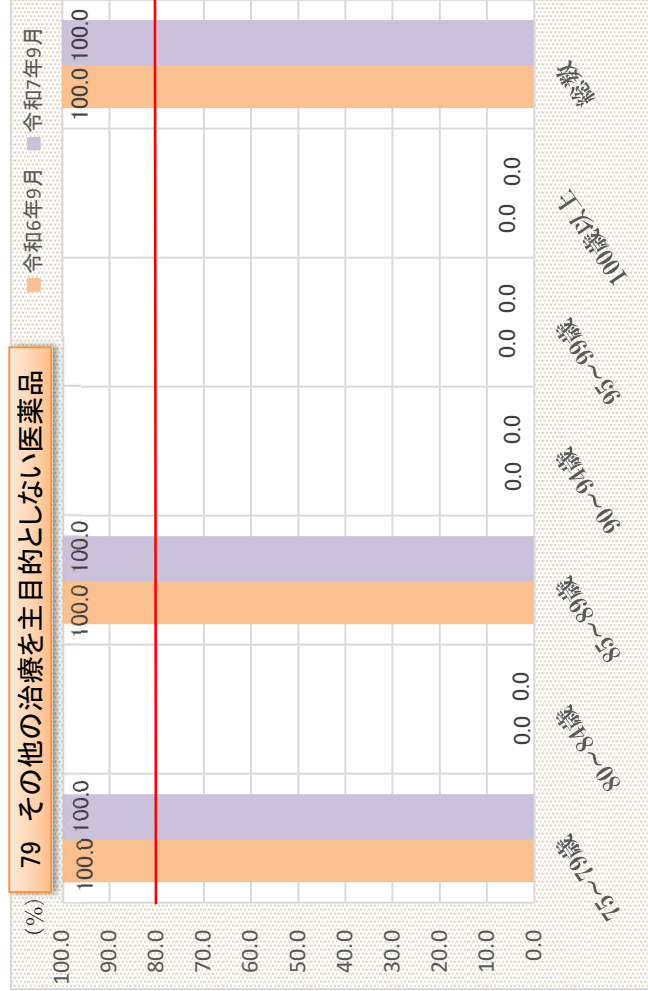
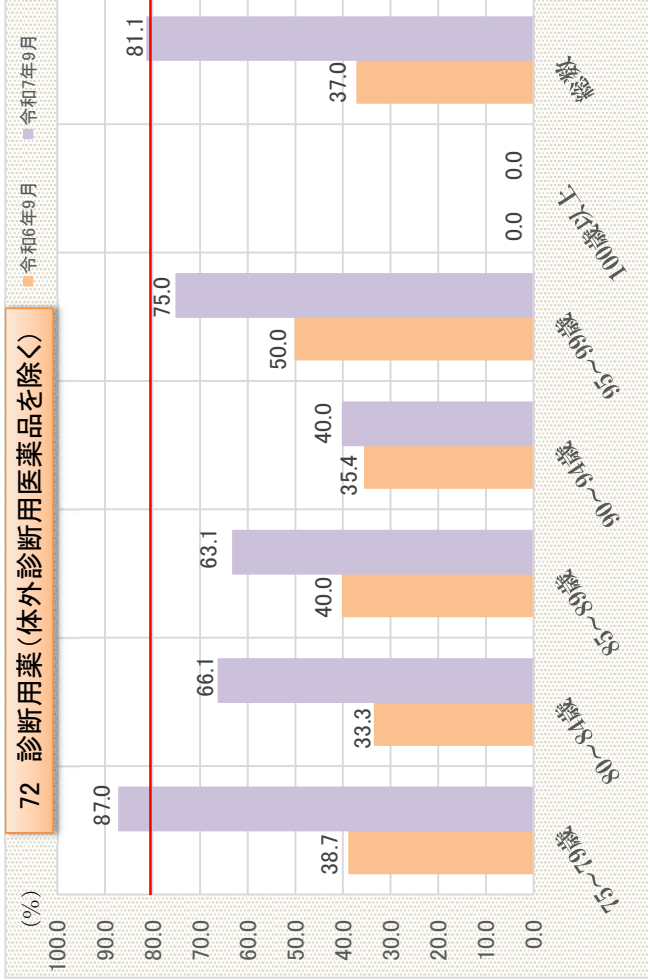
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-2

薬効分類別	令和6年9月診療分			令和7年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	83.2	23,684,194	19,695,150	87.9	22,959,794	20,186,595
11 中枢神経系用薬	80.1	3,171,151	2,538,980	88.0	3,221,746	2,836,609
12 末梢神経系用薬	74.9	163,680	122,652	76.4	166,646	127,358
13 感覚器官用薬	68.1	388,139	264,312	77.6	391,237	303,588
19 その他の神経系及び感覚器官用医薬品	—	0	0	—	0	0
21 循環器官用薬	85.7	7,072,693	6,058,265	90.7	7,281,919	6,602,958
22 呼吸器官用薬	84.5	592,963	501,297	92.0	286,529	263,484
23 消化器官用薬	89.6	4,230,374	3,789,776	93.7	4,068,633	3,811,159
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	65.7	171,921	112,966	73.7	175,751	129,535
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	89.2	624,139	556,584	93.6	664,698	621,990
26 外皮用薬	65.0	1,960,215	1,274,873	63.3	1,120,188	708,742
27 歯科口腔用薬	—	0	0	—	0	0
29 その他の個々の器官系用医薬品	4.0	4,986	200	3.6	5,422	198
31 ビタミン剤	87.7	1,213,728	1,064,686	90.7	1,288,918	1,169,553
32 滋養強壯薬	81.2	219,556	178,225	44.9	237,590	106,571
33 血液・体液用薬	85.4	1,858,257	1,587,236	88.7	1,983,295	1,758,492
34 人工透析用薬	100.0	92	92	100.0	50	50
39 その他の代謝性医薬品	83.3	1,418,968	1,181,477	85.6	1,460,628	1,249,976
41 細胞賦活用薬	—	0	0	—	0	0
42 腫瘍用薬	88.3	84,012	74,181	91.8	89,139	81,789
43 放射性医薬品	0.0	9,525	0	0.0	8,274	0
44 アレルギー用薬	82.2	407,749	335,154	84.5	424,619	358,597
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	0	0	—	0	0
51 生薬	—	0	0	—	0	0
52 漢方製剤	—	0	0	—	0	0
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	0	0	—	0	0
61 抗生物質製剤	33.1	20,509	6,779	62.0	10,400	6,453
62 化学療法剤	68.8	67,295	46,326	69.7	68,320	47,593
63 生物学的製剤	—	0	0	—	0	0
64 寄生動物用薬	—	0	0	—	0	0
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	0	0	—	0	0
71 調剤用薬	—	0	0	—	0	0
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	37.0	368	137	81.1	887	719
73 公衆衛生用薬	—	0	0	—	0	0
74 体外診断用医薬品	—	0	0	—	0	0
79 その他の治療を主目的としない医薬品	100.0	5	5	100.0	3	3
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	100.0	27	27	100.0	239	239
82 非アルカロイド系麻薬	24.0	3,842	922	20.2	4,663	940

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
総 数	令和6年9月	82.9	82.4	83.3	84.2	86.0	89.3	83.2
	令和7年9月	87.4	87.7	87.8	89.2	89.5	89.5	87.9
	差	4.5	5.3	4.5	5.0	3.5	0.2	4.7
11 中枢神経系用薬	令和6年9月	77.3	79.1	81.3	83.0	88.0	89.8	80.1
	令和7年9月	86.2	87.3	88.5	91.0	91.9	92.7	88.0
	差	8.9	8.2	7.2	8.0	3.9	2.9	7.9
12 末梢神経系用薬	令和6年9月	75.5	73.6	74.5	79.6	75.8	100.0	74.9
	令和7年9月	75.1	77.1	76.3	79.1	85.1	91.1	76.4
	差	△ 0.4	3.5	1.8	△ 0.5	9.3	△ 8.9	1.5
13 感覚器官用薬	令和6年9月	68.1	66.7	67.9	69.7	72.2	78.9	68.1
	令和7年9月	77.2	78.1	75.5	79.0	82.7	91.4	77.6
	差	9.1	11.4	7.6	9.3	10.5	12.5	9.5
19 その他の神経系及び感覚器官 用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器官用薬	令和6年9月	86.0	85.1	85.1	86.3	87.3	90.5	85.7
	令和7年9月	90.4	90.6	90.4	91.6	91.8	92.4	90.7
	差	4.4	5.5	5.3	5.3	4.5	1.9	5.0
22 呼吸器官用薬	令和6年9月	83.8	85.4	82.3	86.0	89.4	92.7	84.5
	令和7年9月	92.4	92.8	90.1	90.8	93.9	96.6	92.0
	差	8.6	7.4	7.8	4.8	4.5	3.9	7.5
23 消化器官用薬	令和6年9月	88.7	88.8	90.3	90.5	92.2	94.3	89.6
	令和7年9月	93.1	93.3	93.7	94.9	94.3	94.3	93.7
	差	4.4	4.5	3.4	4.4	2.1	0.0	4.1
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	令和6年9月	64.9	66.6	65.6	69.9	60.4	52.4	65.7
	令和7年9月	71.8	75.1	74.5	72.2	80.0	88.7	73.7
	差	6.9	8.5	8.9	2.3	19.6	36.3	8.0
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	令和6年9月	90.1	88.8	89.1	87.8	89.9	89.4	89.2
	令和7年9月	93.6	93.2	92.5	96.5	93.3	93.9	93.6
	差	3.5	4.4	3.4	8.7	3.4	4.5	4.4
26 外皮用薬	令和6年9月	67.2	64.3	64.4	64.0	61.8	65.0	65.0
	令和7年9月	62.4	64.2	62.6	65.0	61.9	53.5	63.3
	差	△ 4.8	△ 0.1	△ 1.8	1.0	0.1	△ 11.5	△ 1.7
27 歯科口腔用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和6年9月	3.5	5.9	2.2	5.1	0.0	—	4.0
	令和7年9月	4.1	4.8	0.0	5.3	0.0	—	3.6
	差	0.6	△ 1.1	△ 2.2	0.2	0.0	—	△ 0.4
31 ビタミン剤	令和6年9月	87.4	87.5	87.7	89.0	89.2	85.6	87.7
	令和7年9月	90.1	90.7	90.9	92.3	90.6	87.2	90.7
	差	2.7	3.2	3.2	3.3	1.4	1.6	3.0
32 滋養強壯薬	令和6年9月	83.3	83.7	79.5	78.1	79.3	94.8	81.2
	令和7年9月	49.7	46.5	40.1	41.1	49.9	49.7	44.9
	差	△ 33.6	△ 37.2	△ 39.4	△ 37.0	△ 29.4	△ 45.1	△ 36.3
33 血液・体液用薬	令和6年9月	85.2	84.6	86.3	86.2	85.5	92.2	85.4
	令和7年9月	87.7	88.2	89.6	89.4	90.5	86.8	88.7
	差	2.5	3.6	3.3	3.2	5.0	△ 5.4	3.3
34 人工透析用薬	令和6年9月	—	100.0	—	100.0	—	—	100.0
	令和7年9月	—	—	100.0	—	—	—	100.0
	差	—	△ 100.0	100.0	△ 100.0	—	—	0.0
39 その他の代謝性医薬品	令和6年9月	83.8	82.8	83.3	81.2	87.2	88.5	83.3
	令和7年9月	84.6	85.3	85.8	88.1	91.1	88.6	85.6
	差	0.8	2.5	2.5	6.9	3.9	0.1	2.3
41 細胞賦活用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
42 腫瘍用薬	令和6年9月	88.8	86.8	87.4	91.4	100.0	—	88.3
	令和7年9月	92.0	92.7	89.4	92.2	92.2	100.0	91.8
	差	3.2	5.9	2.0	0.8	△ 7.8	100.0	3.5
43 放射性医薬品	令和6年9月	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0
	令和7年9月	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0
44 アレルギー用薬	令和6年9月	79.9	80.5	86.0	84.3	85.7	94.1	82.2
	令和7年9月	83.7	83.0	84.8	87.1	89.8	83.4	84.5
	差	3.8	2.5	△ 1.2	2.8	4.1	△ 10.7	2.3
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和6年9月	29.4	29.1	44.0	39.7	22.3	40.2	33.1
	令和7年9月	64.5	55.7	61.7	71.6	61.8	62.1	62.0
	差	35.1	26.6	17.7	31.9	39.5	21.9	28.9
62 化学療法剤	令和6年9月	63.1	70.7	76.8	64.6	85.2	88.8	68.8
	令和7年9月	64.6	72.7	72.1	70.0	79.7	59.6	69.7
	差	1.5	2.0	△ 4.7	5.4	△ 5.5	△ 29.2	0.9
63 生物学的製剤	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	令和6年9月	38.7	33.3	40.0	35.4	50.0	0.0	37.0
	令和7年9月	87.0	66.1	63.1	40.0	75.0	—	81.1
	差	48.3	32.8	23.1	4.6	25.0	0.0	44.1
73 公衆衛生用薬	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和6年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和7年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	令和6年9月	100.0	—	100.0	—	—	—	100.0
	令和7年9月	100.0	—	100.0	—	—	—	100.0
	差	0.0	—	0.0	—	—	—	0.0
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和6年9月	100.0	—	—	—	—	—	100.0
	令和7年9月	100.0	100.0	—	—	—	—	100.0
	差	0.0	100.0	—	—	—	—	0.0
82 非アルカロイド系麻薬	令和6年9月	36.2	21.5	25.1	26.3	6.5	0.0	24.0
	令和7年9月	26.5	16.1	18.2	23.9	31.0	1.3	20.2
	差	△ 9.7	△ 5.4	△ 6.9	△ 2.4	24.5	1.3	△ 3.8

4. 統計分析 (5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合

(資料No.5-1、5-2)

《使用割合の状況(総数)》

- 協会けんぽ、国保、後期を合算した使用割合の総数は、88.6%であり、昨年度より5.4ポイント伸びている。

※資料No.5-2より

	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差
使用割合(総数)	83.2%	88.6%	5.4

《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 使用割合が高い薬剤については、人工透析薬 100%、アルカロイド系麻薬(天然麻薬) 100%、歯科口腔用薬 96.7%という状況である。
 ○使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品 0%、その他の個々の器官系用医薬品 5.9%、非アルカロイド系麻薬 32.5%という状況である。

【使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.5-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤/対象薬剤)	使用割合
人工透析用薬 (50/50)	100.0%	放射性医薬品 (0/9,848)	0.0%
アルカロイド系麻薬(天然麻薬) (239/239)	100.0%	その他の個々の器官系用医薬品 (425/7,153)	5.9%
歯科口腔用薬 (1,983/2,050)	96.7%	非アルカロイド系麻薬 (3,076/9,468)	32.5%

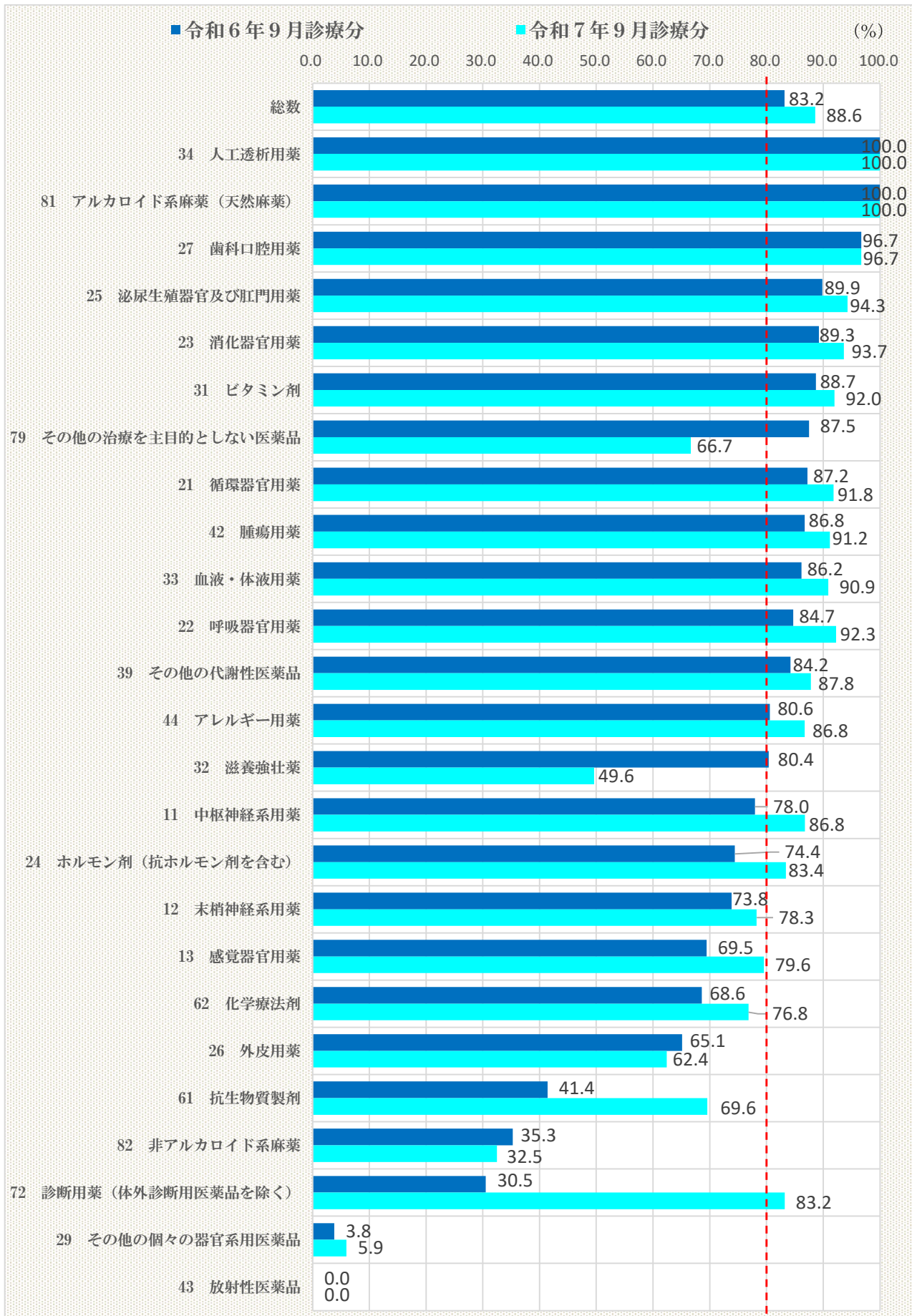
《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)であり 52.7ポイント伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.5-2より

薬効分類別	令和6年9月診療分	令和7年9月診療分	差(%pt)
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	30.5%	83.2%	52.7
61 抗生物質製剤	41.4%	69.6%	28.2
13 感覚器官用薬	69.5%	79.6%	10.1



協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合(前年度比較) 資料No.5-2

薬効分類別	令和6年9月診療分			令和7年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	83.2	45,061,099	37,494,582	88.6	43,094,716	38,185,795
34 人工透析用薬	100.0	146	146	100.0	50	50
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	100.0	196	196	100.0	239	239
27 歯科口腔用薬	96.7	2,065	1,997	96.7	2,050	1,983
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	89.9	894,845	804,026	94.3	936,793	883,506
23 消化器官用薬	89.3	7,013,257	6,260,383	93.7	6,652,977	6,231,836
31 ビタミン剤	88.7	1,953,077	1,733,185	92.0	2,064,964	1,899,519
79 その他の治療を主目的としない医薬品	87.5	8	7	66.7	6	4
21 循環器官用薬	87.2	12,765,743	11,133,205	91.8	12,943,838	11,884,184
42 腫瘍用薬	86.8	165,732	143,777	91.2	174,245	158,903
33 血液・体液用薬	86.2	3,473,281	2,993,509	90.9	3,724,197	3,385,120
22 呼吸器官用薬	84.7	1,690,618	1,432,590	92.3	898,346	828,851
39 その他の代謝性医薬品	84.2	2,924,028	2,463,463	87.8	2,911,943	2,557,661
44 アレルギー用薬	80.6	1,765,996	1,423,643	86.8	1,785,091	1,548,652
32 滋養強壮薬	80.4	357,064	287,063	49.6	356,587	176,897
11 中枢神経系用薬	78.0	6,974,011	5,437,739	86.8	6,975,733	6,053,081
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	74.4	401,203	298,636	83.4	429,713	358,574
12 末梢神経系用薬	73.8	397,712	293,659	78.3	399,688	312,871
13 感覚器官用薬	69.5	665,958	462,573	79.6	690,210	549,145
62 化学療法剤	68.6	162,349	111,378	76.8	157,077	120,704
26 外皮用薬	65.1	3,335,115	2,172,083	62.4	1,907,672	1,190,652
61 抗生物質製剤	41.4	90,562	37,511	69.6	54,405	37,847
82 非アルカロイド系麻薬	35.3	9,278	3,273	32.5	9,468	3,076
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	30.5	921	281	83.2	2,421	2,015
29 その他の個々の器官系用医薬品	3.8	6,802	260	5.9	7,153	425
43 放射性医薬品	0.0	11,133	0	0.0	9,848	0

4. 統計分析 (6)山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合

(資料No.6-1、6-2、6-3)

1. 使用データの概要

- 厚生労働省ホームページに掲載された、保険者別の後発医薬品の使用割合(数量シェア)を使用する。 ※毎年度、9月・3月診療分が掲載される。
- 今回使用するデータは令和5年3月分～令和7年3月分となる(令和8年3月時点掲載)

※以下、2. ～3. については、「データに係る留意点」より抜粋

2. 集計に当たっての保険者の単位等

(1)全保険者種別の共通事項

- 原則として、レセプトに記載された保険者番号ごとに集計・算出する。
- 保険者番号・保険者名は、データ抽出の対象月時点のものを用いる。

(2)保険者種別ごとの個別事項

①国民健康保険

- 保険者番号ごとに集計し、同一市町村の「国民健康保険」と「退職者医療」は合算して集計する。

②国民健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計する。

③健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計することを原則とし、支部や特例退職被保険者などにより複数の保険者番号をもつ健保組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該健保組合の本部のものを用いる。

④全国健康保険協会

- 保険者番号中の法別番号が「01(協会一般)」「03(日雇特例一般)」「04(日雇特例特別)」である3区分を合算して集計する。

⑤共済組合

- 保険者番号ごとの集計を原則とし、支部により複数の保険者番号をもつ共済組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該共済組合の本部のものを用いる。

⑥後期高齢者医療広域連合

- 各都道府県の後期高齢者医療広域連合ごとに合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号は、各都道府県の広域連合の番号を用いる。

3. 抽出データの計算方法等

(1)保険者別の後発医薬品使用割合(数量シェア)の計算方法

- ONDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出している。

○使用割合(数量シェア)

$$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]})$$
で算出している。

(2)抽出対象のレセプト

○医科入院、DPC(出来高払い部分は対象。包括払い部分は対象外)、医科入院外、
歯科、調剤

(3)その他の主な留意点

○ONDBの性質上、審査支払機関の支払請求に係るレセプトのうち電算処理に係るもの(電子レセプト)が算出対象となり(紙レセプトに係るものは対象外)、また、記載の不備等によりNDBに集約されないレセプトは対象外となること。なお、保険者が審査支払機関に差し戻したレセプトは、既にNDBに集約済みであるため算出の対象となる。

○集計の対象月の診療に係るレセプトであっても、医療機関からの請求の遅れ等によりデータ抽出時に審査支払機関からNDBへ格納がなされていないレセプトは抽出の対象外となる。

4. 統計分析

(1)山梨県_保険者別ジェネリック医薬品使用割合 (資料No.6-1、6-2、6-3)

《使用割合の状況(令和7年3月診療分)》

○使用割合が高い保険者は、小菅村 92.8%、南部町 92.5%、身延町 91.8%という状況である。

○使用割合が低い保険者は、医師国保組合 79.8%、富士吉田市 85.4%、上野原市 85.6%という状況である。

【使用割合の上位・下位5保険者】

※資料No.6-1 より

上位		下位	
保険者名	使用割合	保険者名	使用割合
小菅村	92.8%	医師国保組合	79.8%
南部町	92.5%	富士吉田市	85.4%
身延町	91.8%	上野原市	85.6%
韮崎市	91.6%	山中湖村	86.6%
丹波山村	90.8%	昭和町	86.9%

《前年度同月との比較(令和6年3月診療分、令和7年3月診療分)》

○前年度同月の使用割合を比較し、最も伸びたのは、丹波山村の13.6ポイントである。

【前年度同月比較上位3保険者】

※資料No.6-1 より

保険者名	令和6年3月診療分	令和7年3月診療分	差
丹波山村	77.2%	90.8%	13.6
医師国保組合	67.9%	79.8%	11.9
山日 YBS 健康保険組合	80.6%	89.1%	8.5

山梨県_保険者別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-1

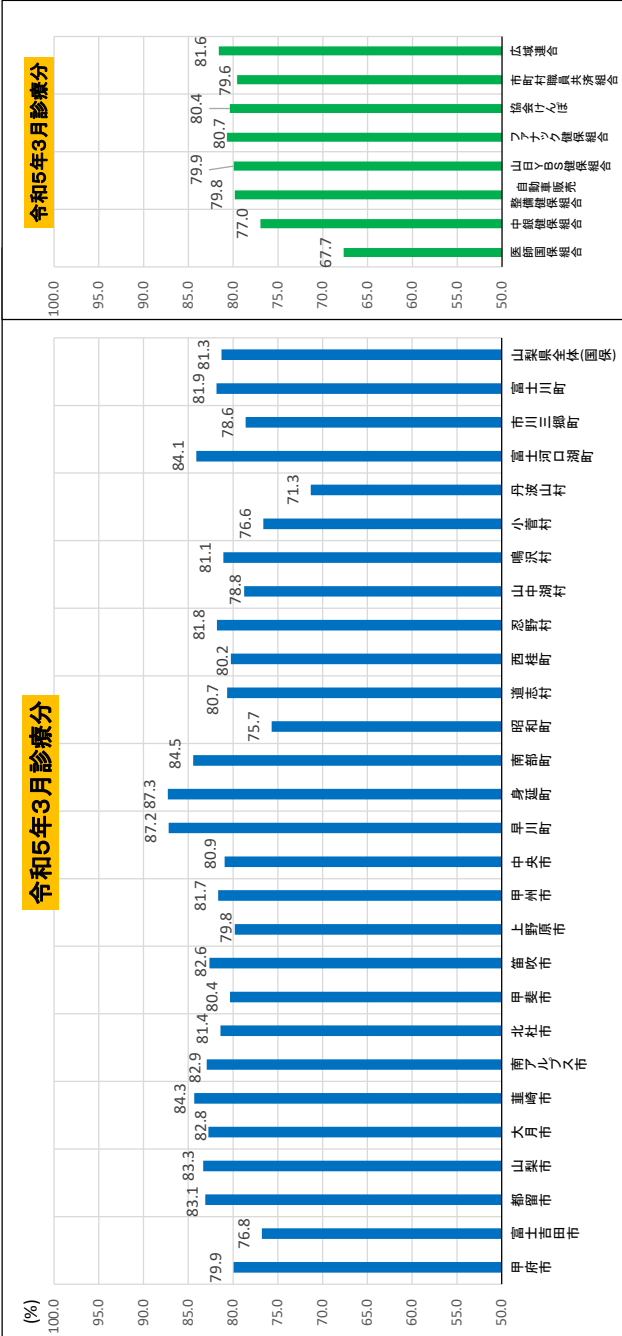
保険者種別	保険者番号	保険者名	診療月				
			令和5年3月分	令和5年9月分	令和6年3月分	令和6年9月分	令和7年3月分
			使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
国民健康保険	190017	甲府市	79.9%	80.6%	81.6%	82.6%	87.6%
	190025	富士吉田市	76.8%	77.9%	79.1%	80.4%	85.4%
	190041	都留市	83.1%	84.7%	84.2%	85.4%	89.8%
	190058	山梨市	83.3%	85.0%	84.3%	87.9%	90.2%
	190066	大月市	82.8%	84.1%	84.4%	84.0%	89.1%
	190074	韮崎市	84.3%	84.4%	85.4%	88.4%	91.6%
	190082	南アルプス市	82.9%	84.1%	85.1%	86.3%	90.7%
	190090	北杜市	81.4%	81.8%	83.0%	83.8%	87.2%
	190108	甲斐市	80.4%	81.9%	82.3%	85.4%	90.3%
	190116	笛吹市	82.6%	84.3%	84.2%	86.3%	89.7%
	190124	上野原市	79.8%	80.9%	81.6%	82.4%	85.6%
	190132	甲州市	81.7%	83.2%	82.8%	84.0%	89.2%
	190140	中央市	80.9%	81.3%	82.7%	84.8%	89.7%
	190728	早川町	87.2%	85.2%	86.9%	85.0%	87.8%
	190736	身延町	87.3%	87.4%	87.8%	88.7%	91.8%
	190744	南部町	84.5%	84.2%	86.7%	88.2%	92.5%
	190793	昭和町	75.7%	78.2%	81.4%	83.9%	86.9%
	190975	道志村	80.7%	85.5%	82.8%	85.8%	88.9%
	190983	西桂町	80.2%	82.6%	82.4%	83.8%	87.6%
	190991	忍野村	81.8%	83.4%	84.5%	84.1%	88.4%
	191007	山中湖村	78.8%	79.0%	79.5%	80.9%	86.6%
	191049	鳴沢村	81.1%	83.9%	88.8%	87.1%	89.5%
	191064	小菅村	76.6%	80.8%	89.6%	87.6%	92.8%
	191072	丹波山村	71.3%	68.8%	77.2%	72.3%	90.8%
	191080	富士河口湖町	84.1%	84.6%	84.8%	85.6%	89.5%
191098	市川三郷町	78.6%	79.3%	81.3%	83.1%	89.4%	
191106	富士川町	81.9%	80.9%	83.2%	86.6%	90.1%	
		山梨県全体(国保)	81.3%	82.3%	83.0%	84.6%	88.9%
国民健康保険組合	193672	山梨県医師国民健康保険組合	67.7%	66.8%	67.9%	71.4%	79.8%
健康保険組合	06190037	山梨中央銀行健康保険組合	77.0%	81.8%	79.2%	84.4%	87.5%
	06190086	山梨県自動車販売整備健康保険組合	79.8%	82.8%	82.6%	85.0%	87.7%
	06190136	山日YBS健康保険組合	79.9%	81.9%	80.6%	82.4%	89.1%
	06190144	ファンック健康保険組合	80.7%	80.9%	81.4%	84.7%	87.6%
全国健康保険協会	01190016	全国健康保険協会山梨支部	80.4%	82.5%	82.8%	84.8%	88.8%
共済組合	32190415	山梨県市町村職員共済組合	79.6%	82.0%	82.7%	85.3%	88.9%
後期高齢者医療広域連合	39190004	山梨県後期高齢者医療広域連合	81.6%	82.2%	83.0%	84.5%	88.8%

※厚生労働省「保険者別の後発医薬品の使用割合(毎年度公表)より」

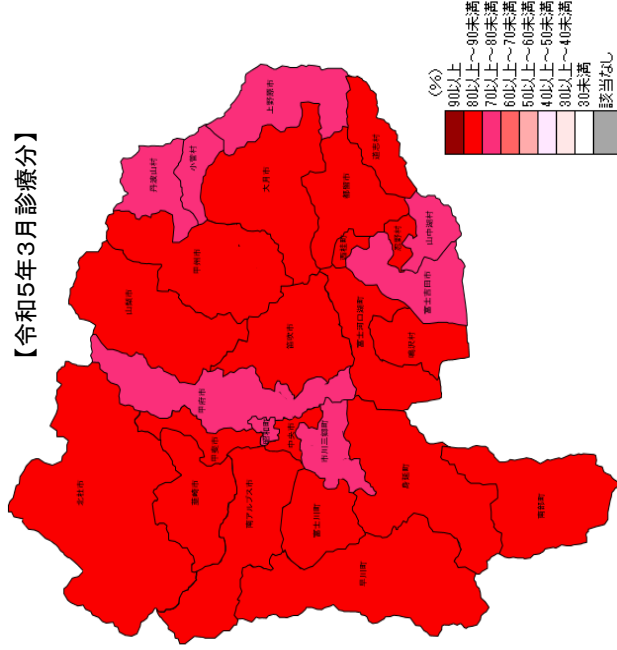
※毎年度、9月・3月の診療分のデータが厚生労働省ホームページに掲載される

※NDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出されている
 使用割合(数量シェア) = 後発医薬品の数量 ÷ (後発医薬品がある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)

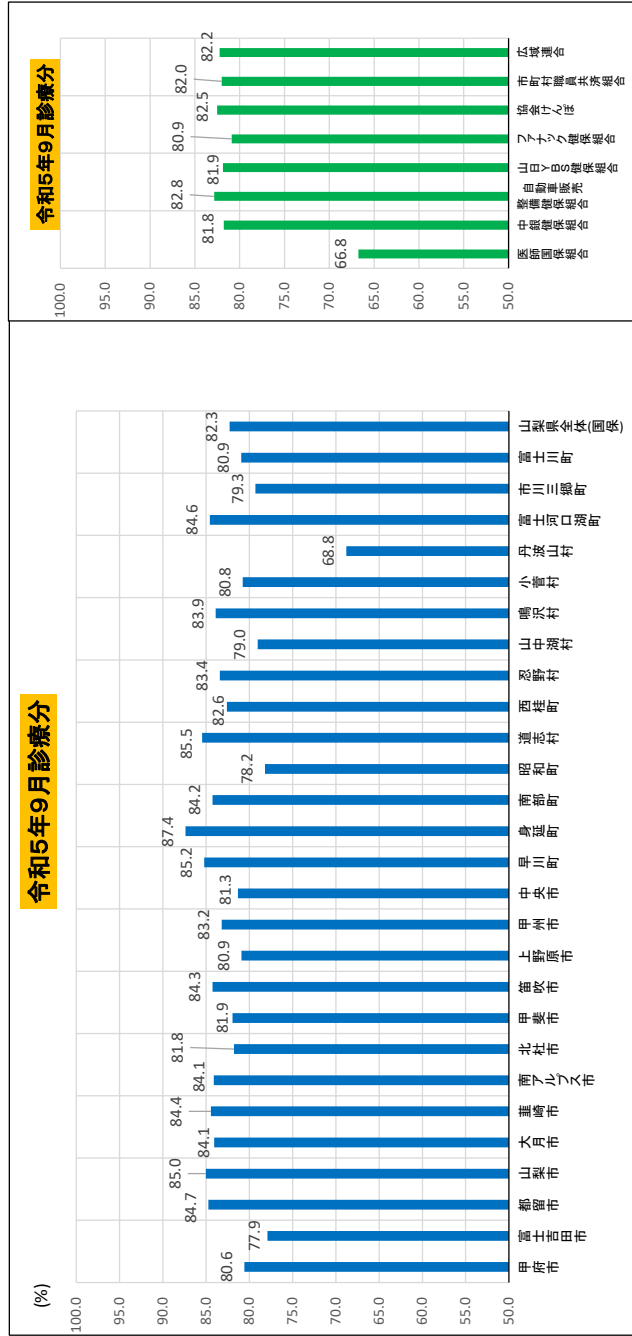
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合__グラフ



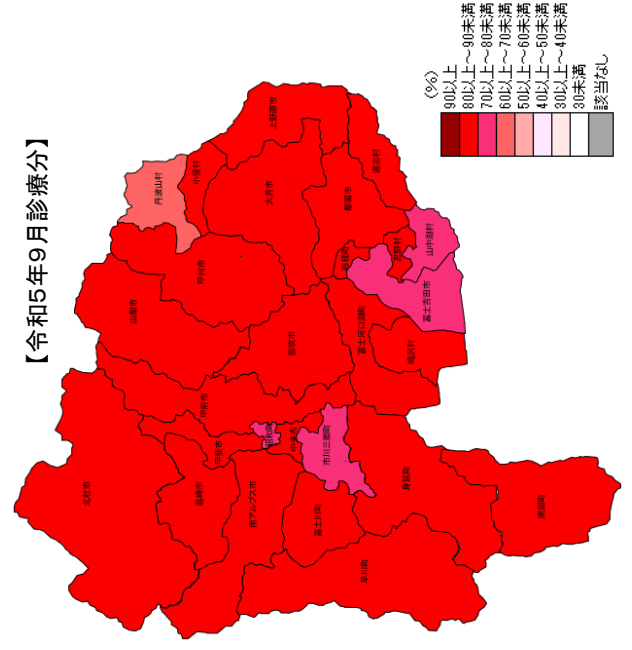
【令和5年3月診療分】



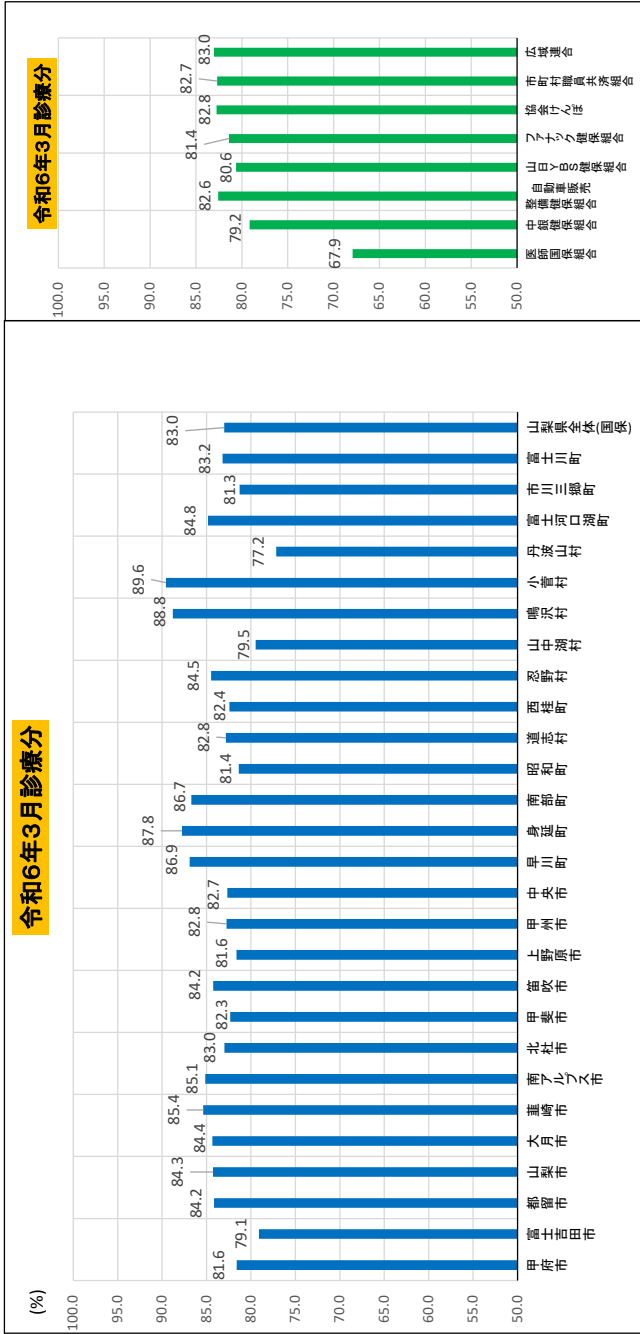
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合(グラフ・マップ)



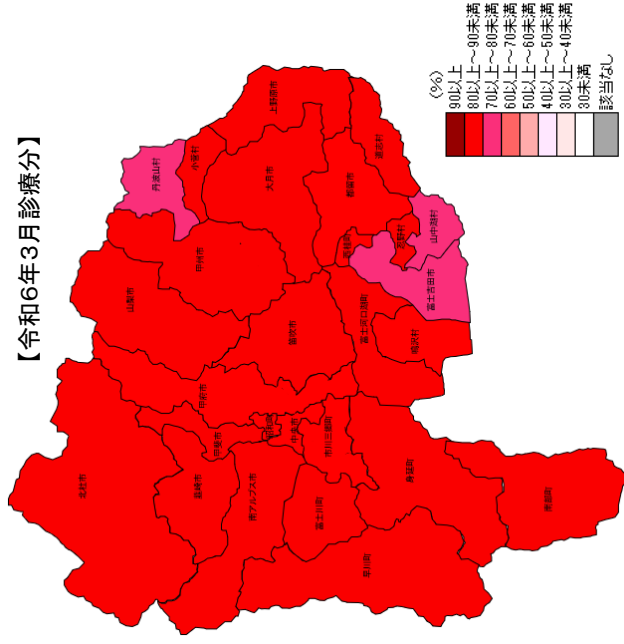
【令和5年9月診療分】



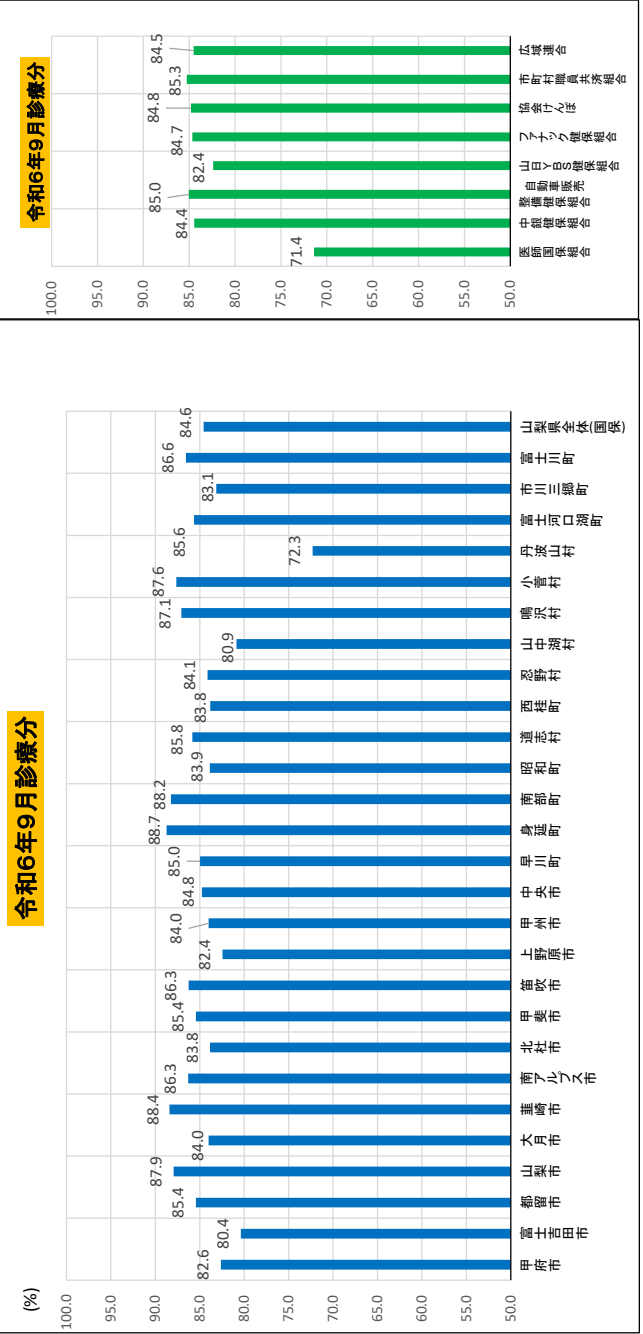
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ



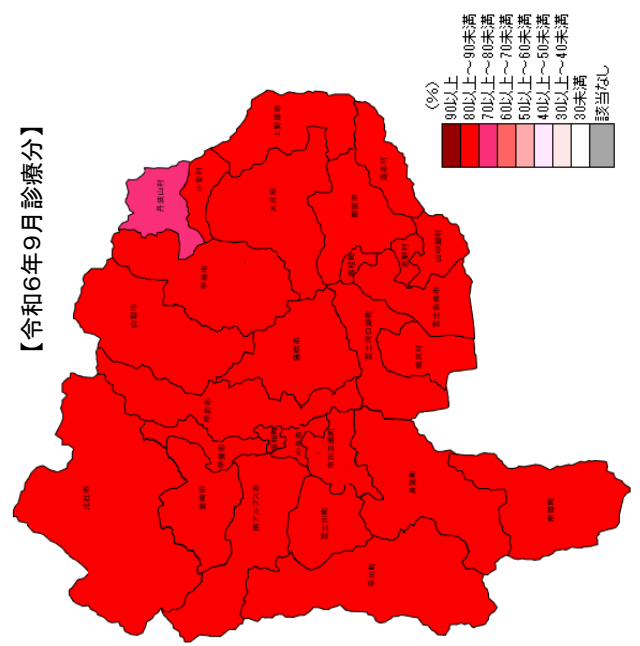
【令和6年3月診療分】



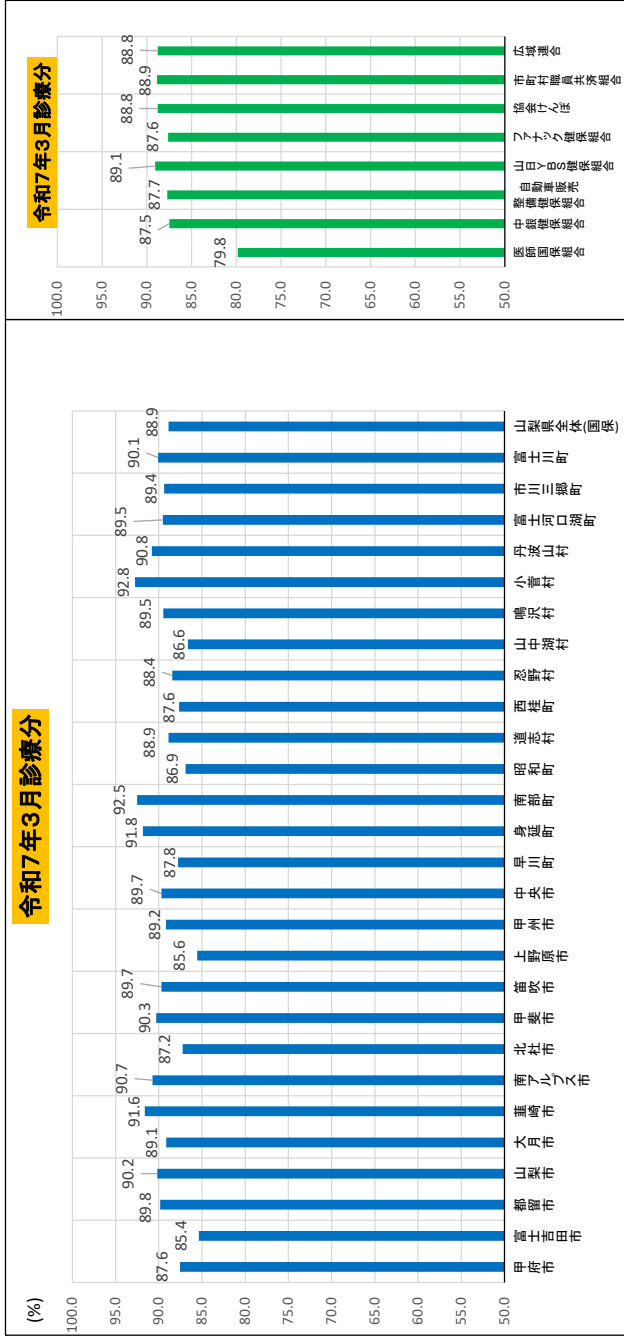
山梨県_国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



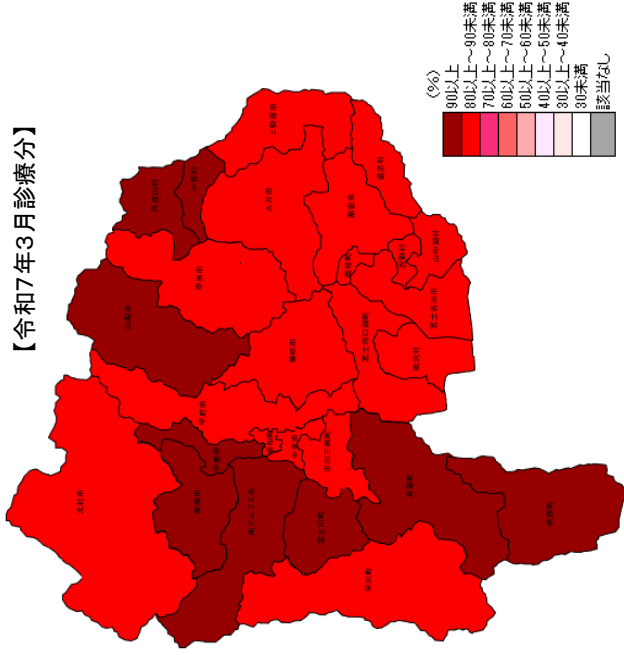
【令和6年9月診療分】



山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ

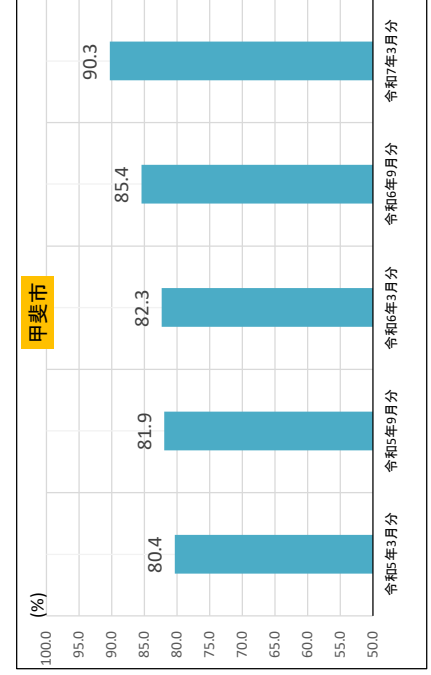
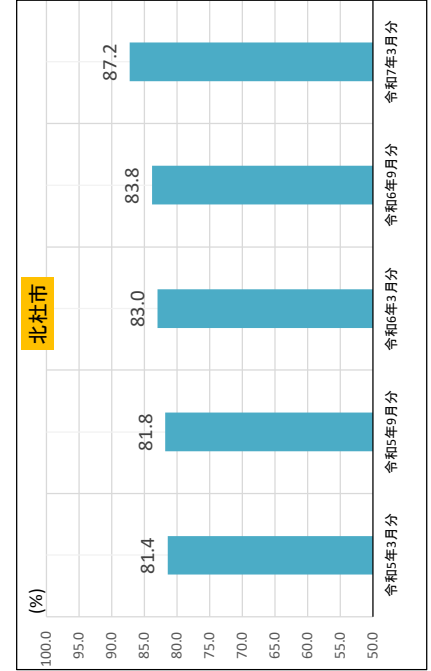
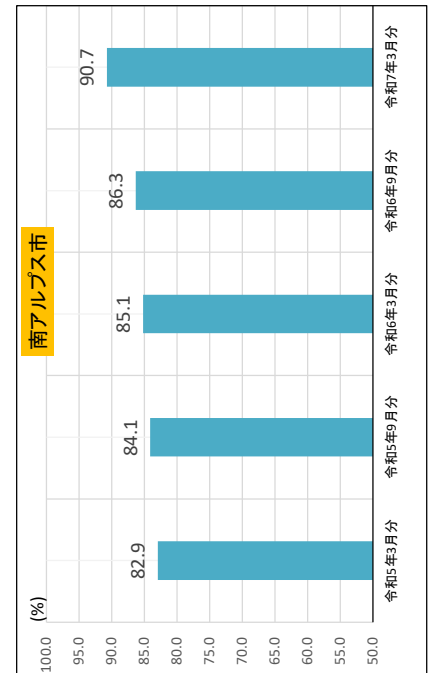
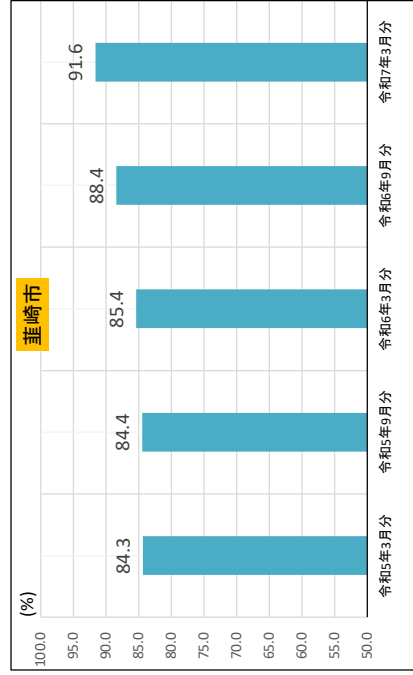
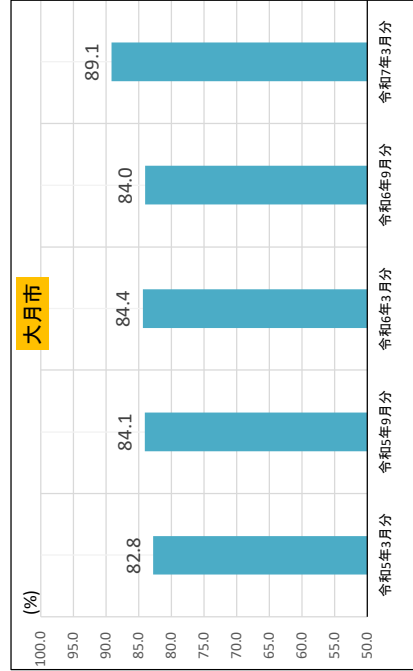
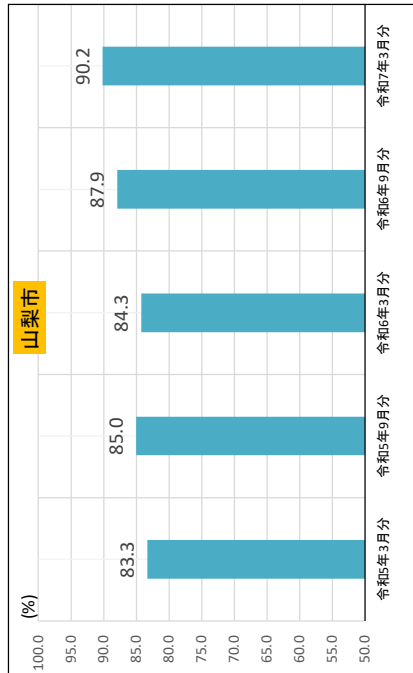
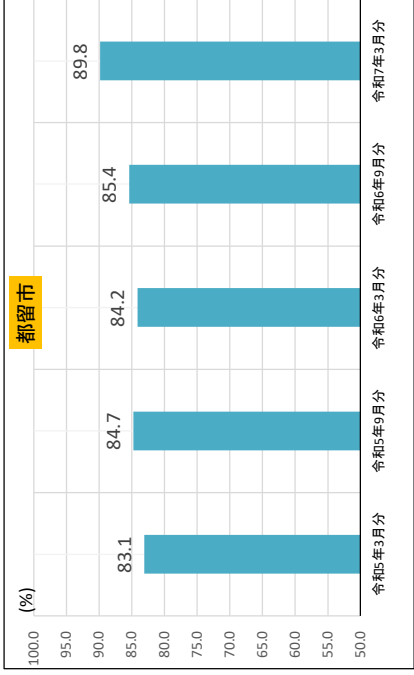
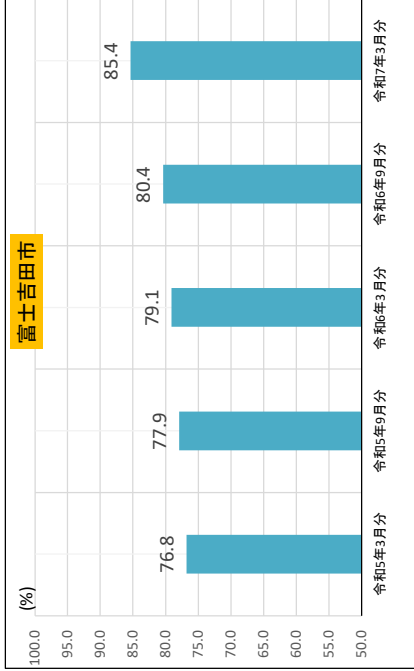
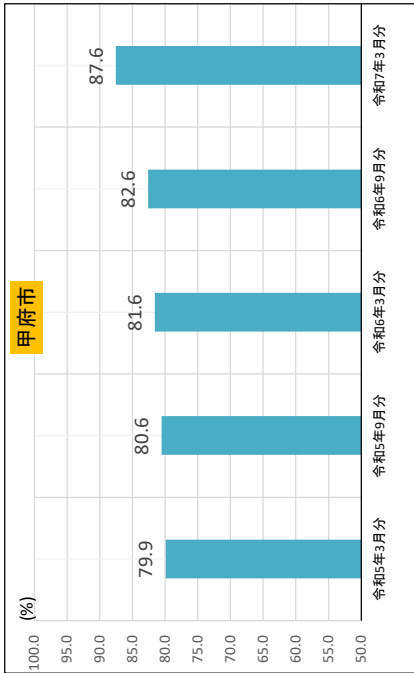


山梨県_国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



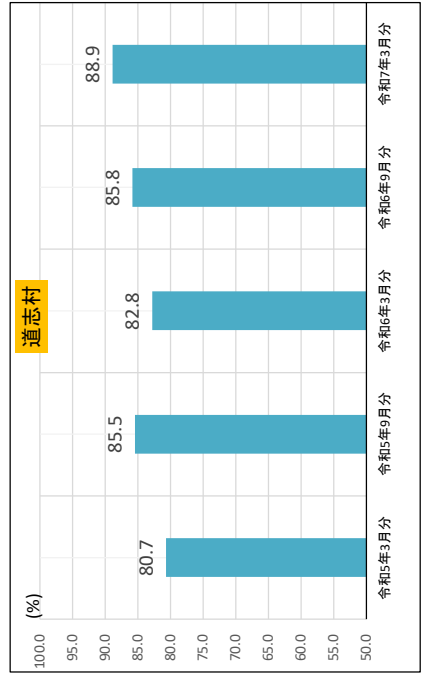
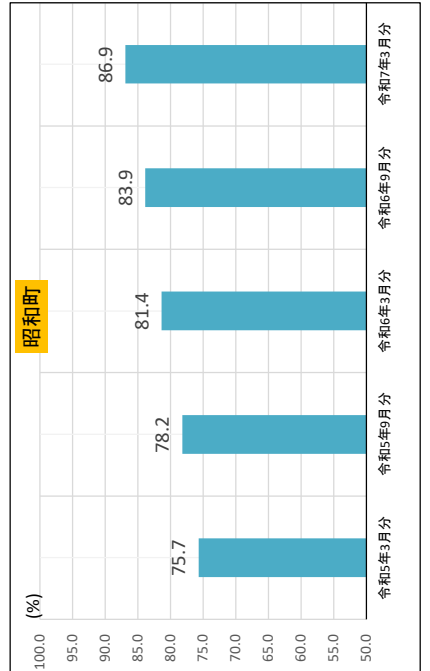
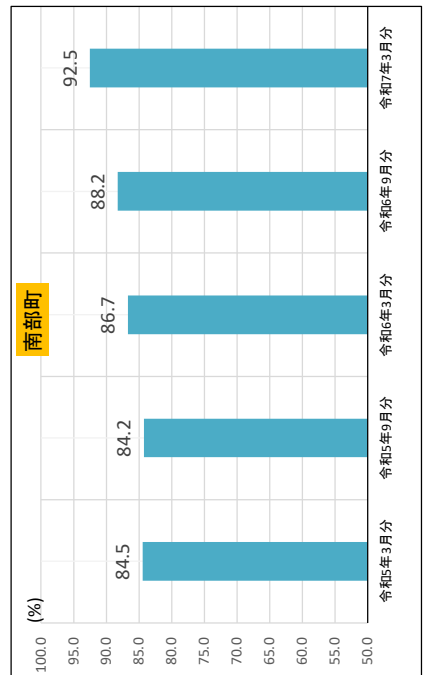
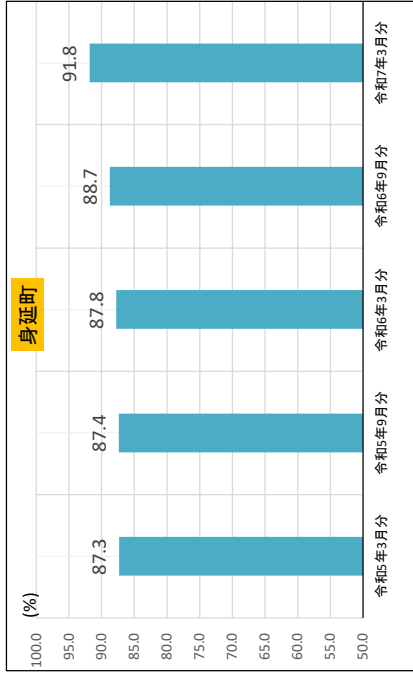
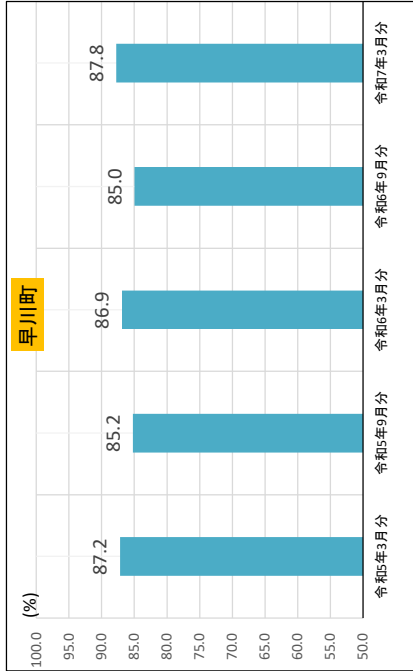
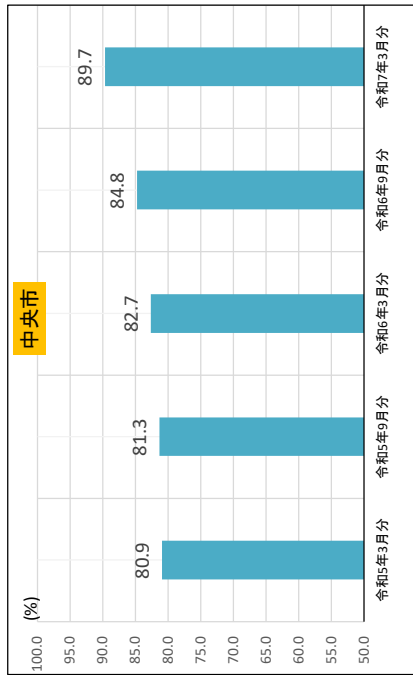
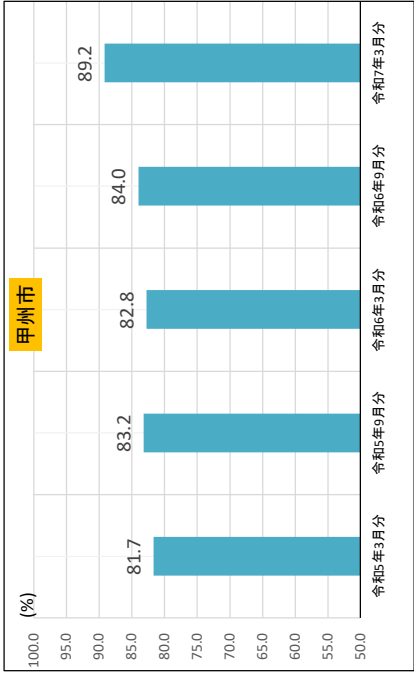
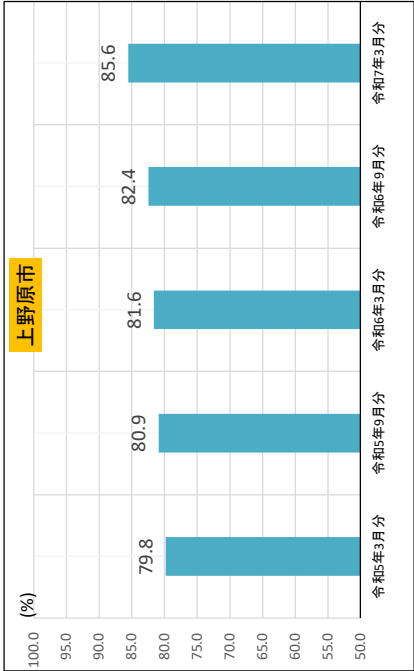
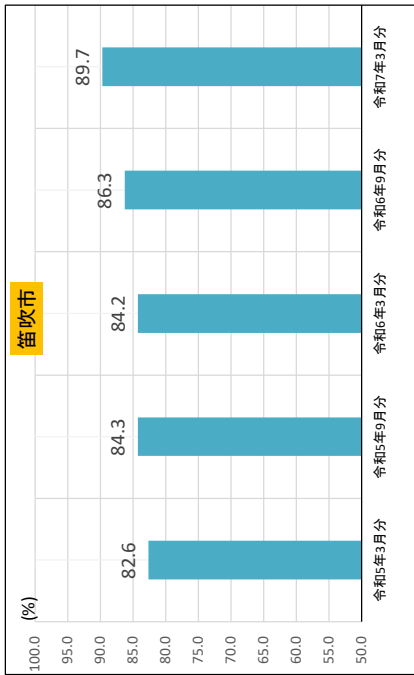
山梨県 保険者別、診療年月別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



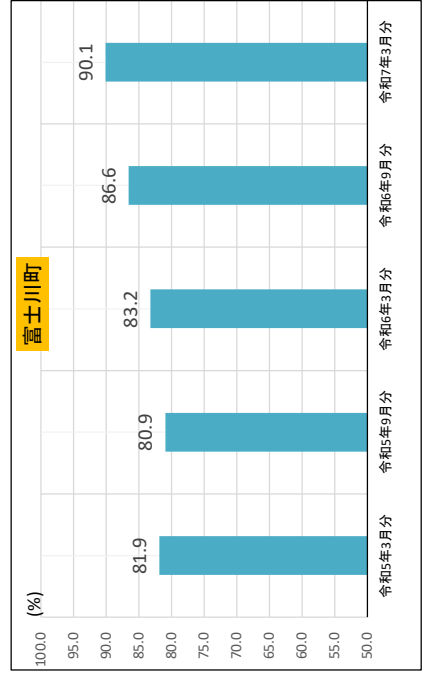
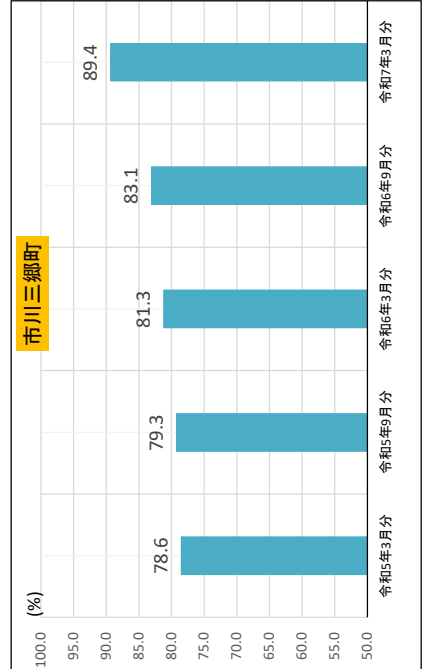
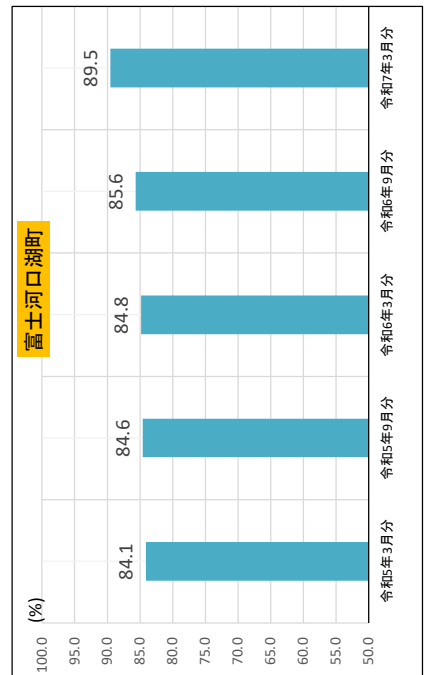
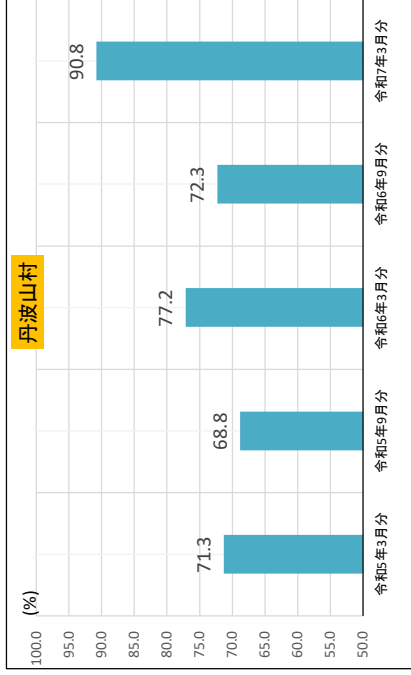
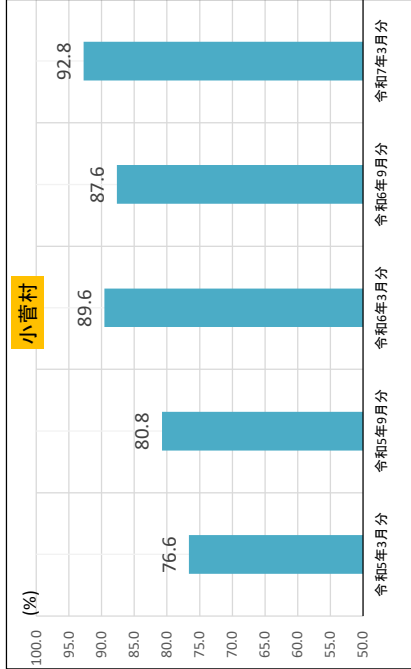
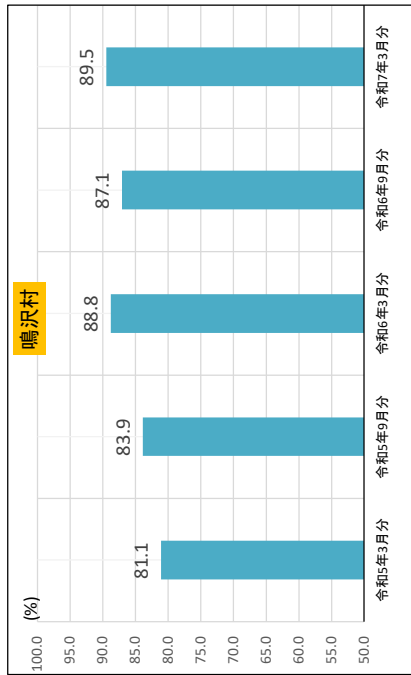
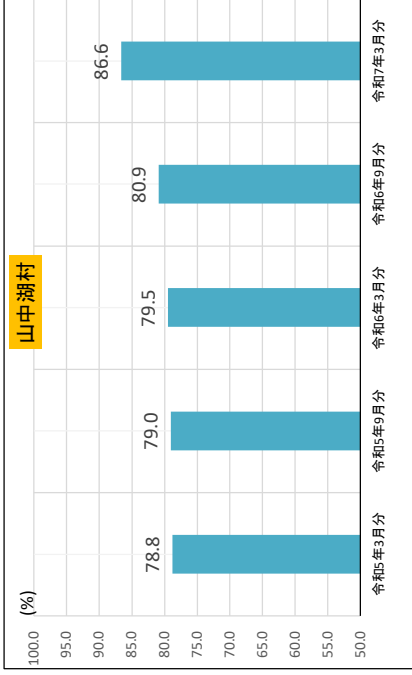
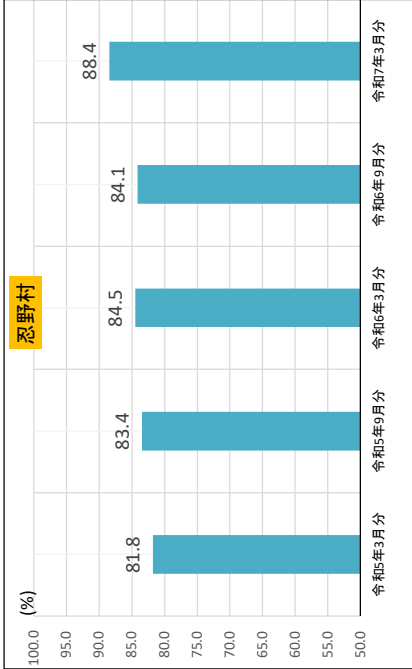
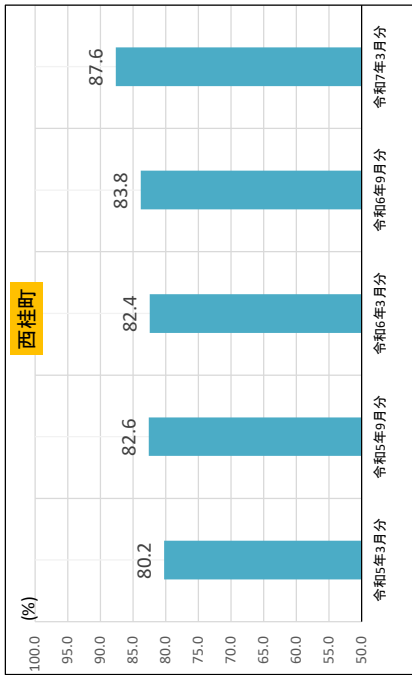
山梨県_保険者別、診療年月別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



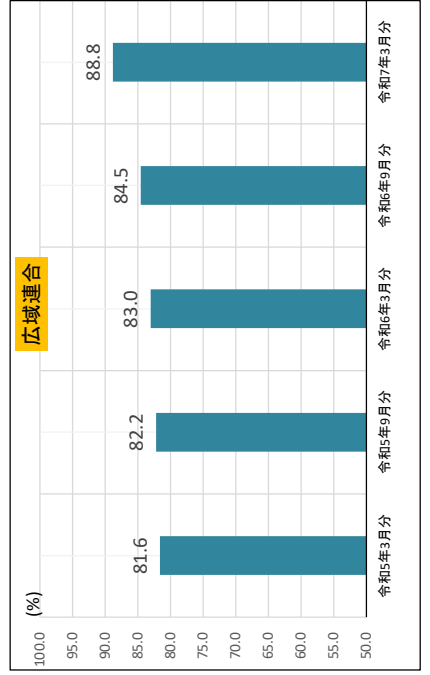
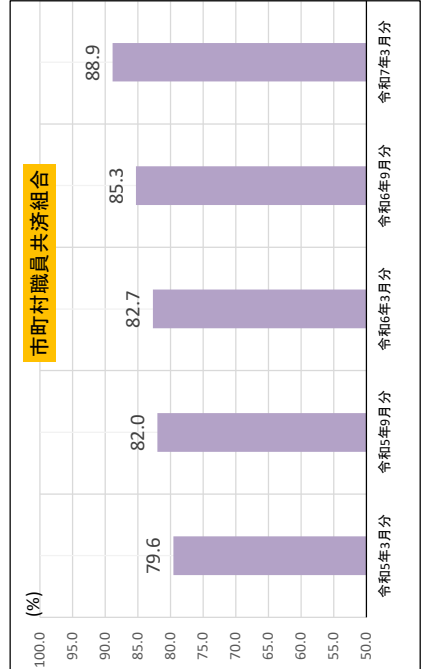
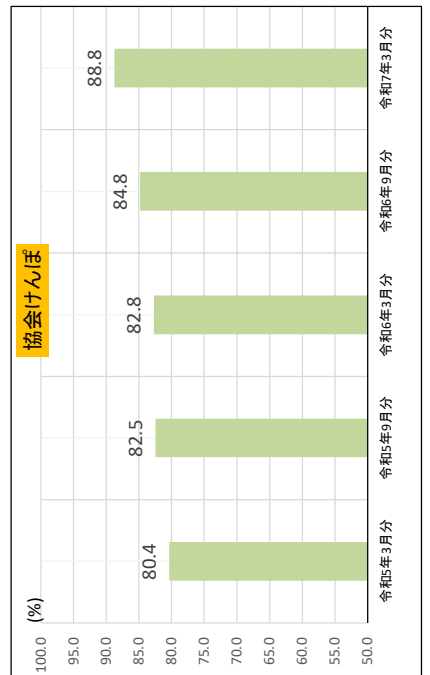
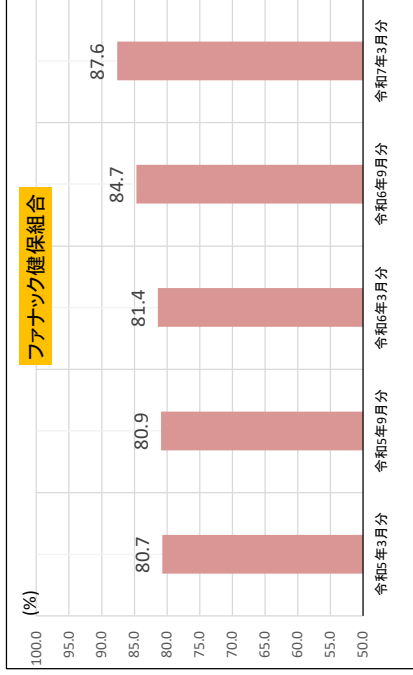
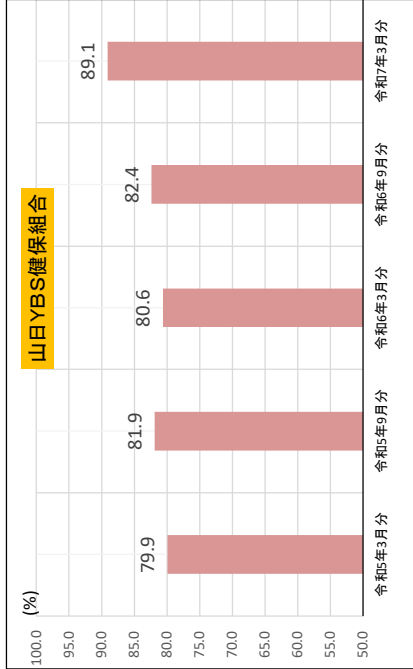
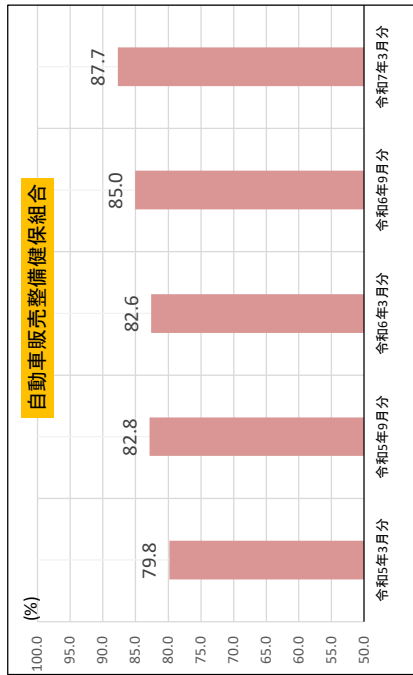
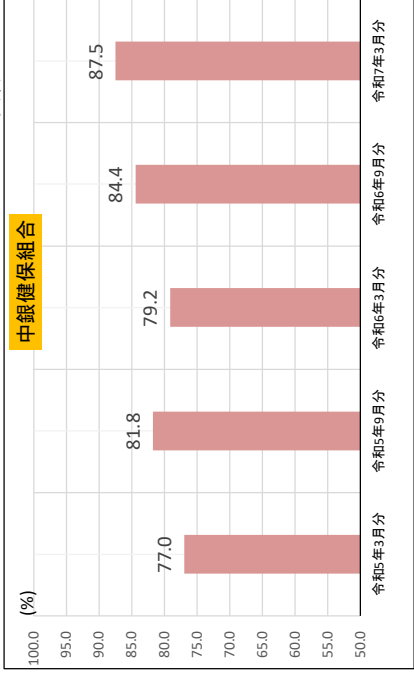
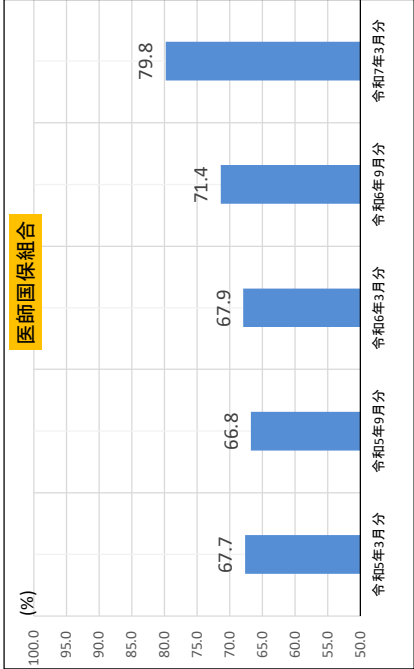
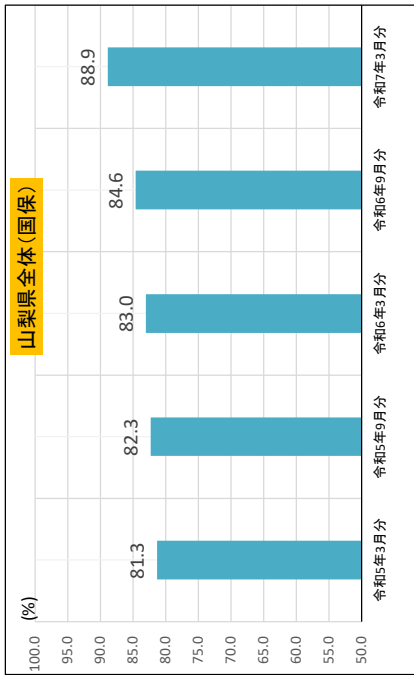
山梨県_保険者別、診療年月別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



山梨県_保険者別、診療年月別ジェネリック医薬品使用割合

資料№6-3



5. まとめ

《後発医薬品の使用促進について》

昨年の統計結果で使用割合が低かった、若い世代(5歳から19歳)も含めて、すべての世代において国及び山梨県で掲げた目標値 80%を超えていることが分かった。

また、保険者(地域)ごとにみても、すべての地域において 80%を超えていることが分かった。

これは、本協議会をはじめ、これまで関係機関が連携して普及啓発活動を行ってきたこと、また、令和6年10月から長期収載品(*)の処方等に係る特別の料金が発生する仕組みが導入されたことが要因と考えられる。

今後も、保険者協議会は、幅広い年代の方々に対し、ジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、イベント等の場や広報により周知していく。

*長期収載品・・・同じ成分の後発医薬品(ジェネリック医薬品)がある先発医薬品